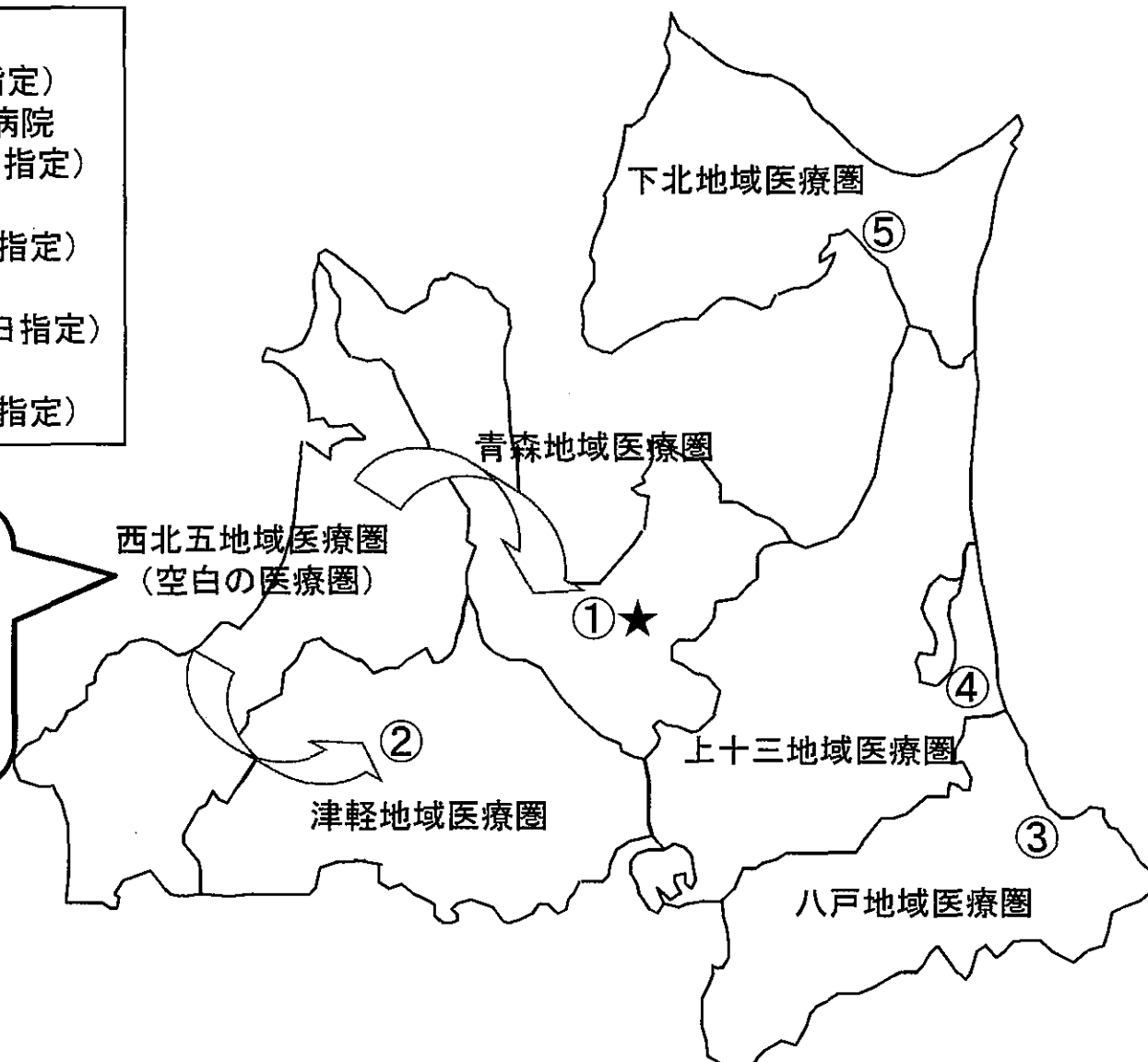


2 青 森 県

青森県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

- ①青森県立中央病院★
(平成20年2月8日指定)
- ②弘前大学医学部附属病院
(平成19年1月31日指定)
- ③八戸市立市民病院
(平成20年2月8日指定)
- ④三沢市立三沢病院
(平成19年1月31日指定)
- ⑤むつ総合病院
(平成20年2月8日指定)

西北五地域医療圏に住むがん患者は、青森地域及び津軽地域医療圏へ受診するため、おもに①及び②の病院でカバー

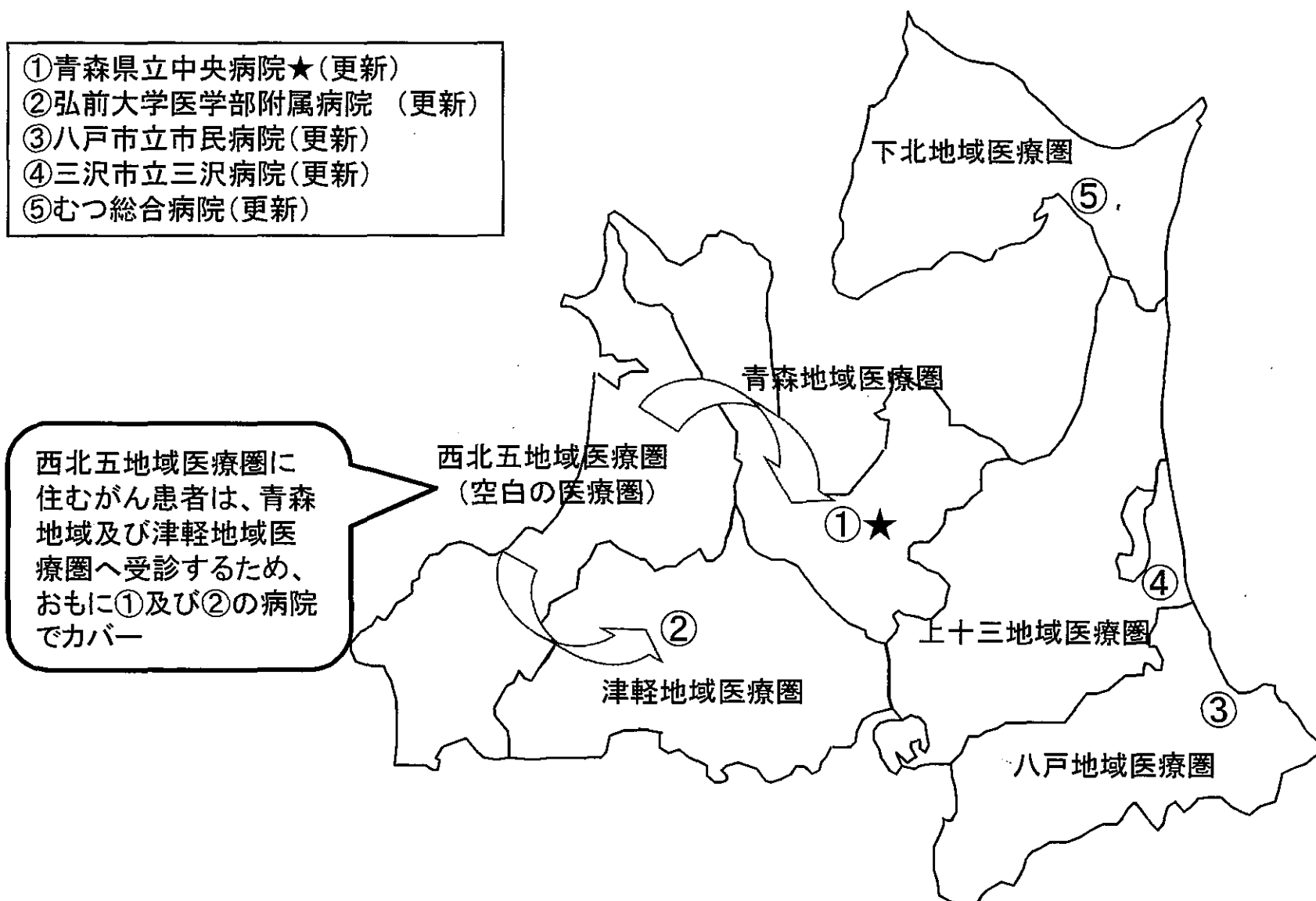


※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

資料 2

都道府県 or 地域 申請区分 病院名				年間入院患者数の状況	治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 センター	地域 連携
				年間 新入院 がん患者 数(1月～12月)	年間 新入院 患者数に 占める がん患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん		大腸がん		肝臓がん		乳がん		年間患者 実数 (1月～12月)		薬物療法 のべ患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療 依頼数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 センター 相談件 数(6 ～7月 の集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜 切 除 術 (EM R)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ 波 焼 灼 療 法	乳癌 手術	乳房 再 建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行う もの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	県立中央病院	(2210) 2976	(16.8) 22.8	(440) 182	(0) 1	(30) 16	(28) 16	(2) 3	(42) 33	(22) 16	(0) 1	(32) 6	(18) 24	(0) 0	(424) 334	(11) 11	(190) 256	(278) 313	(9) 20	(276) 240	(0) 2
2		更新	弘大附属病院	(1105) 1280	(12.2) 13.8	(139) 271	(6) 8	(8) 4	(6) 22	(0) 0	(27) 11	(5) 4	(5) 10	(7) 7	(12) 21	(0) 0	(521) 1557	(16) 33	(204) 191	(170) 217	(26) 24	(3) 47	(0) 0
3		更新	八戸市民病院	(2067) 2650	(19.8) 30.1	(101) 63	(7) 4	(12) 8	(7) 11	(0) 2	(33) 12	(8) 0	(2) 0	(1) 2	(14) 17	(0) 0	(263) 190	(0) 0	(281) 291	(177) 399	(14) 29	(26) 127	(0) 0
4		更新	市立三沢病院	(984) 748	(25.0) 20.4	(48) 21	(0) 0	(0) 0	(6) 3	(0) 0	(9) 3	(0) 3	(0) 1	(1) 4	(4) 8	(0) 0	(128) 86	(0) 0	(111) 258	(331) 349	(6) 6	(19) 28	(0) 0
5		更新	むつ総合病院	(1021) 988	(15.1) 17.4	(61) 28	(0) 0	(0) 0	(2) 5	(0) 0	(9) 10	(1) 0	(0) 3	(0) 1	(3) 3	(0) 0	(73) 48	(0) 0	(59) 64	(60) 84	(2) 4	(0) 6	(0) 0

青森県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



青森県のがん診療連携体制

全県

都道府県がん診療連携拠点病院

〈青森県立中央病院〉

- ・地域がん診療連携拠点病院への診療支援等
- ・青森県がん診療連携協議会

特定機能病院(腫瘍センター)

〈弘前大学医学部附属病院〉

- ・教育、研修
- ・医師の派遣

二次医療圏

地域がん診療連携拠点病院

西北五地域医療圏

〈未指定〉

青森地域医療圏

〈青森県立中央病院〉

下北地域医療圏

〈むつ総合病院〉

補完

補完

 津軽地域医療圏
 〈弘前大学医学部
 附属病院〉

上十三地域医療圏

〈三沢市立三沢病院〉

八戸地域医療圏

〈八戸市立市民病院〉

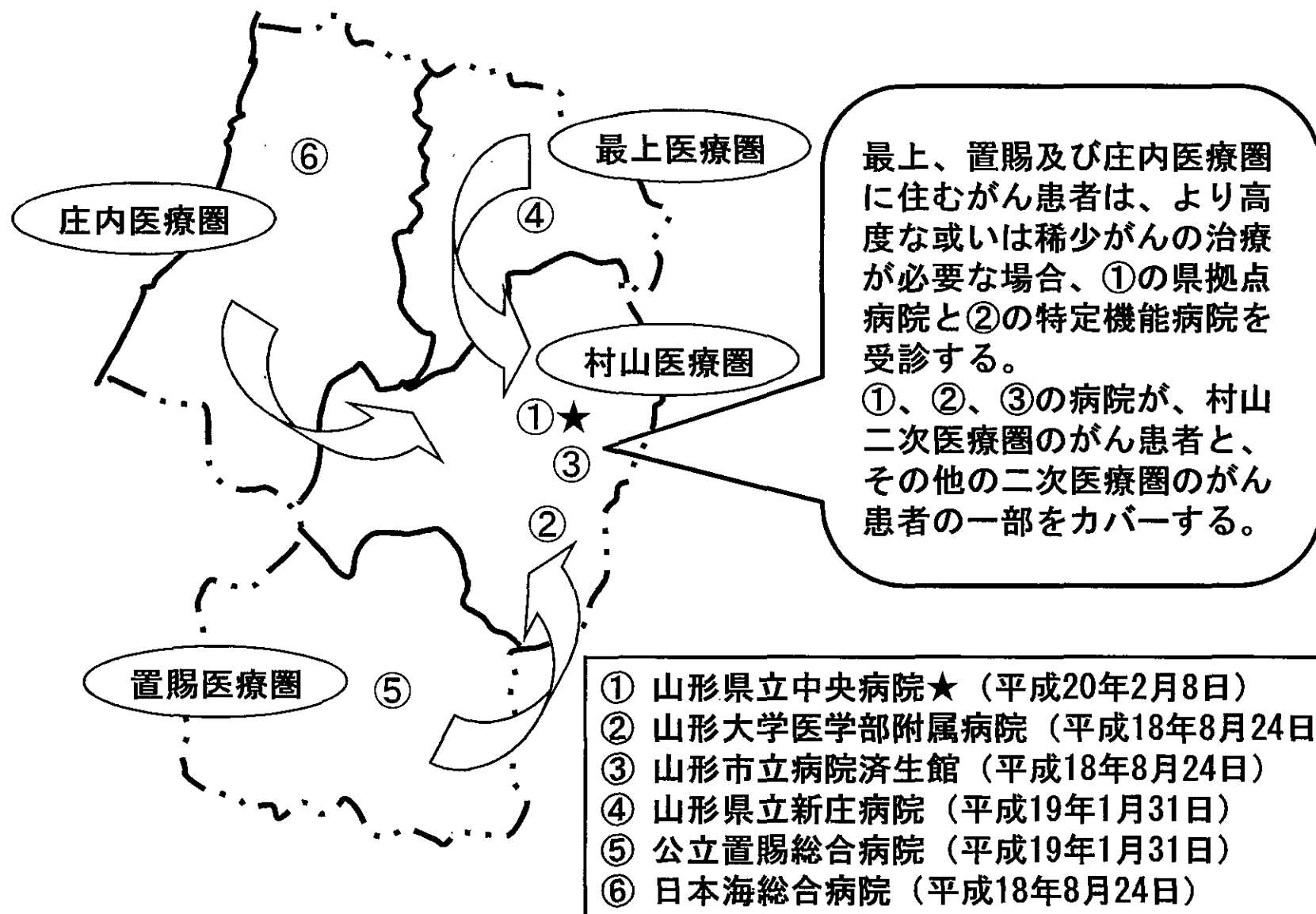


がん医療を担う関係機関(病院、診療所、訪問看護ステーション、調剤薬局等)

6 山 形 県

山形県健康福祉部
保健薬務課
健康やまがた推進室

山形県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

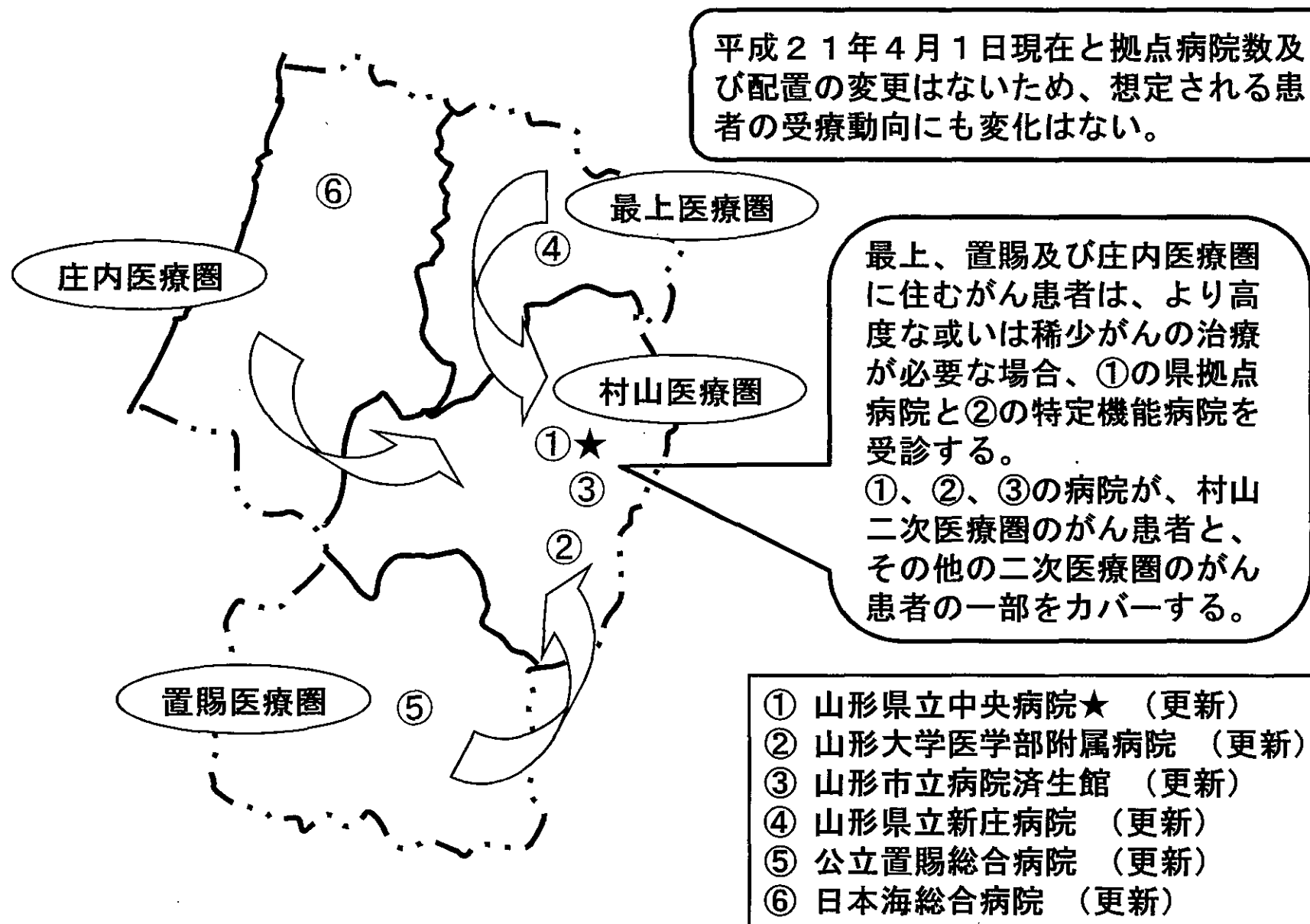


資料 2

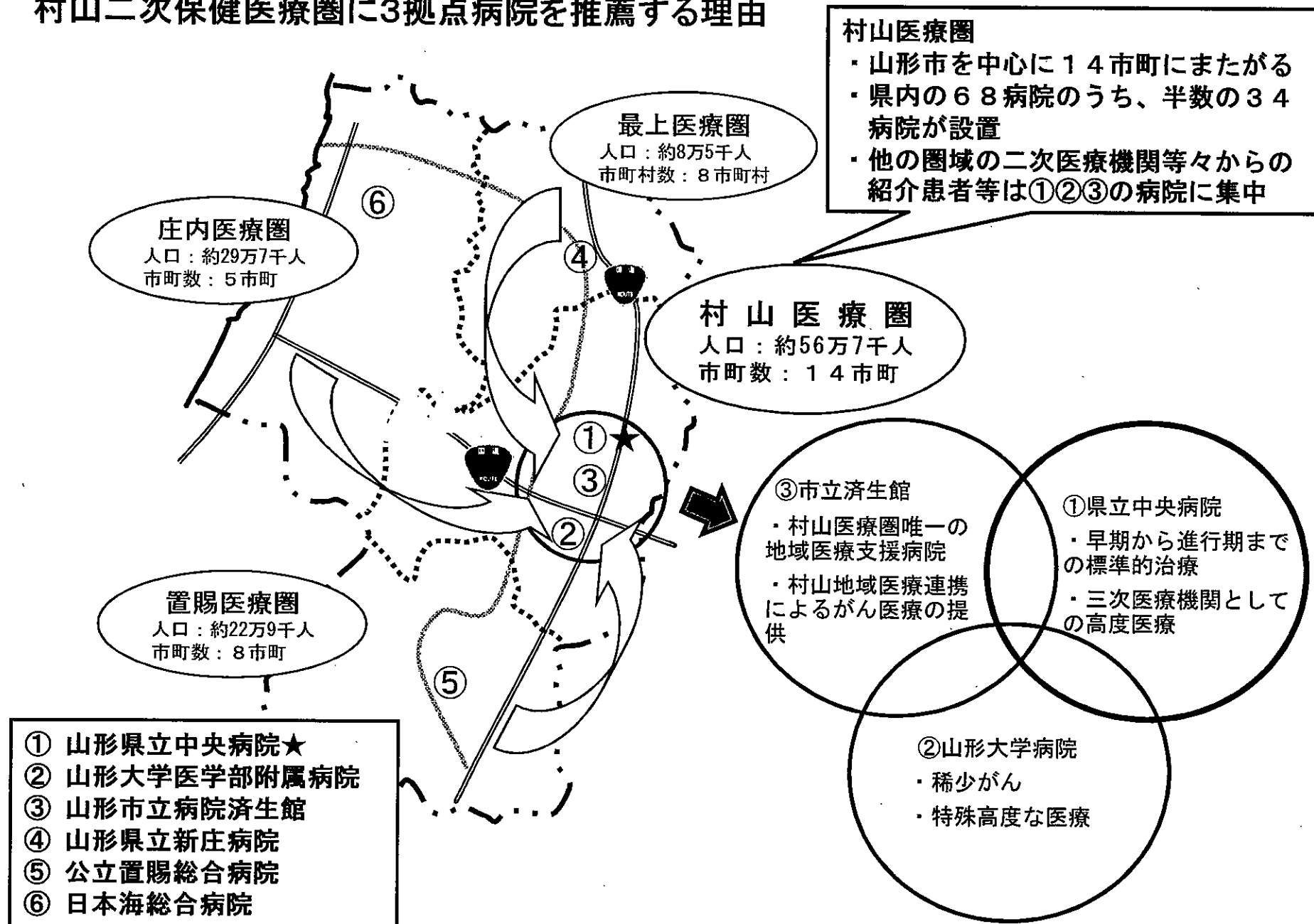
※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

都道府県 or 地域			申請 区分	病院名	年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ~12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	治療件数(手術件数)6~7月の集計										放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月~7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
								肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月~12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規診 療依頼 数 (6~7 月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数 (6~7 月の 集計)	退院 時共 同指 導料2 (6~7 月の 集計)
								開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘膜 切除 術 (EM R)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	山形県立 中央病院	(4256) 3637	(29.8) 27.5	(678) 566	(5) 8	(9) 6	(21) 32	(17) 15	(15) 32	(6) 10	(0) 4	(2) 4	(27) 27	(0) 0	(374) 393	(3) 5	(209) 222	(205) 195	(10) 13	(47) 80	(0) 0	
2		更新	山形大学 医学部 附属病院	(2202) 2543	(26.4) 29.3	(114) 103	(3) 3	(3) 4	(3) 4	(0) 1	(2) 6	(0) 9	(0) 0	(0) 3	(7) 8	(0) 0	(358) 548	(12) 12	(426) 403	(319) 430	(0) 8	(136) 113	(0) 0	
3		更新	山形市立 病院 済生館	(1725) 1889	(15.2) 16.6	(95) 84	(1) 0	(0) 1	(7) 4	(0) 0	(13) 10	(9) 8	(2) 2	(5) 0	(5) 15	(0) 0	(160) 172	(0) 0	(89) 94	(65) 77	(11) 21	(12) 16	(0) 1	
4		更新	山形県立 新庄病院	(739) 505	(9.6) 7.7	(34) 11	(3) 0	(0) 0	(3) 1	(5) 0	(7) 1	(0) 0	(0) 0	(1) 0	(1) 2	(0) 0	(79) 74	(0) 0	(168) 162	(222) 285	(4) 10	(10) 32	(0) 0	
5		更新	公立置賜 総合病院	(2628) 2680	(28.7) 29.0	(106) 122	(3) 1	(0) 4	(6) 10	(0) 0	(11) 11	(1) 1	(1) 2	(5) 13	(7) 5	(0) 0	(195) 196	(0) 0	(163) 240	(175) 220	(18) 4	(10) 32	(0) 0	
6		更新	日本海 総合病院	(1140) 3509	(12.8) 32.2	(172) 172	(4) 5	(8) 10	(22) 19	(0) 0	(39) 23	(22) 17	(4) 9	(0) 0	(15) 16	(0) 0	(111) 133	(11) 8	(52) 169	(83) 162	(8) 13	(12) 70	(0) 8	

山形県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



村山二次保健医療圏に3拠点病院を推薦する理由



都道府県がん診療連携拠点病院（山形県立中央病院）の 未充足状況と今後の取組状況等について

未充足要件

- ・地域連携クリティカルパスの一覧作成・共有している。（A要件：未充足）

山形県の地域連携クリティカルパスの整備に関する方針

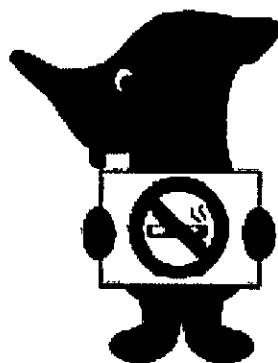
- ・平成23年9月まで、5部位についての地域連携クリティカルパスが整備されていること。

これまでの取組

- ・山形県がん診療連携協議会に「地域連携パス部会」を設置
- ・同時に胃、大腸、肝臓、乳、肺の5部位に対して小班を設置
- ・これまで3回検討会を開催し、5大がんの地域連携パスの整備方針について検討
- ・平成23年9月までに①医療機関の役割分担表、②共同診療計画表、③私のカルテ、④医療連携のポスター（病院広告用）の整備を決定

今後の予定

- ・県内医療機関がどのような病診連携に関われるかを把握するためのアンケート調査の実施
- ・医師会の協力を得て、開業医に対する地域連携の必要性に関する啓発活動を実施し、協力を依頼する。
- ・①、②については、部会の小班（がん種）ごとに作成する。
- ・③、④については、県拠点病院の県立中央病院が、県内共通版を作成する。



千葉国体
千葉大会
2010

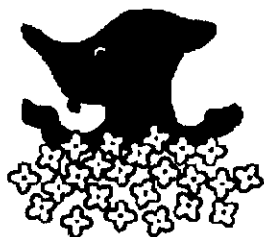
12

千葉

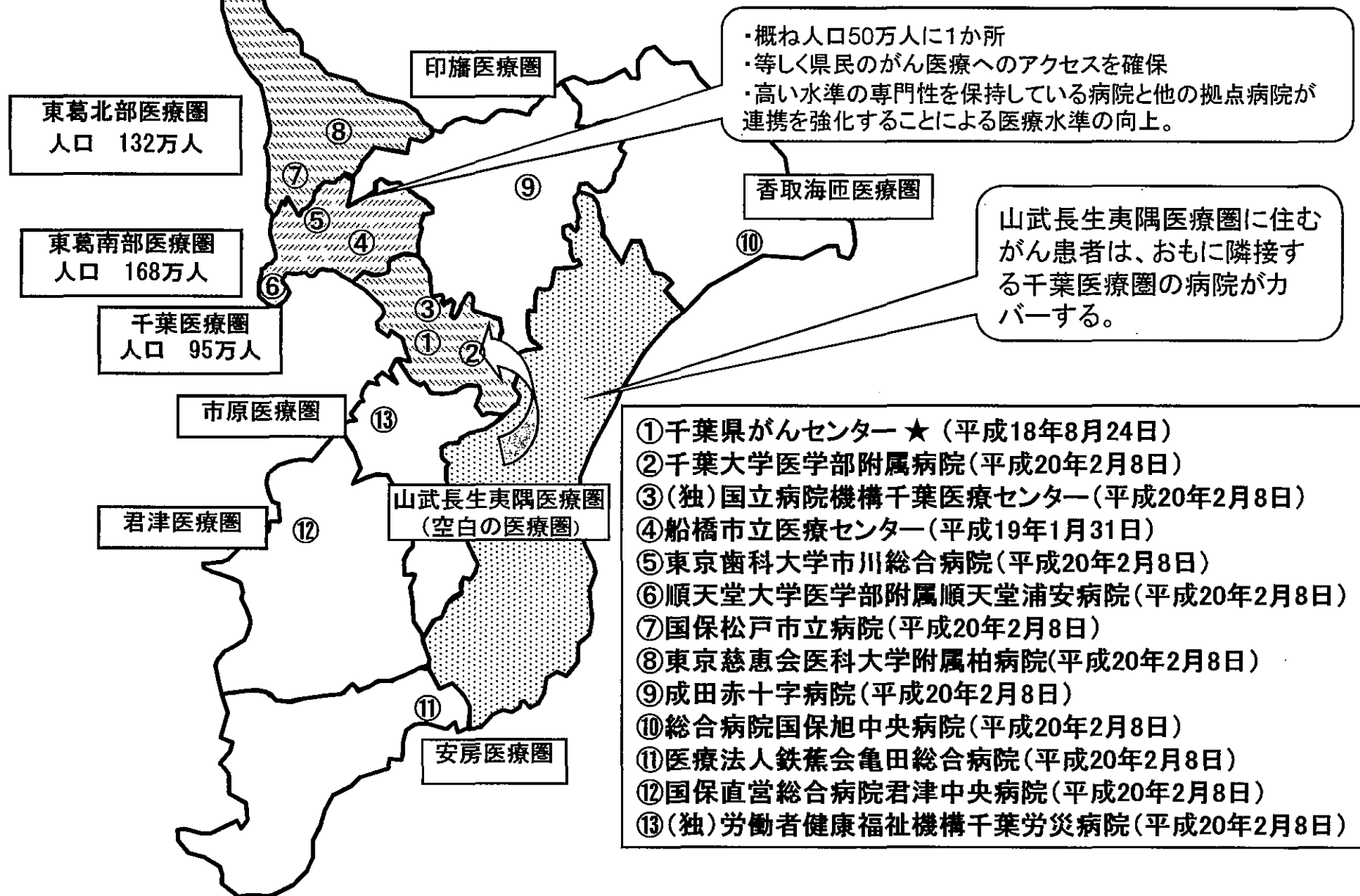
県



平成21年2月3日



千葉県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



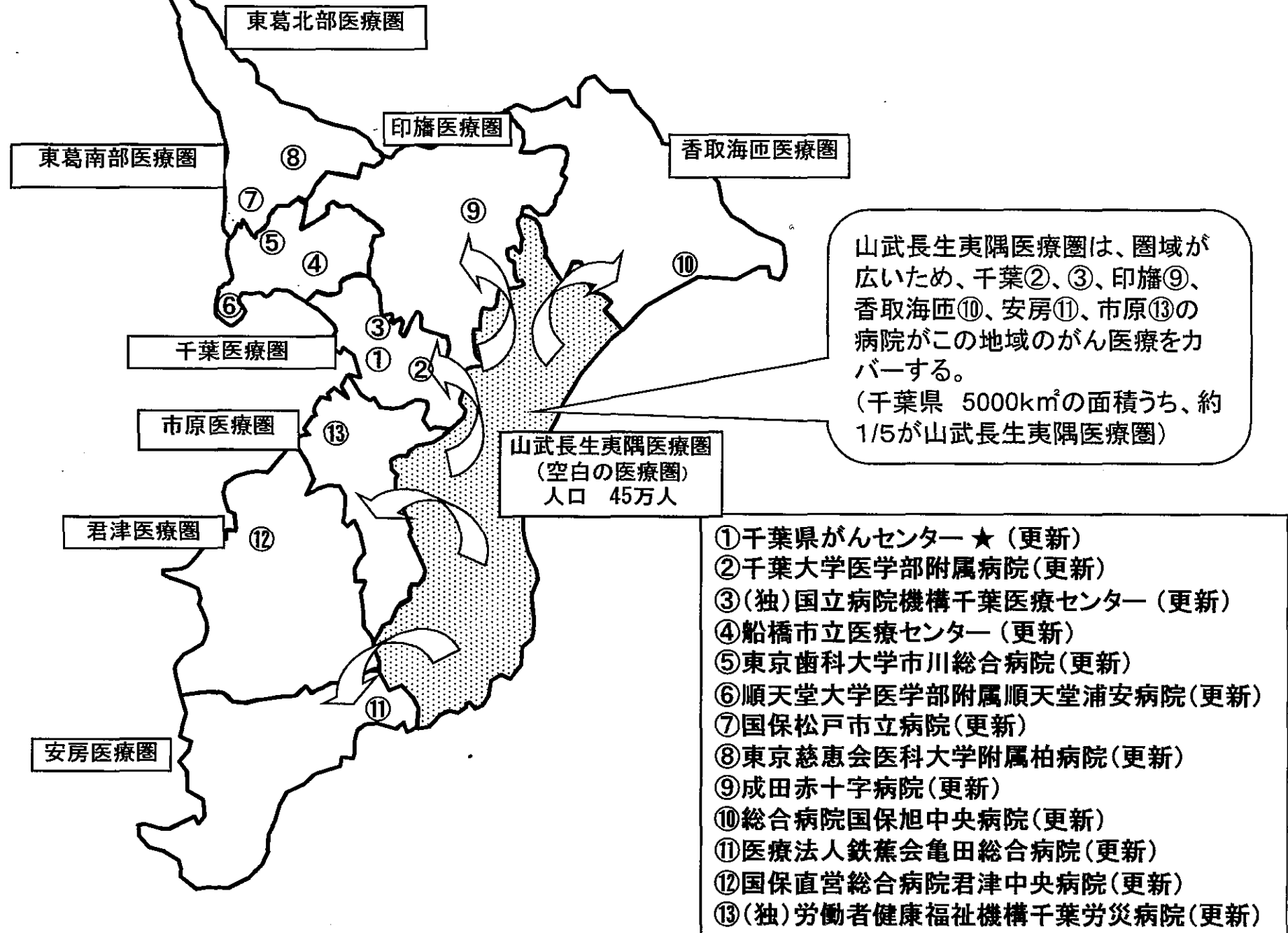
資料 2 - 1

都道府県 or 地域 申請区分				年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月～7月の集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
				年間 新入院 がん患者 数(1月～12月)	年間 新入院患者に 占めるがん患者 の割合(%)	悪性 腫瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する 新規診療 依頼数 (6～7月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件数 (6～7月の 集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7月の 集計)	
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜 切除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うもの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
1	★	更新	がんセン ター	(6262) 6151	(92.7) 93.0	(649) 418	(1) 2	(14) 18	(20) 31	(1) 0	(26) 22	(20) 14	(7) 5	(1) 1	(59) 66	(0) 0	(752) 801	(39) 54	(290) 308	(833) 960	(34) 86	(1334) 867	(12) 11	
2		更新	千葉大 学病院	(3292) 5867	(23.9) 40.9	(297) 351	(4) 9	(22) 14	(12) 17	(13) 8	(15) 15	(13) 21	(14) 14	(24) 31	(31) 38	(0) 0	(618) 700	(24) 35	(80) 388	(40) 497	(16) 13	(58) 535	(0) 0	
3		更新	千葉医 療セン ター	(2024) 2092	(25.0) 24.3	(106) 102	(0) 0	(0) 0	(13) 6	(4) 5	(19) 11	(0) 0	(4) 0	(2) 14	(9) 8	(0) 0	(185) 186	(0) 0	(120) 159	(132) 174	(12) 44	(4) 72	(0) 10	
4		更新	船橋医 療セン ター	(2089) 2172	(21.7) 21.4	(134) 161	(1) 0	(7) 10	(16) 20	(2) 0	(16) 15	(8) 11	(2) 3	(1) 1	(22) 21	(0) 0	(322) 219	(0) 0	(126) 153	(248) 243	(19) 41	(24) 289	(0) 0	
5		更新	市川総 合病院	(2246) 2818	(18.9) 23.6	(92) 113	(0) 0	(0) 0	(9) 9	(2) 0	(21) 17	(3) 5	(1) 0	(0) 0	(13) 18	(0) 0	(202) 213	(4) 6	(145) 113	(501) 118	(13) 23	(163) 254	(0) 0	
6		更新	順天堂 浦安病 院	(2220) 2643	(16.0) 19.0	(143) 172	(0) 10	(9) 0	(7) 8	(0) 0	(17) 2	(2) 2	(1) 3	(3) 0	(26) 32	(0) 0	(319) 348	(0) 0	(154) 134	(423) 240	(21) 27	(238) 258	(0) 0	

資料 2 - 2

			年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計											放射線治療		がんに係る薬物療法(6月～7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間 新入院 患者数 (1月～12月)	年間 新入院 患者数に 占める がん患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規診 療依頼 数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 セン ター 相談 件数 (6～7 月の 集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜切 除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
7	更新	松戸市立病院	(2360) 2132	(20.8) 17.6	(93) 39	(1) 0	(7) 1	(9) 5	(0) 0	(7) 6	(0) 0	(2) 0	(1) 0	(14) 8	(0) 0	(413) 348	(6) 3	(114) 136	(84) 107	(3) 59	(110) 257	(0) 0
8	更新	慈恵柏病院	(2992) 2530	(24.9) 21.2	(282) 210	(1) 5	(6) 4	(10) 11	(1) 2	(18) 4	(3) 9	(4) 2	(1) 6	(22) 21	(0) 0	(255) 338	(27) 24	(92) 110	(97) 158	(6) 16	(52) 282	(1) 3
9	更新	成田赤十字病院	(2893) 3026	(20.9) 23.2	(57) 147	(6) 0	(0) 4	(12) 10	(0) 0	(11) 11	(10) 17	(5) 6	(9) 7	(10) 15	(0) 0	(306) 280	(0) 0	(436) 169	(468) 312	(9) 3	(35) 32	(2) 0
10	更新	旭中央病院	(3683) 4249	(21.6) 22.7	(106) 588	(13) 7	(4) 4	(12) 16	(0) 0	(21) 35	(4) 4	(7) 7	(5) 5	(17) 26	(0) 0	(437) 370	(58) 0	(104) 145	(476) 633	(10) 9	(725) 484	(0) 2
11	更新	亀田総合病院	(4003) 4427	(22.0) 23.5	(269) 251	(10) 11	(2) 0	(18) 18	(3) 1	(22) 12	(3) 2	(5) 2	(10) 12	(32) 51	(2) 0	(558) 587	(12) 1	(197) 200	(263) 650	(43) 43	(102) 157	(0) 0
12	更新	君津中央病院	(2178) 2374	(17.0) 18.5	(82) 86	(1) 2	(14) 7	(11) 14	(0) 4	(14) 18	(2) 7	(11) 3	(3) 4	(9) 6	(0) 0	(270) 221	(0) 0	(92) 128	(162) 146	(3) 5	(263) 198	(0) 0
13	更新	千葉労災病院	(2258) 2674	(23.8) 27.7	(96) 129	(0) 0	(9) 20	(9) 14	(0) 0	(4) 8	(2) 8	(2) 6	(2) 5	(14) 15	(0) 0	(194) 189	(0) 0	(177) 147	(215) 130	(11) 11	(44) 75	(0) 0

千葉県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向 資料 3



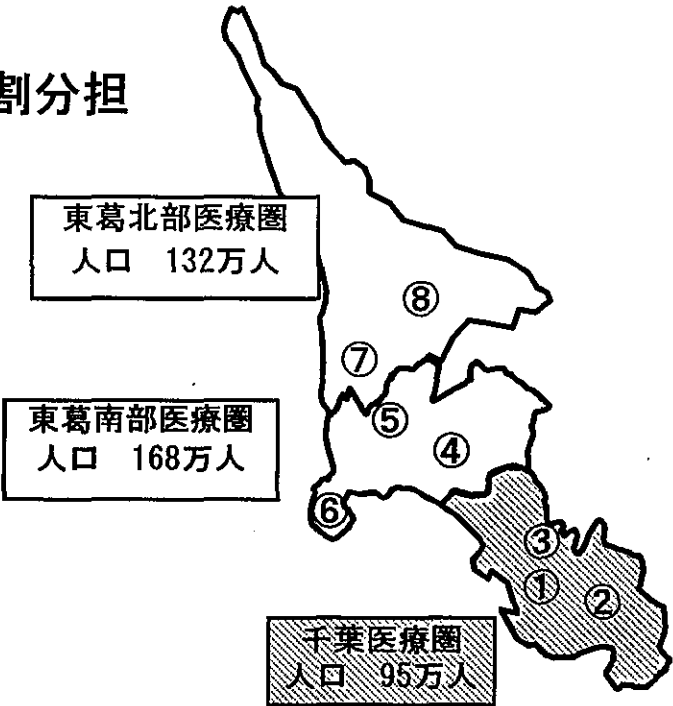
千葉県のがん診療連携拠点病院の考え方

がん医療の均てん化、患者主体の医療の実現による県民への質の高い医療の提供

1 全ての県民に質の高いがん医療へのアクセスの確保のため、一定人口規模(概ね50万人)単位に拠点病院を整備

複数のがん診療連携拠点病院のある医療圏の役割分担

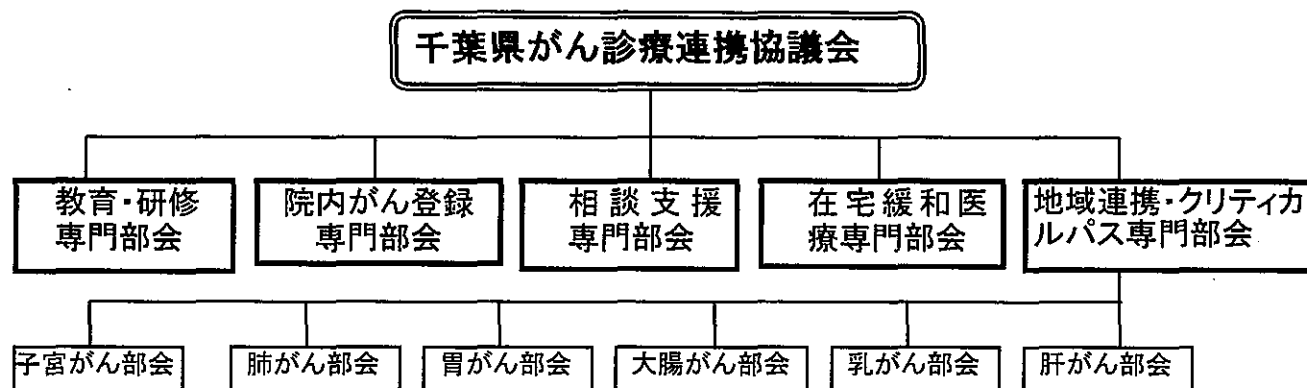
千葉	②千葉大学病院	がん医療のための人材育成 (特定機能病院)、5大がん 希少がん種
	③千葉医療センター	5大がん 頭頸部腫瘍、食道がん
東葛南部	④船橋医療センター	5大がん 肺がん
	⑤市川総合病院	5大がん 口腔がん
	⑥順天堂浦安病院	5大がん 血液がん、黒色腫
東葛北部	⑦松戸市立病院	5大がん 小児がん
	⑧慈恵柏病院	5大がん 子宮がん



2 がん診療連携拠点病院間のネットワークの構築・高度先進医療機関との連携

➤千葉県がんセンターが中心となって、拠点病院、国立がんセンター東病院、放射線医学総合研究所をメンバーとして協議会設置。小部会等も設置して連携を図っている。

➤TV会議システムと遠隔画像診断システムを導入し、他のがん診療の病院と連携を図る。



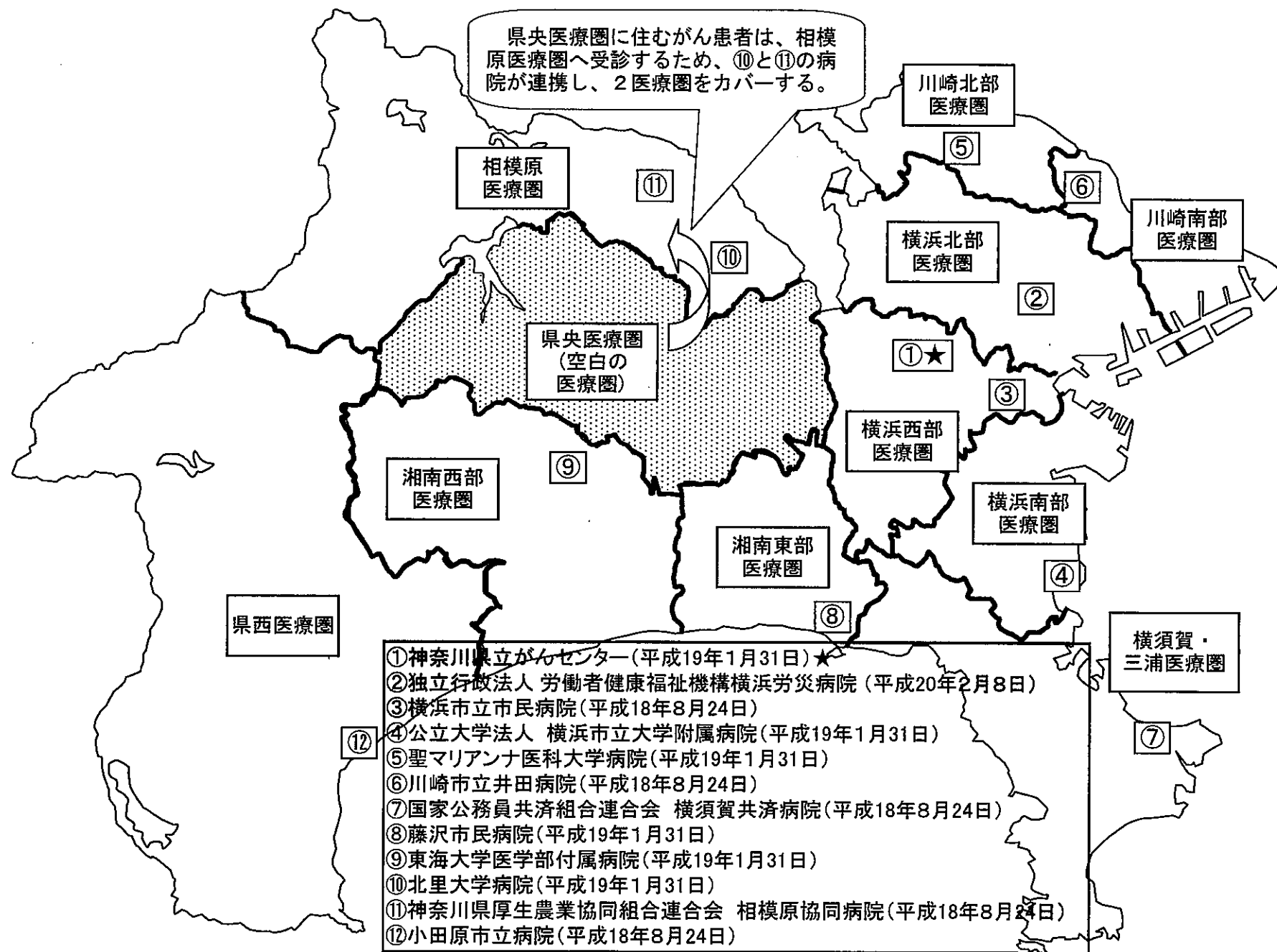
3 がん診療連携拠点病院の指定要件を満たしていない病院について

病院名	医療法人鉄蕉会亀田総合病院	国保市立松戸病院
指定要件の 未充足	肺がんの院内クリティカルパスの作成 (別紙4)	診療連携を行っている地域の医療機関等 の医療従事者も参加する合同のカンファ レンスの実施 (別紙24)
充足時期	平成21年11月30日	平成21年11月19日
充足内容	肺がんの院内クリティカルパスを作成	がんの病理学的診断についての公開カン ファレンスを開催

1 4 神奈川県

神奈川県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料1



資料 2

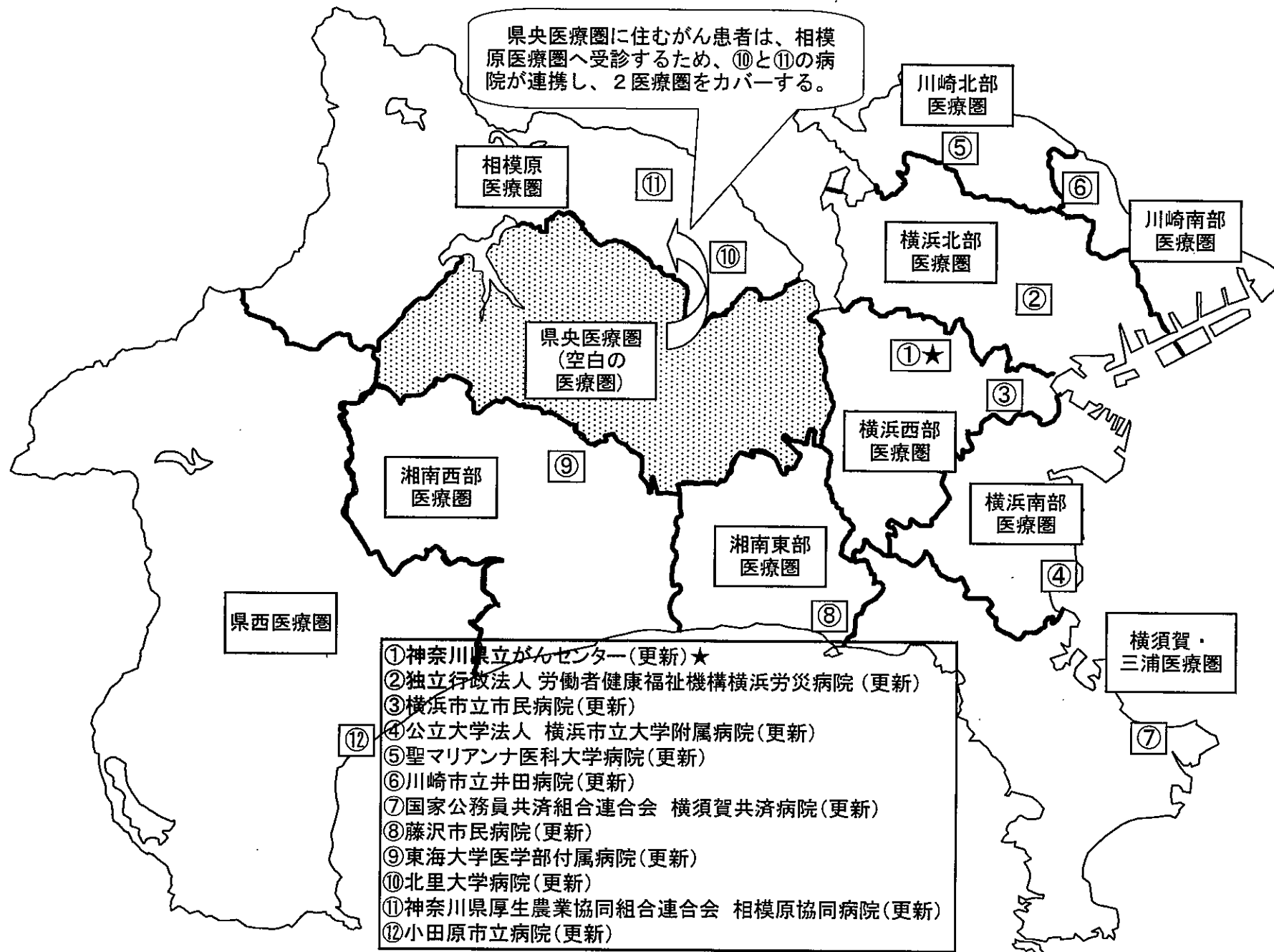
都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計											放射線治療		がんに係る薬物 療法(6月～7月 の集計)		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携	
			年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12 月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん 手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法のべ患 者数		緩和ケ アチー ムに対 する新 規診療 依頼数 (6～7 月の集 計)	相談支 援セン ター相 談件数 (6～7 月の集 計)	退院 時共 同指 導料 2 (6～7 月の 集計)	
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘膜 切除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外照 射	小線 源治 療	入院患 者数	外来患 者数				
1	★	更新	神奈川県立がんセンター	(6,157) 6,354	(86.2%) 91.8%	(218) 52	(24) 0	(4) 36	(17) 12	(2) 1	(21) 16	(5) 4	(3) 8	(3) 11	(43) 53	(0) 0	(803) 710	(54) 49	(585) 550	(1,775) 2,190	(3) 9	(1,226) 1,697	(0) 0
2		更新	横浜労災病院	(3,397) 3,456	(21.4%) 20.7%	(158) 183	(6) 5	(6) 5	(7) 22	(3) 3	(19) 13	(2) 4	(1) 3	(1) 1	(16) 7	(0) 0	(1,119) 882	(0) 0	(671) 177	(629) 287	(8) 9	(143) 63	(0) 1
3		更新	横浜市立市民病院	(3,559) 4,032	(25.0%) 26.8%	(256) 261	(5) 0	(2) 25	(19) 16	(0) 0	(12) 36	(3) 18	(2) 2	(2) 0	(9) 9	(0) 0	(460) 479	(0) 0	(208) 180	(353) 353	(16) 22	(54) 77	(0) 0
4		更新	横浜市立大学附属病院	(3,739) 4,069	(30.5%) 34.5%	(375) 305	(0) 1	(3) 8	(14) 14	(1) 0	(6) 11	(2) 1	(6) 17	(10) 15	(80) 16	(0) 0	(475) 695	(31) 132	(310) 283	(596) 277	(35) 30	(636) 677	(0) 0
5		更新	聖マリアンナ医科大学病院	(5,118) 5,680	(24.5%) 26.9%	(450) 312	(2) 0	(4) 11	(13) 15	(0) 0	(15) 7	(0) 0	(4) 7	(0) 0	(86) 72	(0) 1	(384) 665	(6) 16	(618) 413	(1,256) 672	(30) 5	(2,607) 113	(2) 0
6		更新	川崎市立井田病院	(1,211) 912	(25.0%) 24.9%	(46) 96	(4) 2	(4) 4	(4) 10	(7) 40	(11) 22	(7) 0	(0) 0	(3) 0	(3) 9	(0) 0	(2,362) 152	(0) 0	(45) 45	(30) 26	(19) 35	(589) 749	(0) 0
7		更新	横須賀共済病院	(3,113) 3,403	(18.2%) 19.7%	(298) 286	(1) 1	(14) 9	(24) 23	(0) 3	(31) 27	(2) 3	(2) 3	(6) 6	(18) 22	(0) 0	(131) 101	(0) 0	(203) 208	(968) 275	(5) 9	(35) 48	(0) 0
8		更新	藤沢市市民病院	(2,681) 3,151	(22.7%) 24.2%	(117) 87	(8) 1	(1) 0	(8) 9	(1) 0	(10) 11	(0) 0	(0) 0	(8) 0	(22) 13	(0) 0	(268) 306	(0) 3	(139) 417	(141) 511	(13) 6	(116) 127	(6) 5
9		更新	東海大学医学部付属病院	(6,414) 7,172	(30.2%) 33.7%	(346) 306	(6) 21	(12) 15	(22) 14	(5) 5	(20) 39	(7) 15	(0) 10	(3) 4	(36) 39	(1) 0	(1,044) 1,117	(5) 36	(428) 732	(353) 1,257	(19) 25	(384) 368	(0) 0
10		更新	北里大学病院	(5,339) 6,012	(25.4%) 28.1%	(393) 242	(1) 16	(20) 16	(2) 2	(0) 0	(9) 6	(0) 3	(0) 2	(0) 0	(41) 41	(0) 0	(997) 946	(227) 214	(454) 424	(446) 482	(26) 10	(128) 121	(0) 0

資料 2

	都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計											放射線治療		がんに係る薬物 療法(6月～7月 の集計)		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携
				年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12 月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん 手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法のべ患 者数		緩和ケ アチー ムに対 する新 規診療 依頼数 (6～7 月の集 計)	相談支 援セン ター相 談件数 (6～7 月の集 計)	退院 時共 同指 導料 2 (6～7 月の 集計)
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘膜 切除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外照 射	小線 源治 療	入院患 者数	外来患 者数			
11		更新	相模原協 同病院	(1,418) 1,657	(20.0%) 22.2%	(73) 115	(3) 1	(0) 6	(11) 17	(0) 0	(18) 20	(1) 4	(0) 1	(2) 2	(7) 9	(0) 0	(561) 484	(0) 0	(64) 75	(131) 144	(23) 39	(18) 12	(0) 0
12		更新	小田原市 立病院	(1,476) 1,655	(16.5%) 18.1%	(34) 72	(3) 0	(0) 4	(8) 4	(0) 0	(7) 6	(0) 1	(2) 3	(0) 2	(8) 10	(0) 0	(205) 203	(0) 0	(97) 45	(238) 90	(26) 21	(117) 258	(0) 0

神奈川県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料3



神奈川県におけるがん診療連携拠点病院の整備の基本的考え方及び病院を選定するにあたっての手順等は次のとおりである。

1 「がんへの挑戦・10か年戦略」におけるがん診療連携拠点病院のネットワークづくり

(1) がん診療連携拠点病院のネットワーク

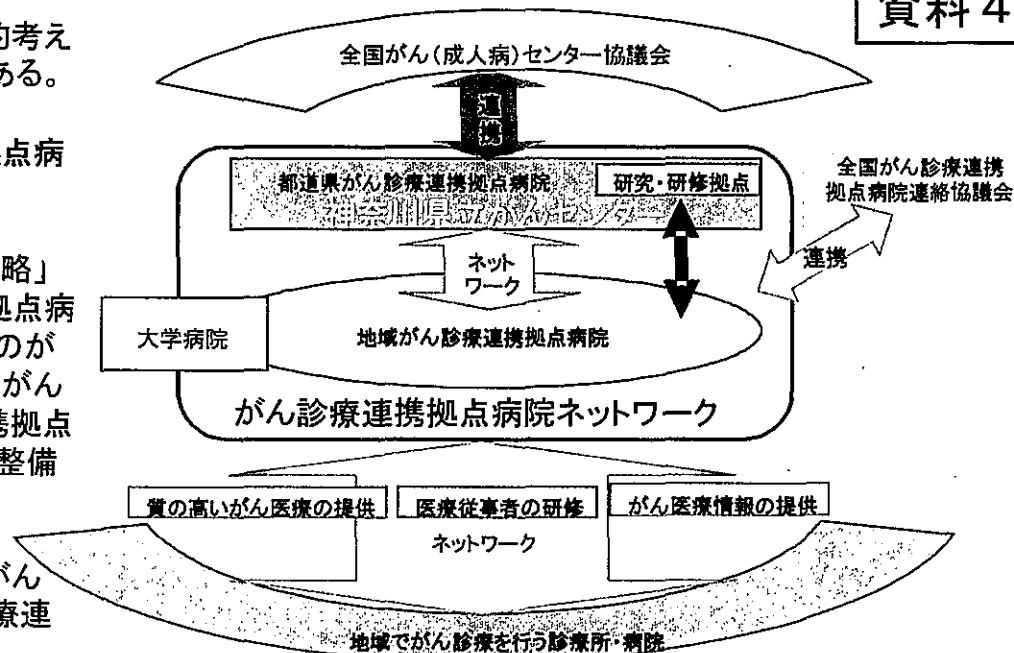
神奈川県のがん対策推進計画「がんへの挑戦・10か年戦略」(以下、「10か年戦略」と省略する。)では、「がん診療連携拠点病院のネットワークづくり」を重点項目の一つとして掲げ、県内のがん医療の中心となる都道府県がん診療連携拠点病院(県立がんセンター)と地域のがん医療の中心となる地域がん診療連携拠点病院の二層構造でがん診療連携拠点病院のネットワークを整備することとしている。

(2) 整備数

10か年戦略では、「がんに負けない」ための指標として、がん診療連携拠点病院の整備を掲げ、県内に12か所のがん診療連携拠点病院を整備することとしている。

(3) がん診療連携拠点病院における人材育成

10か年戦略では、がん診療連携拠点病院のネットワークを整備し、県内特定機能病院と連携し、最新のがん医療に関する情報交換や症例研究等による人材育成を推進することとしている。



2 がん診療連携拠点病院の選定要件、指標及び判断基準

神奈川県生活習慣病対策委員会において、次のとおり本県独自の要件及び指標を定めており、これらを満たす病院を選定している。

(1) 要件

がん診療連携拠点病院は、地域においてがん医療の中心となっている病院が担うことにより、地域がん医療の向上に向けた役割を十分に発揮することが期待できる。このため、国指定要件を満たすとともに、次の指標を満たす地域がん医療の中心となっている病院を選定する。

(2) 指標

- ア がん医療実績数が多い
- イ 地域の医療機関との連携件数が多い

(3) 判断基準

- ア がん登録
- イ がん患者の紹介・逆紹介数
- ウ 地域連携クリティカルパス構築への積極的な取り組み
- エ 地域の医療機関を対象とした研修の開催回数

3 推薦の決定

(1) 決定機関

本県では、10か年戦略の着実な推進と施策の効果的な展開を図るため、知事を本部長とする「神奈川県がん戦略推進本部」を設置しており、がん診療連携拠点病院の推薦は、同本部会議で決定している。

(2) 決定の手順

この度の推薦にあたっては、神奈川県がん戦略推進本部会議を開催し、推薦書の記載内容から、国及び県の要件を満たしており、地域がん診療連携拠点病院として地域がん医療の向上に向けた役割を十分に発揮することが期待できると考えられる病院を推薦することを決定した。また、1つの二次保健医療圏において、指定を希望する病院が複数あった場合には、国指定要件とともに、県の附属機関である神奈川県生活習慣病対策委員会において別途策定した基準を適用して、地域がん医療の中心となっている指標がより高い病院を選定した。

(3) 主な推薦理由

国及び県の指定要件をより満たしていると考えられ、また、各病院からがん診療連携拠点病院の指定について積極的な意向が示されている。

4 がん診療連携拠点病院未整備二次医療圏の対応

拠点病院が未整備の県央医療圏については、相模原医療圏の2病院が連携し、2つの医療圏をカバーすることとしている。

今後、10か年戦略に基づき、県内の全二次医療圏に地域がん診療連携拠点病院を整備するため、早期の推薦を目指し、推薦候補病院の選定に努めることとする。

★ やむを得ない理由等により全ての指定要件を満たすことができない病院の推薦について

横須賀共済病院

→ リニアックが未整備であるが、現在整備中で、平成22年3月29日に治療開始予定(工程は右記のとおり)

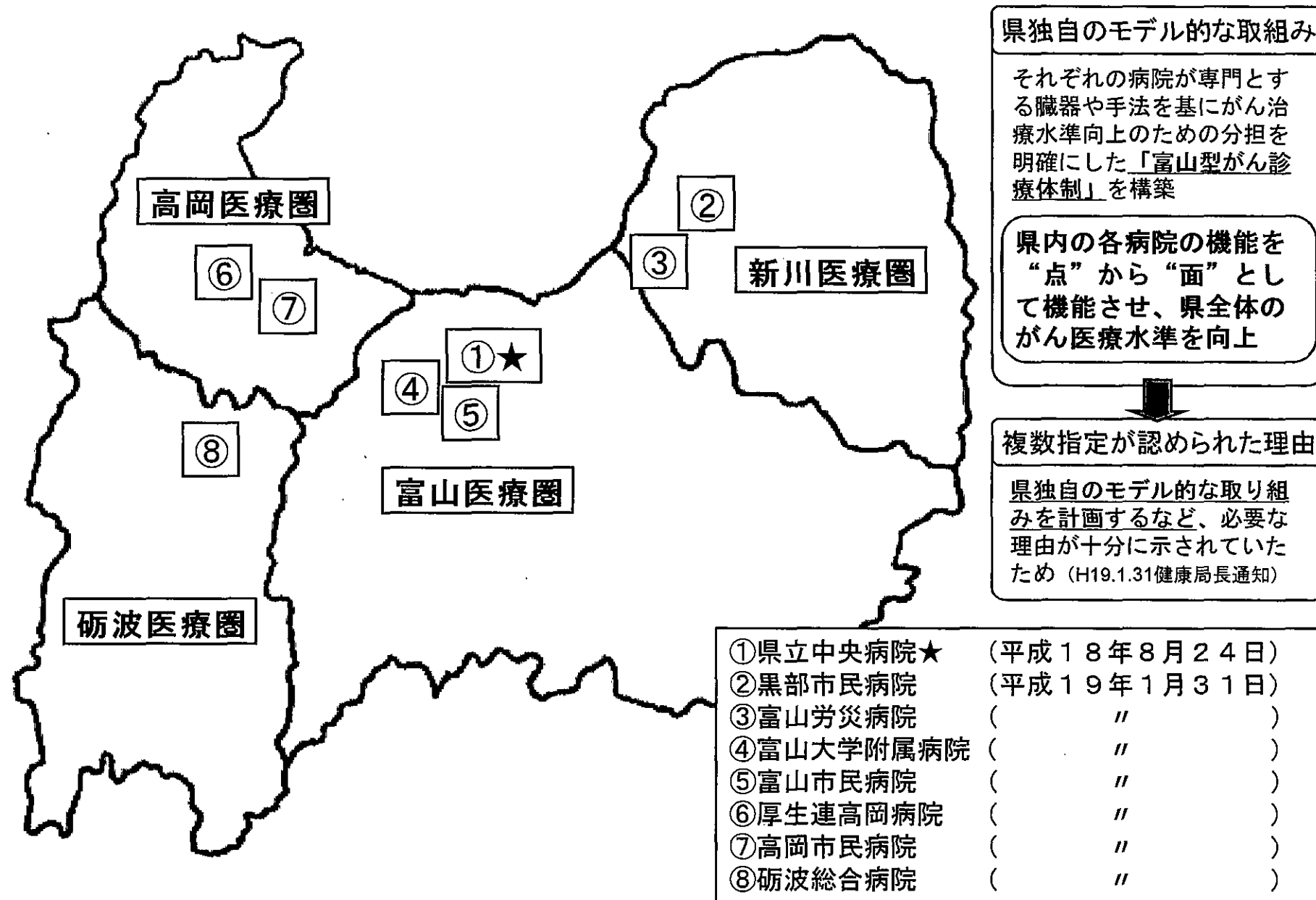
横須賀共済病院 放射線治療装置ONCOR 据付工程表

項目	2009年 10月	12月	2010年 1月	2月	3月	4月
リニアックベース搬入・固定	18日					
リニアック本体・寝台搬入実施	23～26日					
文部科学省より放射性同位元素等使用許可証交付		2日				
送電開始		4日				
リニアック附属機器搬入・据付・配線・組立開始		14日～9日				
リニアック装置調整及び試験ビーム出し			10～16日			
リニアック漏洩線量測定			18日			
原子力安全センターによるリニアック施設検査			25日			
治療装置 調整						
受渡性能確認テスト						
ビームデータ測定						
治療開始						

3月29日治療開始

16 富 山 県

富山県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

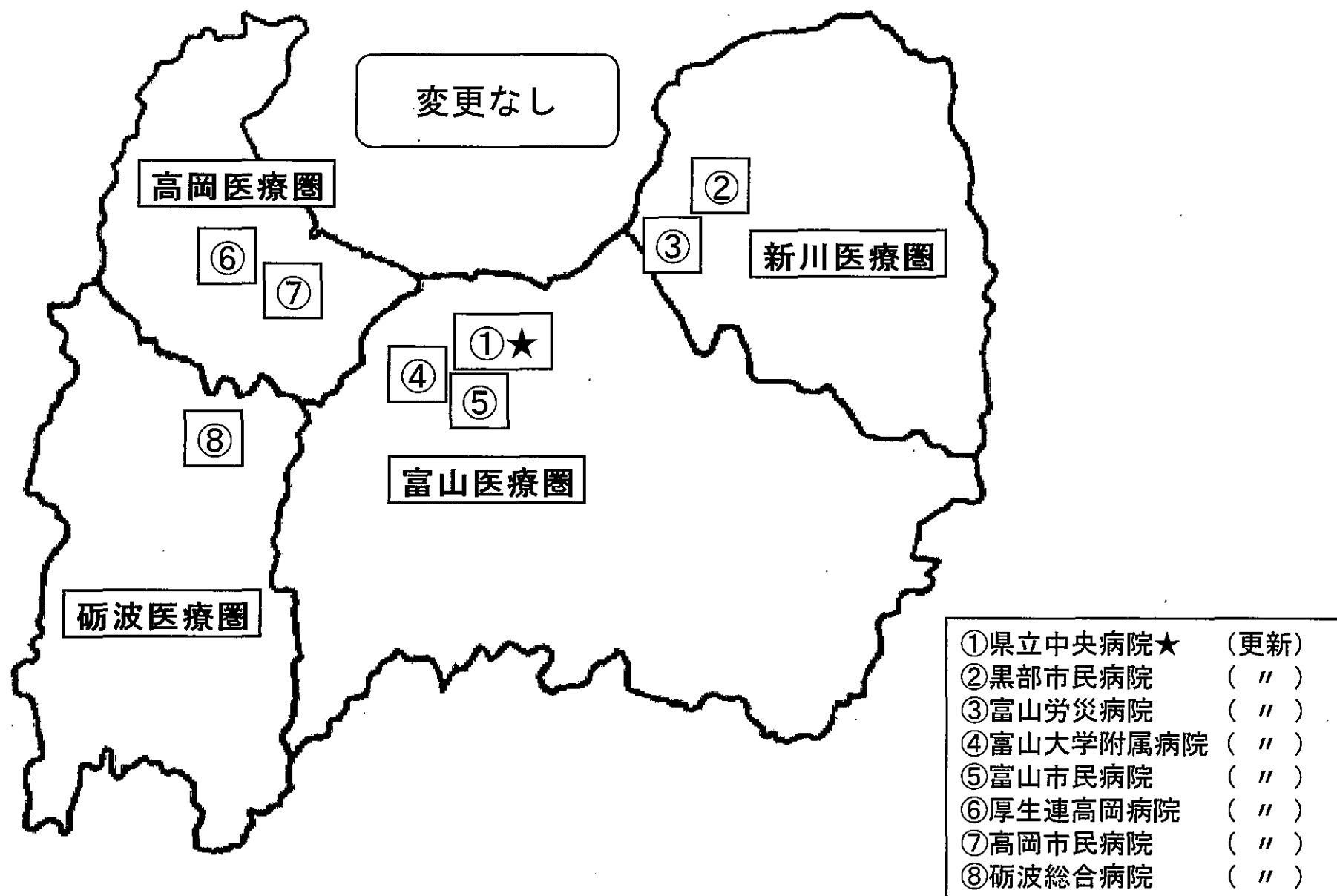


資料 2

※ () 内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

	都道府県 or 地域	申請 区分	病院 名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療	がんに係る 薬物療法 (6月～7月 の集計)	緩和 ケア	相談 支援 センター	地域 連携					
				年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患者に めるが ん患者 の割合 (%)	悪性 瘍手術 総数	肺がん	胃がん手術	大腸がん手術	肝臓がん	乳がん	年間患者実 数 (1月～12 月)	薬物療法の べ患者数	緩和 ケア チーム に対する 新診療 依頼数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 センター 相談件 数(6～ 7月の 集計)	退院共 同指 導料 (6月 ～7月 の集計)	開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜 切除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行う もの	体外 照射
1	★	更新	県立 中央 病院	(3,843)	(23.0)	(332)	(9)	(18)	(27)	(0)	(15)	(14)	(4)	(15)	(23)	(0)	(434)	(2)	(199)	(212)	(4)	(32)	(0)				
				3,603	22.9	210	5	16	26	0	33	25	7	9	23	0	352	0	192	254	9	69	0				
2		更新	黒部 市民 病院	(1,141)	(14.0)	(58)	(0)	(6)	(12)	(0)	(6)	(2)	(0)	(0)	(6)	(0)	(143)	(0)	(133)	(146)	(4)	(63)	(0)				
				1,277	15.4	79	0	2	4	0	10	3	0	1	6	0	186	0	88	95	4	48	0				
3		更新	富山 労災 病院	(510)	(16.6)	(19)	(0)	(0)	(1)	(0)	(5)	(0)	(0)	(0)	(3)	(0)	(0)	(0)	(19)	(28)	(5)	(59)	(0)				
				389	11.5	30	0	3	7	10	2	0	1	0	1	0	0	0	48	29	6	18	2				
4		更新	富山 大学 附属 病院	(2,244)	(27.0)	(110)	(3)	(7)	(8)	(0)	(4)	(3)	(4)	(24)	(9)	(0)	(325)	(12)	(205)	(116)	(3)	(34)	(0)				
				2,598	28.9	81	0	9	3	0	6	1	1	17	3	0	260	28	228	121	5	36	0				
5		更新	富山 市民 病院	(1,491)	(16.9)	(73)	(0)	(5)	(8)	(1)	(5)	(0)	(0)	(0)	(7)	(0)	(101)	(0)	(96)	(385)	(24)	(33)	(20)				
				1,451	16.4	90	0	8	12	0	10	0	0	0	21	0	124	0	74	127	13	35	3				
6		更新	厚生連 高岡 病院	(3,496)	(30.70)	(211)	(3)	(19)	(13)	(0)	(35)	(4)	(4)	(2)	(18)	(0)	(282)	(0)	(139)	(280)	(10)	(16)	(0)				
				2,323	20.2	203	2	10	15	0	18	0	3	5	13	0	263	0	303	174	16	19	1				
7		更新	高岡 市民 病院	(1,204)	(15.3)	(72)	(6)	(0)	(13)	(8)	(19)	(2)	(0)	(0)	(9)	(0)	(116)	(0)	(92)	(131)	(12)	(8)	(0)				
				1,470	18.1	83	2	0	10	1	11	6	1	0	13	0	113	0	83	76	16	7	0				
8		更新	砺波 総合 病院	(2,217)	(23.6)	(84)	(0)	(1)	(7)	(0)	(12)	(0)	(1)	(13)	(5)	(0)	(142)	(0)	(84)	(110)	(13)	(17)	(0)				
				2,152	23.0	56	0	0	6	0	10	0	0	1	7	0	138	0	124	126	2	40	1				

富山県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

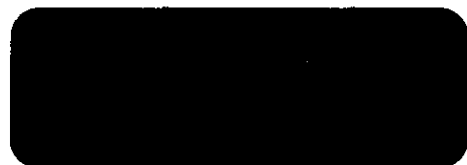


これまで構築してきた「富山型がん診療体制」を充実強化し、県内のがん医療の均てん化とがん医療水準のさらなる向上を図る。

富山型がん診療体制

全県的な機能

・5大がん以外のがん(膵、頭頸部、膀胱、腎、小児、造血器のがん、職業がん)に対応



研修

特定機能病院(がん治療部)
(富山大学病院)

医師養成・派遣

北陸アスベスト疾患センター
(富山労災病院)

共同利用型PETセンター
(画像情報オンライン)

検査と診断



がんの専門医療を連携して提供

地域がん診療連携拠点病院の機能

- ・5大がん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)の治療に対応
- ・セカンドオピニオン、緩和ケア、病病・病診連携の推進
- ・地域連携クリティカルパスの運用と相談支援センターの運営
- ・担当分野について、臨床研究の推進、がん情報の収集・発信、医療従事者等への研修

市立砺波総合病院
(肝がん)

砺波医療圏

厚生連高岡病院
(化学療法)

高岡市民病院
(女性のがん)
(放射線療法)

高岡医療圏

富山市民病院
(胃がん)
(大腸がん)

富山大学病院
(高度先進医療)
(治験)

富山医療圏

黒部市民病院
(血液がん)

富山労災病院
(悪性中皮腫)

新川医療圏

「富山型がん診療体制」の進捗状況とその評価

県がん診療連携拠点病院と7つの地域がん診療連携拠点病院が、がんの臓器別、療法別に役割を分担して治療水準の向上に取り組むとともに、全県的に先駆的な取り組みを行い、がん診療の基盤整備を行ってきた。

1. 連携体制の強化

- 拠点病院間の連携が強化（ヒューマンネットワークが構築）
- 各拠点病院が機能分担に基づき、他の医療機関や地域に開放した研修会の開催や医学講座番組の放映を実施

H20実績 研修会：医療従事者向け 55回開催 2,228名参加 地域住民向け 18回開催 1,870名参加
医学講座番組：ケーブルテレビで延540回放映

- 県下統一の地域連携クリティカルパスの作成・運用（H21.12より一部運用、H22年度末までに全県で運用予定）
- 拠点病院の医師・コメディカルからなる研修部会が派遣と受入れの調整（マッチング）を行い、病院間の医師・コメディカルの研修体制を整備

H20実績 医師 地域がん拠点から県がん拠点へ 145人日 がん拠点以外から地域がん拠点へ 188人日
コメディカル " 347人日 "

2. がん医療の均てん化

- 集学的治療の実施体制、緩和ケア体制等が充実

	【H17】	【H20】		【H18】	【H21】
手術療法	2,313件	⇒ 3,767件 (1.6倍)	緩和ケア病床		
化学療法	19,438日	⇒ 28,940日 (1.5倍)		26床	⇒ 61床
放射線療法	11,824回	⇒ 22,801回 (1.9倍)			

注) 地域がん診療連携拠点病院の実績

- コメディカルスタッフの計画的な研修による看護の質の向上
- 院内の医療スタッフの連携が強化

	【H18】	【H21】
認定看護師	3名	⇒ 12名
認定薬剤師	25名	⇒ 51名

3. 先駆的な取り組み

- 全病院で、緩和ケア外来の開設（H19.4）外来化学療法の実施（H19.4 全病院で専用療法室設置 H20.2）
敷地内禁煙（H19.4）を実施（これらは今回の拠点病院の指定要件に追加）
- 胃・大腸・乳がんについて、すべての病院で同じ基準、様式で5年生存率を公表（H19.10）
- がん患者会が充実 乳がん患者会 1病院⇒4病院 肺がん患者会 0病院⇒1病院 患者サロン 0病院⇒1病院

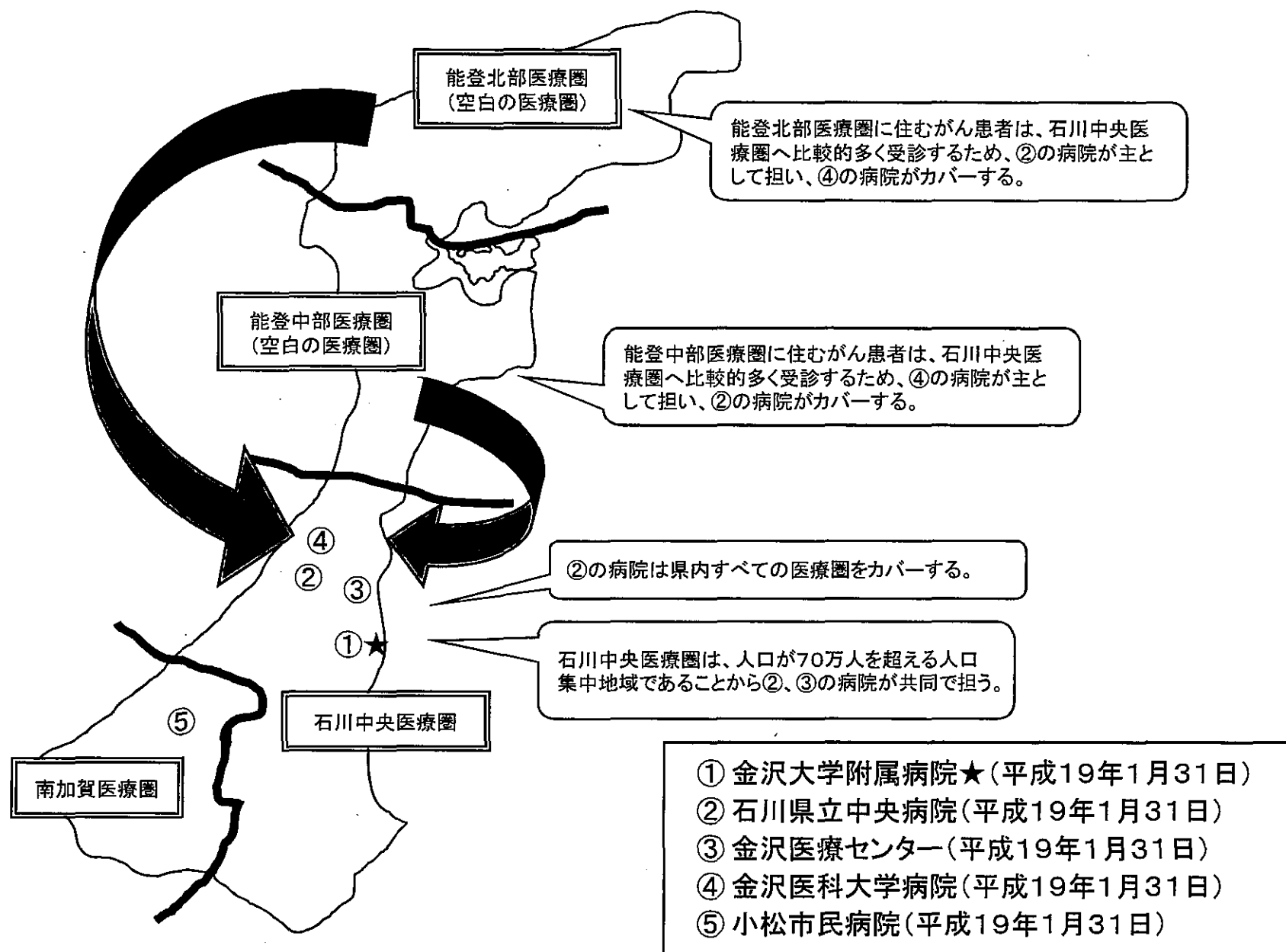
【未充足項目のある病院の今後の対応について】

富山労災病院:未充足項目 ①放射線治療の機器整備 ②放射線治療の常勤医師 ③病理診断の常勤医師

対応 ①について:H22年3月に充足可能 ②、③について:関連大学と折衝中であり、H23年4月目途に確保

17 石川県

石川県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

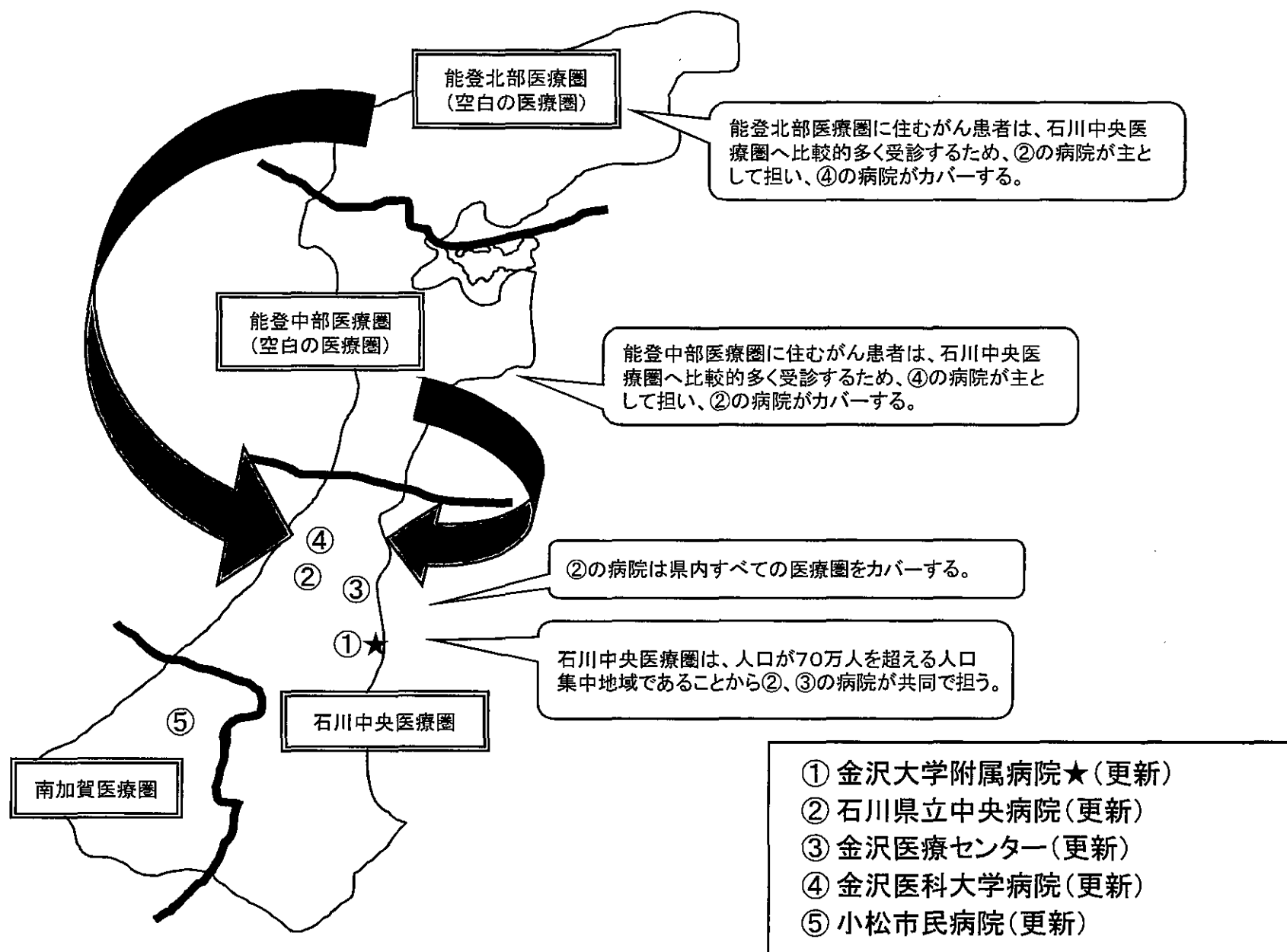


※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料 2

都道府県 or 地域 申請区分 病院名			年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る薬物療法(6月～7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
			年間 新入 院が 患者 数 (1月～12月)	年間 新入 院患者に めるがん 患者の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療依 頼数 (6～7月 の集計)	相談 支援セン ター相 談件数 (6～7月 の集計)	退院 時共同指 導料2 (6～7月 の集計)	
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜切 除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジオ 波焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切除 後)二 期に 行うもの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
1	★	更新	金沢大学 附属病院	(4414) 3771	(36.5) 30.1	(188) 203	(0) 0	(23) 28	(17) 14	(0) 0	(11) 13	(2) 0	(6) 5	(44) 35	(9) 30	(0) 0	(375) 483	(56) 80	(239) 272	(232) 285	(17) 14	(368) 546	(0) 0
2		更新	石川県立 中央病院	(1162) 1202	(14.0) 14.3	(208) 275	(0) 0	(39) 33	(16) 9	(7) 12	(16) 12	(28) 7	(2) 1	(6) 10	(19) 23	(0) 0	(352) 343	(0) 0	(170) 150	(151) 380	(4) 10	(55) 85	(0) 0
3		更新	金沢医療セ ンター	(1759) 1766	(16.7) 17.6	(73) 73	(1) 1	(16) 8	(4) 7	(0) 0	(11) 10	(0) 3	(2) 0	(0) 0	(4) 6	(0) 0	(202) 195	(35) 24	(116) 154	(56) 109	(12) 24	(337) 527	(23) 0
4		更新	金沢医科 大学病院	(2329) 1851	(19.0) 14.1	(120) 140	(8) 1	(7) 5	(11) 12	(0) 0	(3) 10	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(4) 12	(0) 1	(312) 254	(34) 40	(132) 216	(130) 103	(7) 6	(159) 254	(0) 0
5		更新	小松市民 病院	(857) 1370	(15.0) 24.6	(86) 92	(10) 2	(10) 3	(9) 9	(1) 3	(15) 9	(0) 0	(1) 0	(0) 0	(7) 4	(0) 0	(114) 194	(0) 0	(81) 88	(91) 258	(63) 19	(314) 442	(3) 0

石川県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1 地域がん診療連携拠点病院について

(1) 本県の地域特性

石川県には、4つの医療圏があるが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中している。

このため、国が定める指定要件を満たす医療機関が、能登北部医療圏・能登中部医療圏には存在せず、南加賀医療圏には存在するものの、その診療レベルや人的スタッフ等は、単独でがん診療の核となるには十分とはいえない状況にある。

(2) 推薦に当たっての本県の方針

地域がん診療連携拠点病院の推薦に当たっては、各医療機関の診療レベル、スタッフを含めた体制整備の状況及び患者の受療動向等を総合的に勘案して、医療圏内に所在する医療機関に拘らず、がん診療の核となりうる複数の医療機関が複数の医療圏のがん診療を担う体制の構築を目指す。

(3) 推薦病院

①南加賀医療圏（2病院） → 小松市民病院、県立中央病院で対応

医療圏内にある小松市民病院が、基本的ながん医療及び高度ながん医療を主として担うとともに、県立中央病院が、特殊ながん医療を含めてカバーする。

小松市民病院は、医療圏内で唯一、がん手術、化学療法及び放射線療法等の組み合わせによるがんの集学的治療が実施できる医療機関である。

また、県立中央病院の医師が、小松市民病院の患者に対する診療支援のため派遣されるなど、両病院は密接に連携を図っている。

②石川中央医療圏（2病院） → 県立中央病院、金沢医療センターで対応

医療圏人口が70万人を超える人口集中地域であることから、基本的ながん医療及び高度ながん医療を県立中央病院と金沢医療センターが共同で担う。

③能登中部医療圏、能登北部医療圏 → 県立中央病院、金沢医科大学病院で対応

基本的ながん医療及び高度ながん医療を、能登中部医療圏については金沢医科大学病院が主として担うとともに県立中央病院がカバーし、能登北部医療圏については県立中央病院が主として担うとともに金沢医科大学病院がカバーする。

両病院と能登地区2つの医療圏とは高速交通網が繋がっており、金沢医科大学病院には能登中部医療圏からの患者が比較的多く、県立中央病院には能登北部医療圏からの患者が比較的多い。

また、県立中央病院は、能登地区の医療機関との間で患者の紹介・逆紹介といった連携が進んでいるほか、現在、地域連携クリティカルパスの整備に向けた準備を進めている。

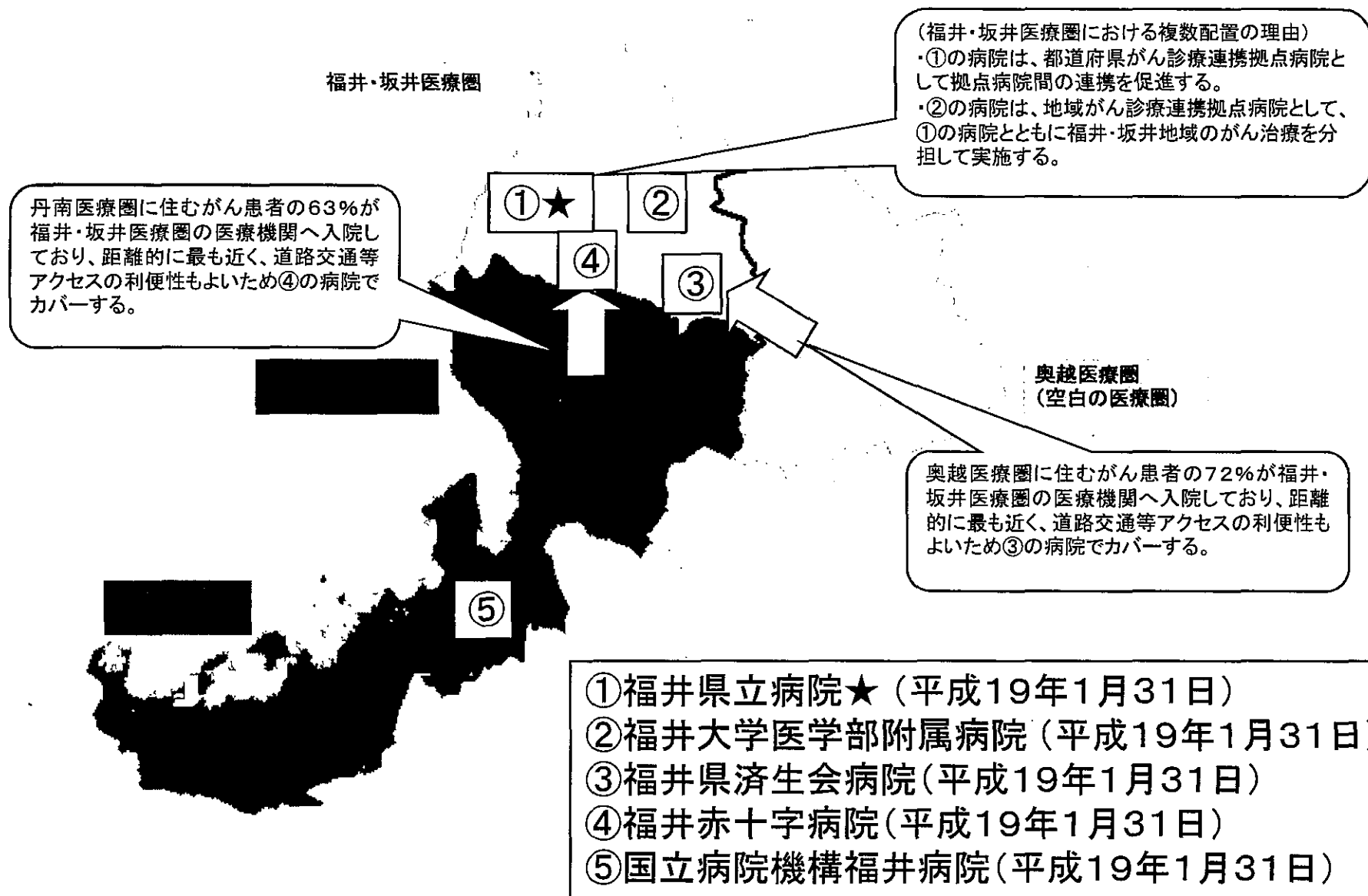
2 県立中央病院と金沢大学附属病院の役割分担

金沢大学附属病院は、特定機能病院として、がん高度先進医療センター内に化学療法や放射線療法などの専門部署を置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした化学療法、放射線療法等に関する研修を行う。さらに、がん専門薬剤師研修指定病院にも指定されており、地域がん診療連携拠点病院等のメディカルスタッフを対象としたがんの専門知識、技術の習得のための研修や情報提供を通じて地域連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、県内の病院に手術、治療のため多数の医師を派遣し積極的に診療支援を行っているほか、県内各地域のかかりつけ医や一般病院の医師に対する研修を行う。また、地域連携クリティカルパスも現在、作成中であり、こうした活動により、県立中央病院は、県内すべての地域における拠点病院としての役割を果たす。

1 8 福 井 県

福井県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

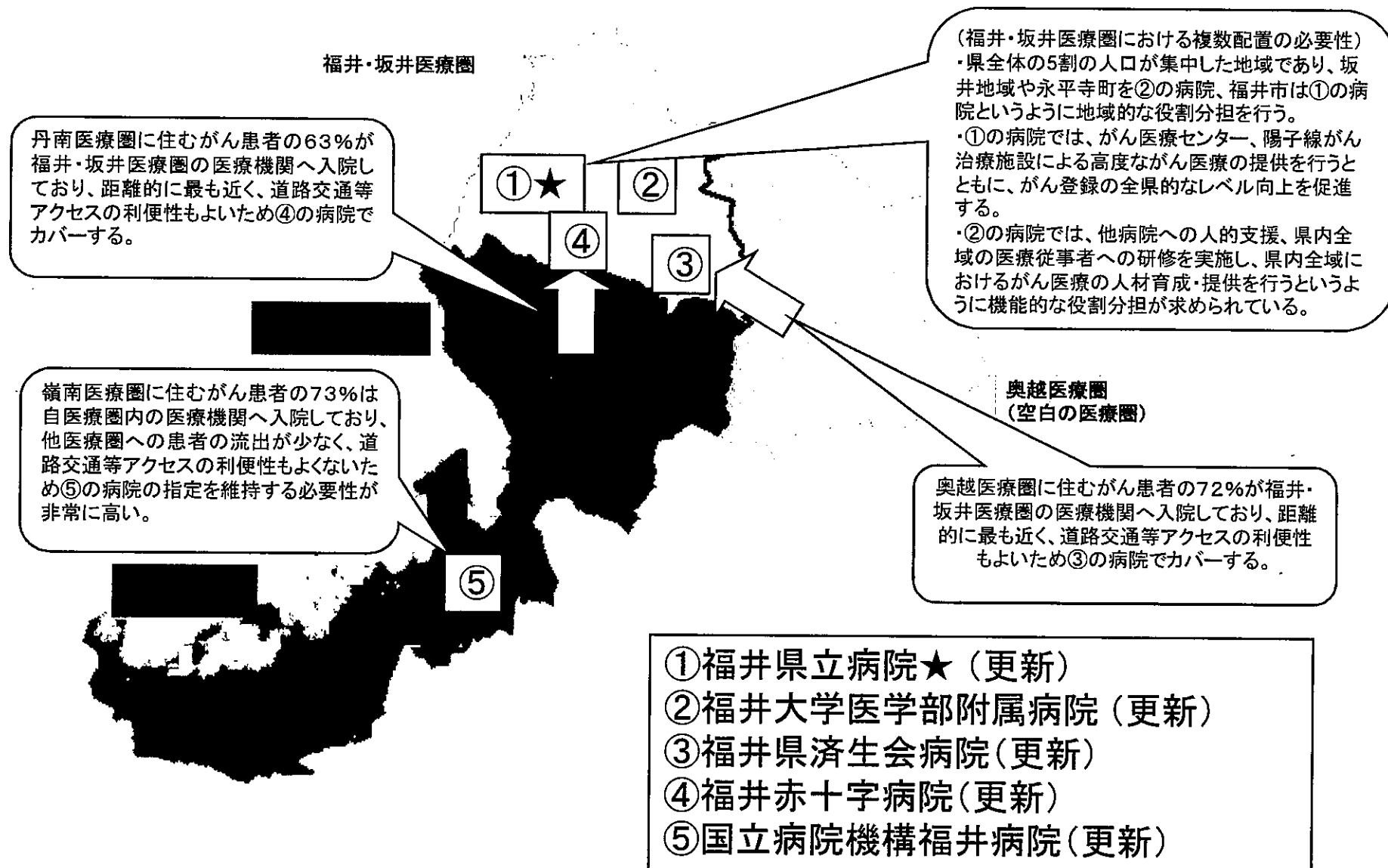


資料 2

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

都道府県 or 地域	申請 区分	更新	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数（手術件数）6～7月の集計										放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
				年間新 入院患者 数 (1月～12 月)	年間新 入院患者 数に占める がん患者の割 合 (%)	悪性 腫瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん 手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12 月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療依 頼数 (6～7月の 集計)	相談 支援セン ター相談 件数 (6～7月の 集計)	退院共 同指 導料 2 (6～7月の 集計)
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜 切除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術 (乳房 切除 後)二 期的に 行うもの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	福井県立病院	(2287) 2498	(19.3) 19.9	(168) 139	(0) 2	(1) 6	(26) 27	(0) 0	(24) 21	(7) 1	(1) 1	(6) 1	(18) 24	(0) 0	(257) 259	(23) 12	(159) 171	(126) 165	(4) 24	(147) 186	(0) 0
2		更新	福井大学医学部附属病院	(2056) 2322	(23.8) 25.7	(99) 149	(1) 0	(15) 10	(5) 11	(1) 0	(16) 9	(1) 2	(0) 2	(4) 3	(6) 7	(0) 0	(356) 299	(51) 33	(222) 230	(108) 143	(7) 9	(39) 242	(6) 4
3		更新	福井県済生会病院	(2883) 3002	(25.8) 27.6	(131) 229	(7) 3	(8) 5	(9) 17	(1) 1	(12) 19	(1) 1	(1) 1	(2) 1	(21) 22	(0) 0	(243) 198	(0) 0	(220) 260	(409) 467	(16) 30	(39) 140	(17) 22
4		更新	福井赤十字病院	(3226) 2726	(26.6) 22.4	(82) 138	(1) 2	(4) 7	(3) 6	(22) 0	(14) 11	(5) 2	(1) 1	(1) 5	(8) 14	(0) 0	(239) 230	(0) 8	(153) 129	(134) 142	(5) 11	(15) 38	(3) 6
5		更新	国立病院機構福井病院	(474) 682	(18.2) 26.9	(20) 28	(0) 0	(4) 5	(4) 4	(0) 0	(4) 9	(0) 0	(4) 3	(0) 0	(0) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(20) 29	(38) 33	(6) 5	(14) 44	(12) 14

福井県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



福井県のがん医療連携体制

資料 4

福井県

参加・支援

がん診療連携拠点病院機能強化事業補助金による支援・指導

※福井大学医学部附属病院、国立病院機構福井病院については国から交付

福井県がん診療連携協議会

福井・坂井医療圏

福井県立病院

- ・がん医療センター、陽子線がん治療施設による高度ながん医療の提供
- ・がん医療の全県的な向上・補完
- ・がん診療連携拠点病院間の連携促進
- ・がん登録の推進
- ・圏域内病院等との連携（主に福井市）
- ・がん診療連携協議会がん登録部会長病院（院内がん登録の推進）

福井大学医学部附属病院

- ・他病院への人的支援
- ・県内全域の医療従事者への研修
- ・医師、看護師の人材育成、確保
- ・高度先端医療の実施
- ・圏域内病院等との連携（主に坂井市、あわら市、永平寺町）
- ・がん診療連携協議会研修部会長病院（緩和ケア研修の推進）

支援

支援

支援

丹南医療圏

福井赤十字病院

- ・圏域内病院等との連携
- ・病診連携体制の整備
- ・がん診療連携協議会情報・連携部会長病院（地域連携クリティカルパスの整備を全県的に推進）

嶺南医療圏

国立病院機構福井病院

- ・圏域内病院等との連携
- ・嶺南地域の医療水準の向上
- ・嶺南医療圏における地域完結型医療の推進
- ・がん診療連携協議会研修部会において福井大学医学部附属病院と連携し緩和ケア研修を推進

奥越医療圏

福井県済生会病院

- ・圏域内病院等との連携
- ・緩和ケア体制の推進
- ・がん診療連携協議会研修部会において福井大学医学部附属病院と連携し緩和ケア研修を推進

国立病院機構福井病院における指定要件の充足状況等について

指定要件の充足状況について

放射線治療機器の設置

リニアックを再整備中であり、平成22年2月中旬には放射線治療を再開する

常勤の放射線治療専門医の雇用

- ・放射線診断を中心に行っている放射線専門医(常勤)が、放射線治療を専任で行う体制とする
- ・より高度な知識と経験を有する放射線専門医(非常勤)をさらに1名雇用し、治療計画の作成を含めて常勤医師を補完する

常勤の病理診断専門医の雇用

- ・病理診断専門医(非常勤)が2名在籍しているが、もう1名増員し、平成22年3月以降は、3名で週4日各8時間の体制を確保する
- ・テレパソロジーのネットワークを導入しており、手術中の迅速病理診断に対応可能な体制を整えている

医療提供体制について

- ・嶺北地方(福井・坂井医療圏、丹南医療圏、奥越医療圏)と嶺南地方(嶺南医療圏)との高速交通体系格差が著しい
- ・がん医療の中核をなす病院が嶺北地方の福井・坂井医療圏に集中している
- ・嶺南医療圏に住むがん患者の73%が自医療圏内の医療機関に入院しており、他医療圏への患者の流出が少ない



- ・嶺北・嶺南間の格差是正のため、嶺南医療圏内において、がん医療の中核をなす病院を維持・発展させていくことが必要不可欠である
- ・嶺南医療圏で唯一、日本緩和医療学会暫定指導医の資格を有する医師がおり、県内の緩和ケア研修会において中心的役割を担うことが必要不可欠である
- ・嶺南医療圏における地域完結型医療を推進していくことが本県にとって必要不可欠である



GIFU

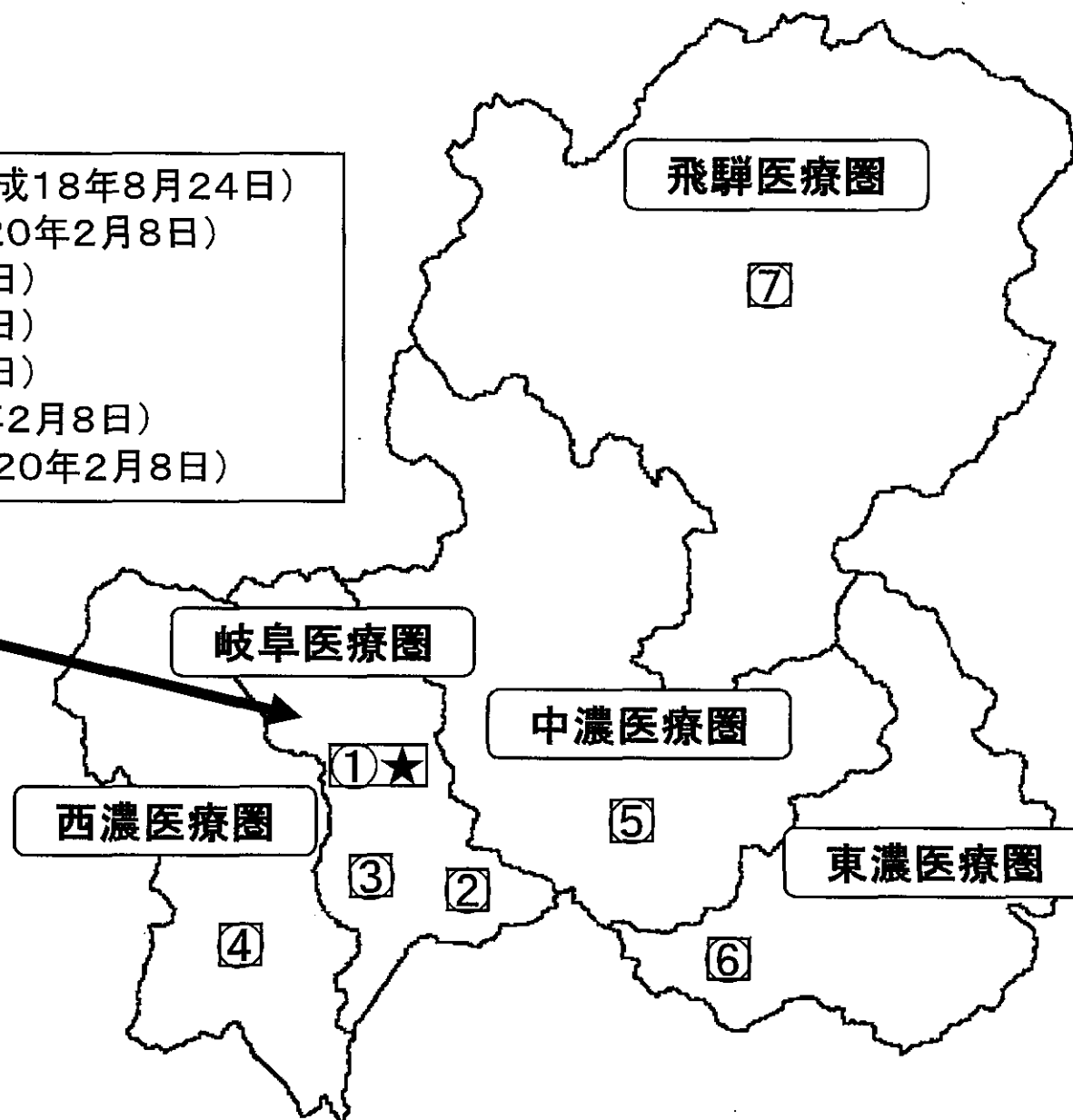
2 1 岐 阜 県

岐阜県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

- ①岐阜大学医学部附属病院★(平成18年8月24日)
- ②岐阜県総合医療センター(平成20年2月8日)
- ③岐阜市民病院(平成20年2月8日)
- ④大垣市民病院(平成20年2月8日)
- ⑤木沢記念病院(平成20年2月8日)
- ⑥岐阜県立多治見病院(平成20年2月8日)
- ⑦総合病院高山赤十字病院(平成20年2月8日)

①★は、人材育成、がん疫学研究、県下のがん医療連携の推進に加え、岐阜圏域においてもがん医療の中心的な役割を果たすため、地域拠点病院の総合調整や人的、技術的支援を行っている。

②は、食道がん、前立腺がん、婦人科腫瘍について、③は、血液がん、小児がんについて、より高度な対応が可能であり、相互に連携を図りながら、より質の高い医療等を提供



資料 2

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

都道府県 or 地域 申請区分 病院名			年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月～7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
			年間新入院がん患者数(1月～12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん		大腸がん		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6～7月の集計)	相談支援センター相談件数(6～7月の集計)	退院時共同指導料2(6～7月の集計)	
						開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数				
1	★	更新	岐阜大学医学部付属病院	(3,557) 3,575	(30.9) 31.4	(257) 172	(4) 2	(14) 14	(13) 17	(0) 0	(31) 11	(14) 10	(7) 12	(15) 7	(7) 9	(0) 0	(469) 517	(17) 49	(62) 250	(193) 655	(16) 17	(570) 92	(4) 0
2		更新	岐阜県総合医療センター病院	(2,315) 1,795	(19.6) 13.7	(86) 104	(4) 0	(1) 4	(11) 16	(0) 0	(12) 26	(0) 0	(0) 0	(9) 10	(17) 18	(0) 0	(27) 384	(0) 0	(237) 133	(445) 144	(25) 30	(139) 199	(1) 3
3		更新	岐阜市民病院	(2,538) 2,691	(20.7) 21.9	(78) 227	(0) 2	(10) 14	(7) 10	(0) 0	(17) 21	(4) 1	(1) 3	(38) 51	(15) 17	(0) 0	(533) 430	(0) 0	(135) 259	(163) 277	(12) 12	(15) 190	(1) 5
4		更新	大垣市民病院	(5,251) 5,082	(27.8) 27.2	(223) 193	(9) 19	(21) 0	(31) 35	(3) 0	(58) 36	(1) 0	(14) 21	(1) 16	(17) 30	(0) 0	(451) 428	(0) 0	(232) 218	(220) 237	(7) 22	(83) 107	(0) 0
5		更新	木沢記念病院	(990) 1,113	(14.0) 14.3	(58) 61	(1) 0	(0) 0	(8) 5	(2) 6	(7) 10	(0) 0	(0) 2	(1) 0	(5) 11	(0) 0	(338) 410	(0) 0	(35) 49	(30) 61	(18) 8	(39) 52	(0) 0
6		更新	岐阜県立多治見病院	(932) 1,142	(8.3) 10.1	(81) 89	(7) 9	(3) 2	(10) 16	(0) 0	(23) 21	(5) 4	(5) 3	(3) 2	(15) 19	(0) 0	(327) 379	(1) 6	(165) 191	(136) 344	(17) 21	(17) 17	(0) 0
7		更新	総合病院高山赤十字病院	(982) 1,049	(13.0) 13.1	(25) 18	(0) 0	(0) 0	(7) 9	(0) 0	(3) 4	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(3) 4	(0) 0	(82) 95	(0) 0	(74) 89	(189) 38	(11) 13	(99) 78	(0) 0

岐阜県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ①岐阜大学医学部付属病院★(更新)
- ②岐阜県総合医療センター(更新)
- ③岐阜市民病院(更新)
- ④大垣市民病院(更新)
- ⑤木沢記念病院(更新)
- ⑥岐阜県立多治見病院(更新)
- ⑦総合病院高山赤十字病院(更新)

①★は岐阜圏域北西部、②は岐阜圏域東部、③は岐阜圏域の中心部に位置し、それぞれカバーしている地域が異なる。

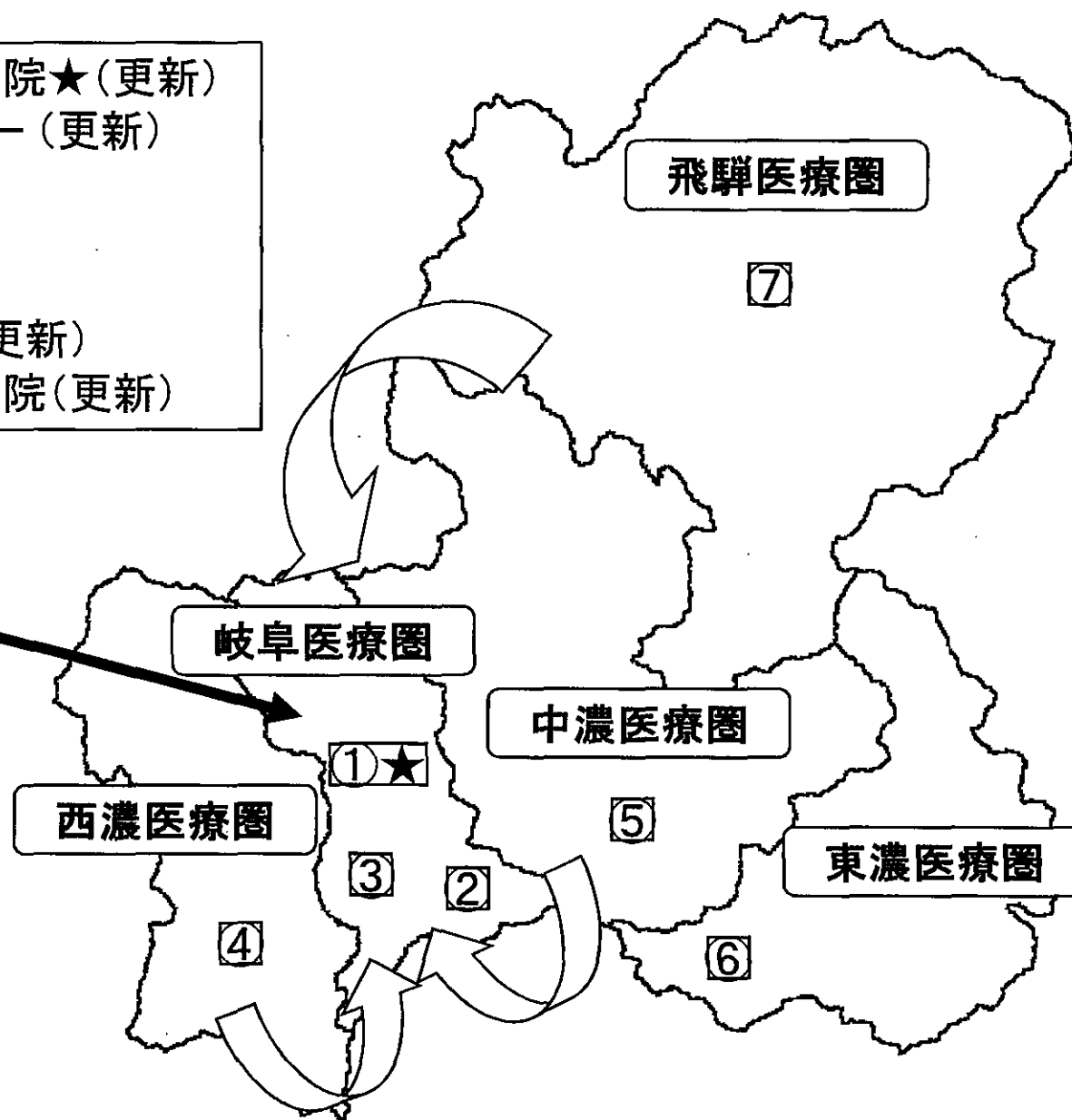
①★は、都道府県拠点病院としての機能から、県下各地域からの受診がある。(西濃107件、中濃120件、飛騨15件 ほか)

②は岐阜医療圏に加え、中濃医療圏からの受診者が75件

③は岐阜医療圏に加え、西濃医療圏からの受診者が71件

このように患者が分散することで、治療が円滑に実施される。

(いずれも数字は、国保5月診療分)



5つの二次医療圏に7つの がん診療連携拠点病院の指定が必要

1 県内隅々に至るがん医療の均てん化

- 岐阜県の面積は国内7位
- 飛騨医療圏は石川県、徳島県等の広さに匹敵
- 中山間地域や過疎地を抱える岐阜県においては、各医療圏に少なくとも1つのがん診療連携拠点病院が必要
- がん治療中の者の7-9割が住所地の二次医療圏内に通院

がん治療中の者の 居住二次医療圏	受 診 件 数	受診医療機関の所属二次医療圏(%)						
		岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨	県外	計
岐 阜	7,763	91.0	2.0	1.0	0.0	0.0	6.0	100.0
西 濃	3,486	10.0	84.1	0.1	0.0	0.0	5.7	100.0
中 濃	3,428	11.8	0.4	69.5	9.0	0.8	8.6	100.0
東 濃	3,049	0.5	0.1	0.8	85.8	0.4	12.5	100.0
飛 騨	1,335	2.7	0.1	1.8	0.4	87.0	8.0	100.0
計	19,081	41.2	16.3	13.2	15.4	6.4	7.6	100.0

※国保平成20年5月診療分(悪性新生物) 74歳以下の入院及び通院の合計

2 岐阜医療圏には3病院の指定が必要

- 岐阜医療圏の人口は高知県、徳島県の人口に匹敵
- 資料3のとおり、患者が分散することで、治療が円滑に実施可

病院名	県内居住者 受診件数	受診者の住所地二次医療圏				
		岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨
①岐阜大学医学部附属病院★	1,108	863	107	120	3	15
②岐阜県総合医療センター	1,036	939	15	75	2	5
③岐阜市民病院	1,348	1,275	71	29	3	6

※国保平成20年5月診療分(悪性新生物) 74歳以下の入院及び通院の合計

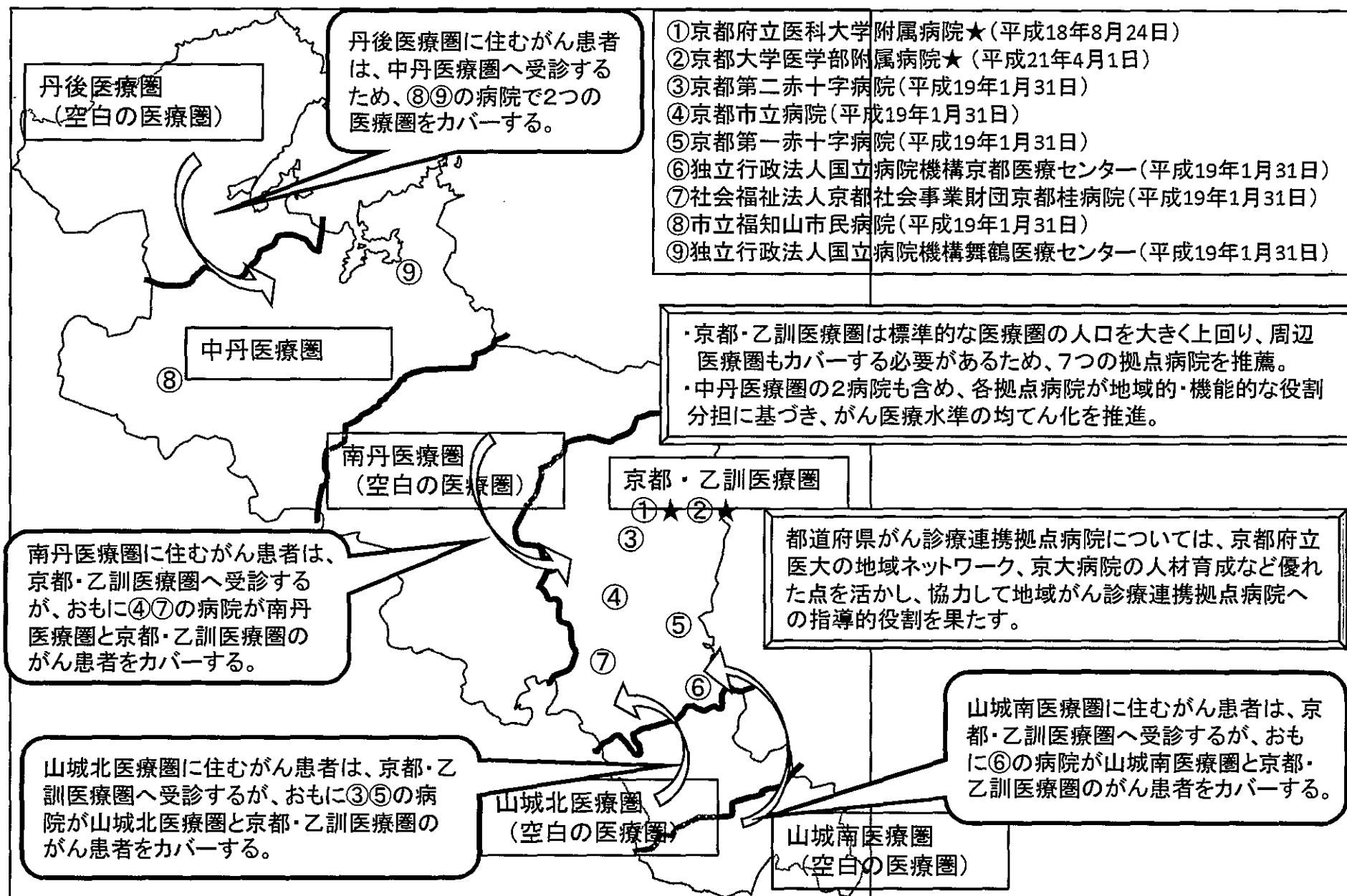
- 3病院とも県内他圏域の患者の診療も担っている。
- 3病院の機能分担(食道がん、女性のがん、小児がんほか)
- 27医療機関6医師会からなる『岐阜地域医師会連携パス機構』では、平成21年度から5大がん地域連携パスの試験運用を開始しており、3病院が事務局を担当
- 医師共有・育成コンソーシアムの創設により3病院が連携してがん専門医師の育成を計画

3 7つのがん診療連携拠点病院の充実した協力体制

- 岐阜県がん診療連携拠点病院協議会の開催、7拠点病院の協力による緩和ケア研修会の開催、相談支援センター連絡会の開催等

2 6 京 都 府

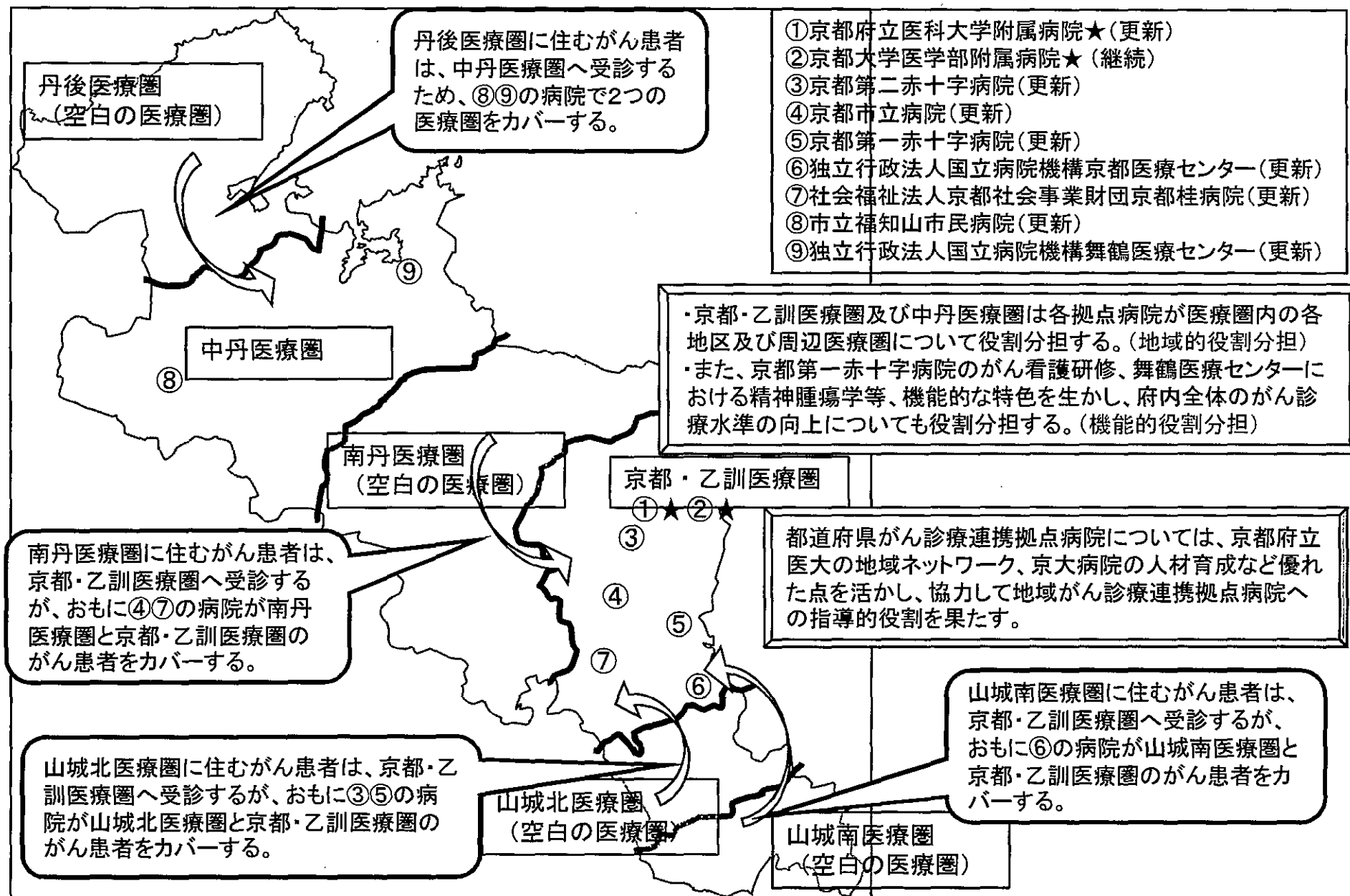
京都府 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

				年間新 入院がん 患者数 (1月～12 月)	年間新 入院患者 数に占める がん患者 の割合(%)	悪性腫 瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者数 (1月～12月)		手術療法への患 者数		緩和ケア チームに 対する新 規依頼 件数 (6～7月 の累計)	相談支 援セン ター相 談件数 (6～7月 の累計)	通院時 共同指 導料26 ～7月の 累計)
							肺がん 手術	胸腔鏡 下手術	胃がん 手術	内視鏡 手術 結腸直 腸癌 (EMR)	大腸がん 手術	内視鏡 手術	肝臓がん 手術	ラジオ 波焼灼 療法	乳がん 手術	乳房再 建術(乳 房切除 後)二 期計に 行なうもの	体外照 射	小腸運 治療法	入院患 者数	外来患 者数			
1	★	更新	京都市立 医科大学 附属病院	37830	32.00	2380	20	040	80	40	80	40	20	40	360	40	640	030	2510	840	220	880	40
				4798	41.5	212	0	7	8	0	8	20	5	19	35	0	470	71	221	227	19	151	1
2	★	現況	京都大学 医学部附 属病院	57610	32.60	2670	00	050	80	40	60	40	140	010	180	40	14860	020	4540	6780	530	40	60
				5729	32.4	487	7	23	0	3	0	10	18	19	26	0	1165	20	537	499	74	9	12
3		更新	京都第二 赤十字病 院	27930	18.90	1360	20	00	180	60	160	050	040	40	60	40	0810	40	2120	4240	00	890	40
				2883	19.4	160	2	5	14	3	12	11	8	3	5	0	244	0	153	155	11	147	0
4		更新	京都市立 病院	20830	20.10	1330	190	030	80	30	170	20	130	40	210	10	2660	270	0410	830	40	3580	40
				2256	22.0	88	1	6	9	0	9	3	2	6	13	0	306	38	210	228	6	95	0
5		更新	京都第一 赤十字病 院	37030	26.90	2590	40	040	190	40	170	60	030	80	160	40	1750	40	0900	1950	120	650	20
				3547	26.4	247	1	5	7	16	18	3	4	8	23	1	303	0	205	235	6	63	8
6		更新	京都医療 センター	30630	25.90	1980	120	00	150	10	120	60	80	160	130	40	0230	40	0720	1960	120	2380	40
				3088	25.9	190	7	5	10	0	12	3	3	18	13	0	90	0	196	223	27	193	5
7		更新	京都桂病 院	37540	36.50	2040	00	070	80	080	400	1050	80	60	80	40	3570	40	0980	1610	150	120	40
				3451	31.8	211	1	14	0	21	4	20	0	4	5	5	355	0	251	176	20	159	0
8		更新	福知山市 民病院	2230	17.10	610	00	00	60	20	30	40	00	40	60	40	0620	60	530	650	180	10	00
				934	16.2	90	0	0	4	1	11	4	2	4	9	0	185	13	109	232	20	49	4
9		更新	東海医療 センター	6850	15.10	280	00	00	20	40	60	10	00	40	20	40	0030	40	350	280	20	440	40
				707	18.0	21	0	0	2	0	2	2	0	1	1	0	117	0	28	21	0	17	4

京都府 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



京都府におけるがん診療連携拠点病院数・機能的役割分担等について

二次医療圏		人口	必要な 拠点病院数	拠点病院	機能的役割分担 (下記分野で医療等の水準向上に取り組む)
丹後医療圏		11万人	(1)	※	
中丹医療圏		21万人	2 丹後医療圏 の支援含む	福知山市民病院 舞鶴医療センター	血液がん、IMRT、小線源(府北部) 精神腫瘍学、温熱療法
南丹医療圏		15万人	(1)	※	
京都・ 乙訓 医療圏	京都市南西部 乙訓	162万人	7~8 周辺医療圏 の支援含む	京都桂病院 京都市立病院	肺がん治療、薬剤師研修 血液がん、小児がん、小線源、腔内照射
	京都市北東部			京大医学部附属病院	人材育成・配置、先進的放射線治療
	京都市北西部			京都府立医大附属病院 京都第二赤十字病院	拠点病院ネットワーク、緩和ケア指導 内視鏡診断・治療、地域連携
	京都市南東部			京都第一赤十字病院 京都医療センター	消化器、婦人科がん、看護師研修 化学療法、患者との連携
山城北医療圏		45万人	(1)	※	
山城南医療圏		12万人	(1)	※	

※ がん診療連携拠点病院のない医療圏については、がん診療連携拠点病院と連携し、当該圏域における医療水準の向上、連携体制の構築を目指す「地域がん診療連携協力病院」(4病院)を設置。

- ・相談支援センター設置、近隣拠点病院と連携し診療連携会議を開催する等の取組を実施中
- ・21年度 1病院 3,000千円補助

丹後:京都府立与謝の海病院、南丹:公立南丹病院、山城北:第二岡本総合病院、山城南:公立山城病院

京都府のがん診療連携拠点病院等への支援・連携推進の取組

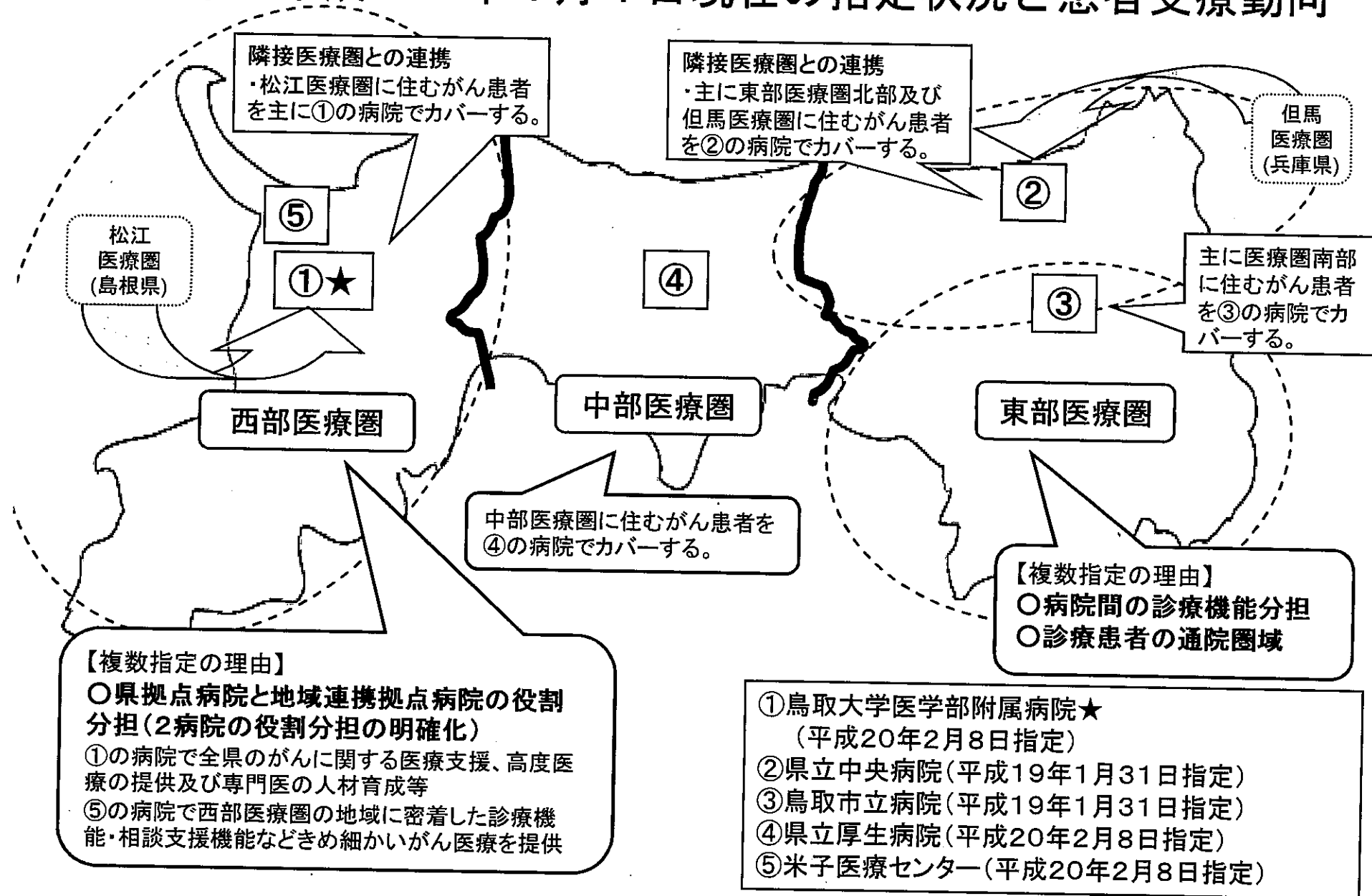
運営助成	○がん診療連携拠点病院に対し、国単価の満額を補助 21年度 都道府県拠点:28,000千円、地域拠点:22,000千円
専門従事者確保	○認定看護師(がん放射線療法看護)養成講座開設。全国から受講生受入 ※京大病院、京都府立医大病院が協力し講師派遣。 21年9月～ 定員30名/年
連携推進	○がん診療連携協議会・部会(拠点病院間の連携) ○戦略会議(府立医大・京大の連携) ○「地域がん診療連携協力病院」の設置。近隣拠点病院と連携し診療連携会議開催等
その他支援	○拠点病院での国指針に基づく緩和ケア研修開催のため、府で先行実施(全国初。京都府立医大病院が積極的関与) →21年10月現在で修了者数全国5位(379名)

がん診療連携拠点病院が医療圏の数等を超えて指定されることによる相乗効果

化学療法・放射線療法等の専門医療従事者の確保	○がんプロフェッショナル養成プランで専門医療従事者養成(放射線治療医5名、がん薬物療法専門医21名、がん専門薬剤師3名、医学物理士・放射線治療品質管理士6名等)。府内への就職奨励。 ○府立医大・京大合同研修会の開催(化学療法) ○各拠点病院の特色を踏まえた研修の開催(京都府立医大・中核病院緩和ケアチーム向け研修、京都第一日赤・がん看護 等)
地域との連携推進	○京都府がん診療連携協議会に地域連携パス部会及びワーキンググループを設置。我が国に多いがん等について府域統一版の地域連携パスを作成予定。(前立腺がんについて統一パス試行)
緩和ケアの推進	○がん診療連携拠点病院の未設置医療圏における国指針に基づく研修の開催(山城北医療圏、各拠点病院から講師派遣)
患者等への情報提供の充実	○がん患者サロンを設置している拠点病院 20年度 3/9病院 → 21年度 6/9病院 ○相談支援センターのある二次医療圏 20年度 2/6医療圏 → 21年度 6/6医療圏

3 1 鳥 取 県

鳥取県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

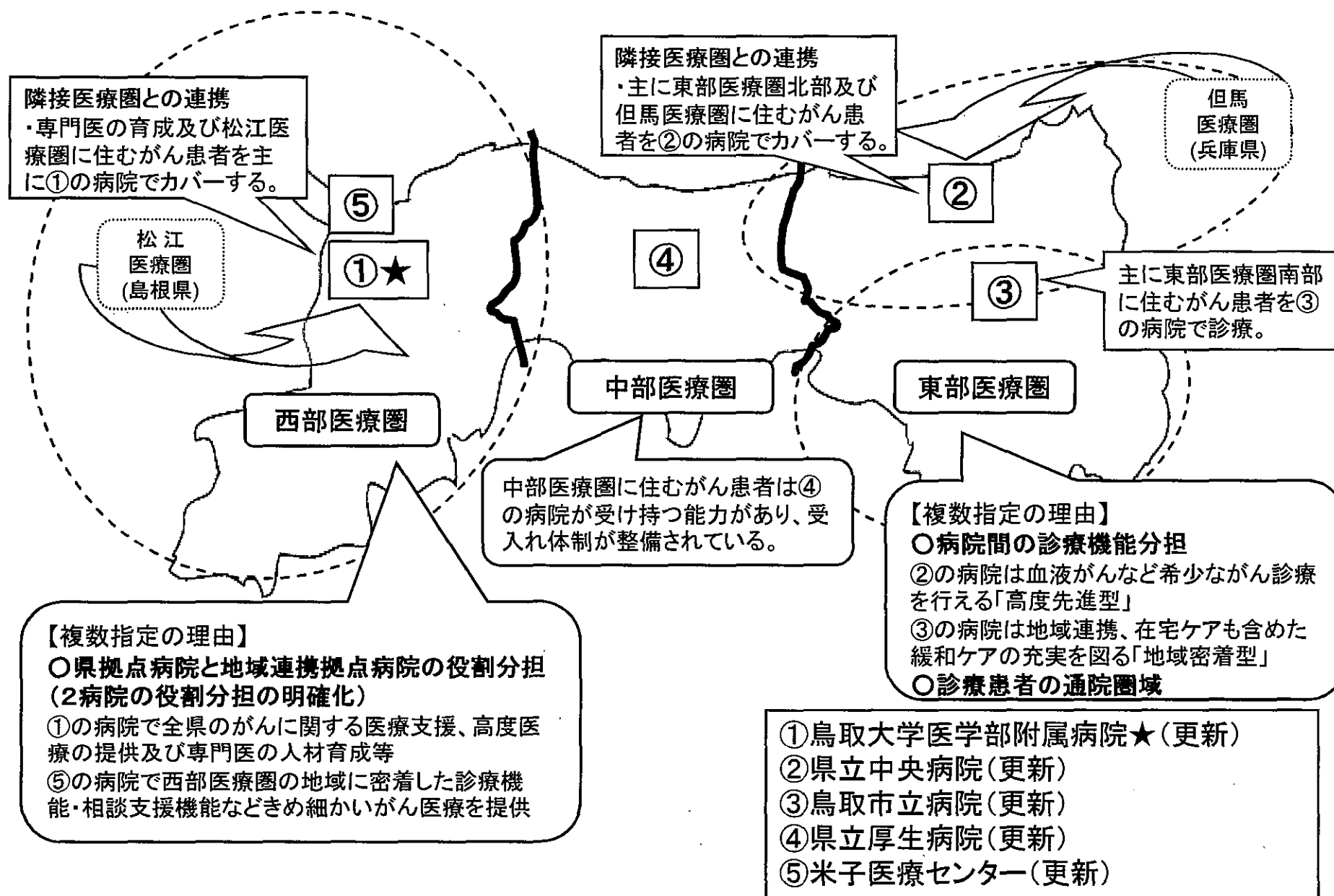


※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

資料 2

		都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計										放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月～7月の集計)	緩和ケア	相談支援センター	地域連携		
					年間新入院がん患者数(1月～12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月～12月)		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6～7月の集計)	相談支援センター相談件数(6～7月の集計)	退院時共同指導料2(6～7月の集計)
								開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数			
1	★	更新	鳥取大学医学部附属病院	(3,357)	(29.0)	(329)	(4)	(10)	(4)	(2)	(10)	(3)	(2)	(26)	(11)	(0)	(386)	(0)	(289)	(121)	(11)	(42)	(0)	
				2,354	18.6	176	4	22	7	0	10	1	0	18	12	0	313	10	240	211	9	44	0	
2		更新	県立中央病院	(2,253)	(29.0)	(76)	(1)	(3)	(4)	(0)	(5)	(0)	(2)	(0)	(2)	(0)	(133)	(0)	(183)	(434)	(11)	(7)	(0)	
				2,345	27.8	69	0	0	2	1	7	3	7	3	7	0	93	0	120	102	14	390	0	
3		更新	鳥取市立病院	(1,601)	(20.3)	(52)	(5)	(4)	(11)	(0)	(12)	(2)	(11)	(0)	(6)	(0)	(130)	(0)	(112)	(207)	(27)	(254)	(0)	
				1,227	17.6	106	8	1	8	0	14	4	2	1	6	0	109	3	57	121	12	360	0	
4		更新	県立厚生病院	(866)	(17.0)	(47)	(0)	(7)	(10)	(0)	(3)	(1)	(0)	(3)	(8)	(0)	(104)	(0)	(140)	(254)	(0)	(101)	(0)	
				909	17.8	39	0	5	5	3	7	0	3	2	9	0	103	0	220	157	0	129	0	
5		更新	米子医療センター	(986)	(27.2)	(49)	(2)	(5)	(5)	(0)	(7)	(1)	(1)	(1)	(5)	(0)	(184)	(0)	(80)	(104)	(19)	(61)	(4)	
				1,251	33.9	39	1	3	3	1	7	0	0	0	11	0	163	0	173	318	11	87	2	

鳥取県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



がん診療連携拠点病院の整備方針

- 本県のがん対策推進計画により、都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(島根県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

二次医療圏数を超える数の医療機関を指定する理由

東部医療圏

1 病院間の診療機能分担

県立中央病院

- 腫瘍内科、血液がん、婦人科がんの学会認定専門医を配置し、幅広い高度の急性期がん医療を提供。
- 隣接医療圏の一部も視野に入れた、血液がんなど希少ながんの診療を行える「高度先進型」

鳥取市立病院

- きめ細かい放射線治療体制及び緩和ケア体制の充実。(JASTRO認定協力施設)
- 地域との連携、在宅ケアを含めた緩和ケアの充実を図る「地域密着型」

2 がん患者の通院圏域

県立中央病院

- 主に東部医療圏北部及び但馬医療圏(兵庫県北部地域)のがん医療の提供。
- 隣接医療圏からの入院患者率(H20)
・但馬医療圏 12.5%

鳥取市立病院

- 主に東部医療圏南部を中心とするがん医療の提供。

■ 2病院間の入院患者構成比(H20)

区 分	中央病院	市立病院
医療圏北部	61 %	39 %
医療圏南部	35 %	65 %

※両院は外来患者数でも同様の傾向

3 複数指定されることの効果

- 圏域全体において、身近な地域で高度な質の高い医療の提供が図られる。
- 隣接医療圏の実質的な地域がん拠点病院機能の一部を果たす。
- 両病院の専門的医療体制の充実と、医療水準の向上。
- 両病院の特性を生かした連携による、がん医療の均てん化。
- 医療機器の共同利用などにより、早期診断を図っており、診療の連携協力体制の整備がより一層図られる。

二次医療圏数を超える数の医療機関を指定する理由

西部医療圏

1 都道府県がん診療連携拠点病院との役割分担

鳥取大学医学部附属病院 (都道府県診療連携拠点病院)

- 全県を見据えた積極的な集学的治療
- 各種がん関連学会専門医を始めとする、県全体でがん医療に携わる人材を育成する機能
- 地域がん診療連携拠点病院等に対する情報提供、診療支援機能
- 隣接する医療圏(松江医療圏)のがん医療の提供。(島根県で策定されている「島根県保健医療計画」において専門的ながん診療を担う医療機関として位置づけ)

■隣接医療圏からの入院患者率(H20) : 松江医療圏 17%

米子医療センター (地域がん診療連携拠点病院)

- 地域に密着した診療機能・相談支援機能体制
- 放射線治療や緩和医療などを含めたきめ細かいがん医療を提供
- 地域の医療従事者を対象とした在宅療養に向けた研修、地域住民を対象としたフォーラム等の開催など、地域密着型の研修、啓発活動

2 複数指定されることの効果

- 今後とも2病院の役割分担を明確にし、それぞれの機能を十分に発揮できるよう、ハード及びソフトの両面からがん診療連携拠点病院を整備することで、がん医療水準の均てん化が推進される。
- 西部医療圏でのより充実したがん診療体制の向上につながるものと期待される。

拠点病院推薦書チェックリストで指摘された項目について

『緩和ケアチームと主診療科との定期カンファレンス開催記録』(別紙11)

※整備指針: 週1回程度の開催(2ヶ月間で8回程度<許容範囲は4回以上>)

県立厚生病院

○カンファレンス開催状況

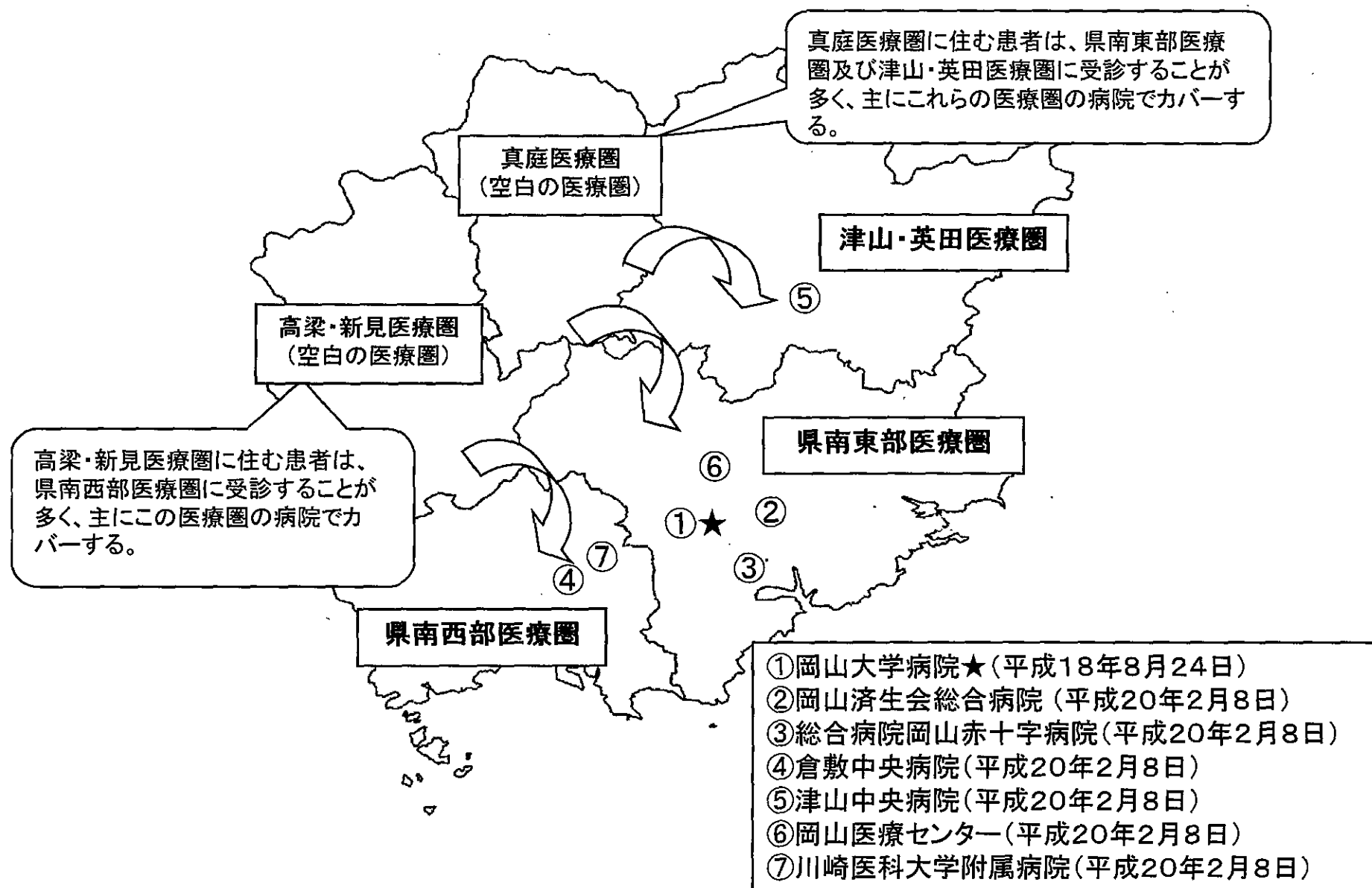
・調査期間の6月は疼痛コントロール不良の患者がなかったため開催実績がなく、7月に4回の症例検討実績があり、許容範囲内で要件を満たしている。8月以降は4回(月/回)程度のカンファレンスを開催。

○今後の開催方針

・確実に週1回(毎週木曜日)のカンファレンスを定期開催することとしている。

3 3 岡山 県

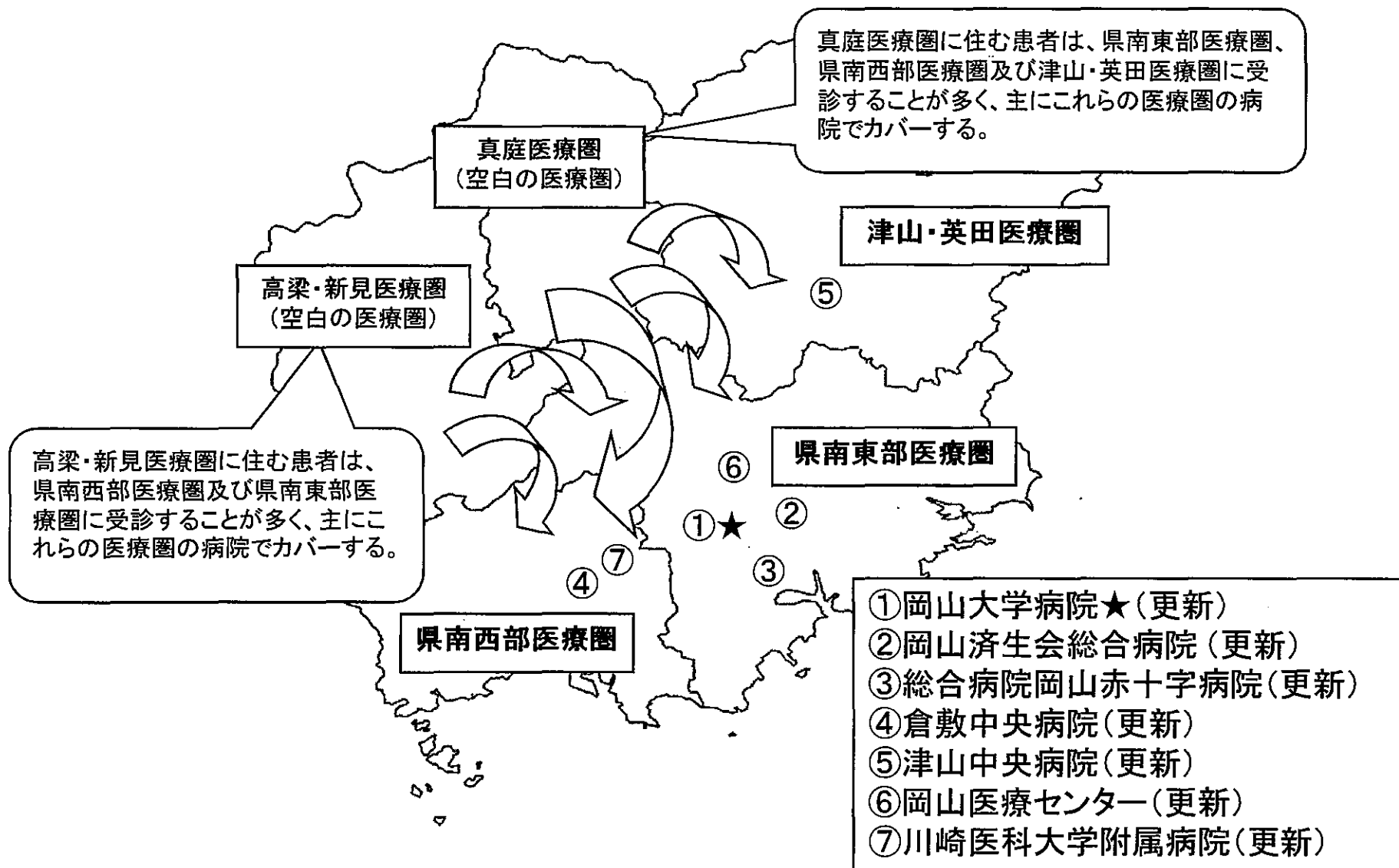
岡山県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



資料 2

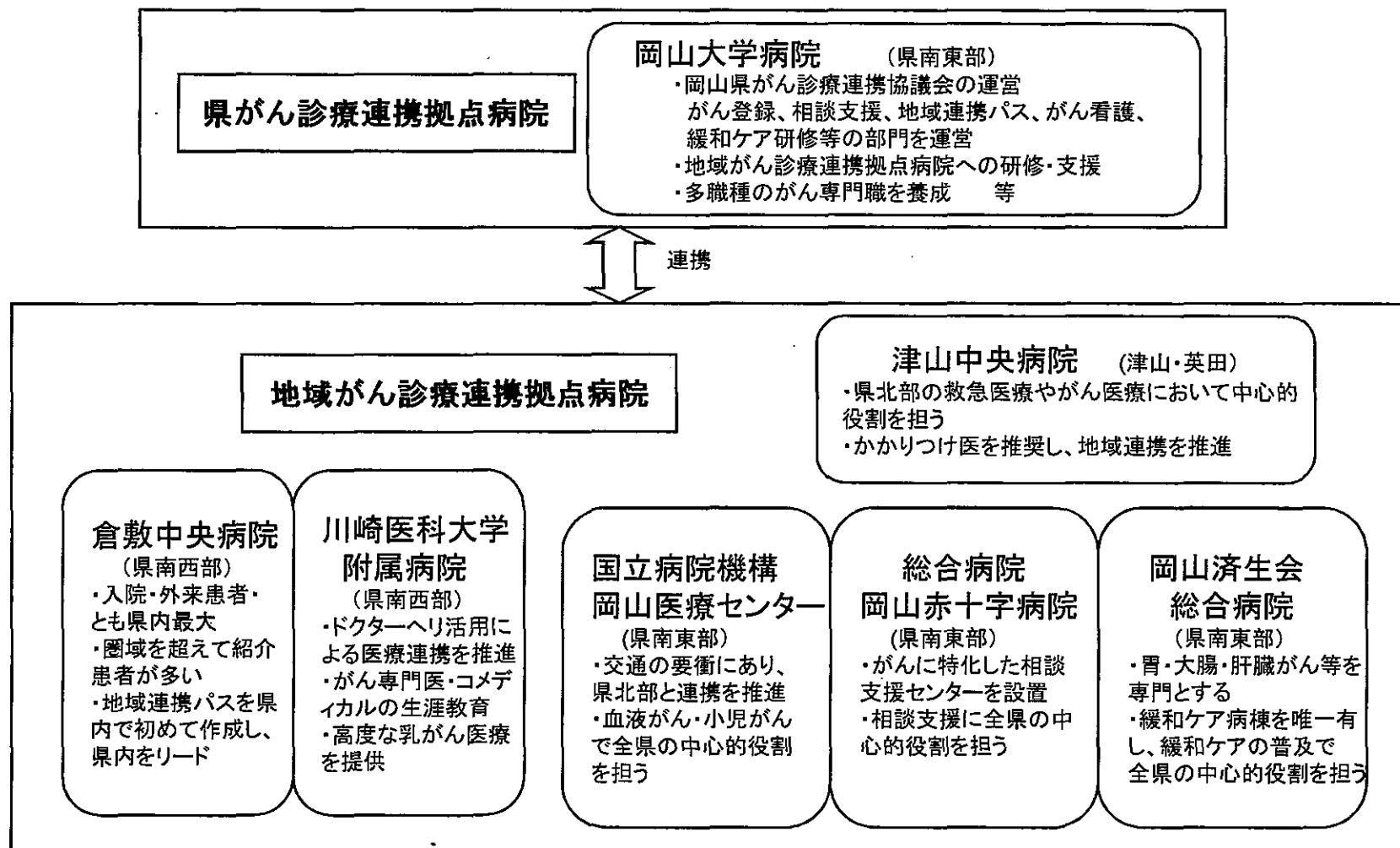
県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数 の状況		治療件数（手術件数） 6～7月の集計											放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)	緩和ケ ア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
			年間新入 院がん患 者数（1 月～12 月）	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合（%）	悪性腫 瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月, 12月)		薬物療法の べ患者数		緩和ケ アチー ムに対 する新 規診療 依頼数 (6～7 月の集 計)	相談 支援 セン ター 相談 件数 (6～ 7月の 集計)	退院 時共 同指 導料 2（6 ～7 月の 集計）
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視鏡 手術 粘膜切 除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房再 建術 (乳房 切除 後) 二期的 に行う もの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1県	更新	岡山大学 病院	(1951) 2087	(12.8) 13.7	(278) 317	(9) 13	(24) 22	(17) 10	(0) 0	(21) 7	(6) 11	(5) 17	(48) 35	(21) 24	(0) 0	(611) 275	(139) 114	(374) 472	(448) 470	(8) 8	(72) 93	(0) 0
2地域	更新	岡山済生 会総合病 院	(2846) 2859	(22.8) 23.0	(176) 210	(3) 1	(13) 3	(21) 22	(1) 0	(30) 33	(3) 1	(24) 13	(33) 53	(14) 9	(0) 0	(246) 318	(0) 0	(143) 107	(663) 210	(14) 25	(55) 84	(0) 0
3地域	更新	総合病院 岡山赤十 字病院	(1633) 1713	(15.4) 15.3	(71) 66	(3) 3	(7) 16	(11) 7	(0) 0	(2) 3	(0) 0	(2) 2	(3) 2	(15) 6	(0) 0	(165) 233	(0) 0	(99) 92	(95) 89	(23) 27	(62) 91	(0) 0
4地域	更新	倉敷中央 病院	(6885) 6895	(22.4) 22.5	(234) 265	(5) 8	(17) 31	(30) 35	(5) 5	(28) 35	(4) 1	(3) 2	(20) 14	(26) 16	(0) 0	(607) 605	(5) 5	(736) 541	(345) 442	(13) 6	(222) 184	(0) 10
5地域	更新	津山中央 病院	(1853) 1794	(18.1) 17.7	(129) 142	(2) 1	(6) 7	(21) 19	(0) 0	(19) 15	(1) 2	(0) 2	(2) 10	(10) 6	(0) 0	(173) 179	(0) 0	(61) 124	(227) 651	(16) 15	(77) 118	(0) 0
6地域	更新	国立病院 機構岡山 医療セン ター	(3519) 3568	(24.6) 25.3	(86) 222	(4) 3	(18) 17	(8) 12	(0) 0	(15) 7	(1) 2	(5) 6	(0) 1	(8) 4	(0) 0	(199) 226	(0) 0	(149) 180	(51) 120	(8) 10	(52) 49	(0) 0
7地域	更新	川崎医科 大学附属 病院	(3682) 3242	(26.0) 22.2	(175) 102	(5) 4	(16) 6	(19) 15	(0) 8	(32) 10	(6) 4	(3) 2	(6) 3	(42) 38	(3) 1	(562) 586	(67) 117	(217) 210	(251) 301	(15) 12	(82) 243	(0) 0

岡山県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦に係る岡山県の方

県内のがん医療の推進は、県がん診療連携拠点病院である岡山大学病院を中心に6つの地域がん診療連携拠点病院がそれぞれの特徴を生かして、得意分野などで県全体をリードし、高いレベルでの均てん化に貢献するとともに、圏域の枠を超えて相互に緊密に連携し、一丸となつてがん医療の充実・向上に取り組んでいくことが重要であると考えています。



《圏域ごとの推薦病院について》

- 県南東部医療圏は、面積が広大で、多数の人口を擁し、県中北部の整備されていない「高梁・新見」「真庭」の2つの医療圏の専門的ながん医療をカバーし、また特定の分野ごとに全県的な役割を担う病院があることから、複数の地域がん診療連携拠点病院が必要である。また県がん診療連携拠点病院がこの医療圏に位置し、がん診療連携協議会の積極的な運営や医療連携体制の推進を担っている。

よって、県がん診療連携拠点病院として1病院 岡山大学病院、また地域がん診療連携拠点病院として、3病院 岡山済生会総合病院、総合病院岡山赤十字病院、国立病院機構岡山医療センターを推薦する。

- 県南西部医療圏は、多数の人口を擁し、県中北部の整備されていない「高梁・新見」、「真庭」の2つの医療圏の専門的ながん医療をカバーし、また特定の分野ごとに全県的な役割を担う病院があることから、複数の地域がん診療連携拠点病院が必要である。

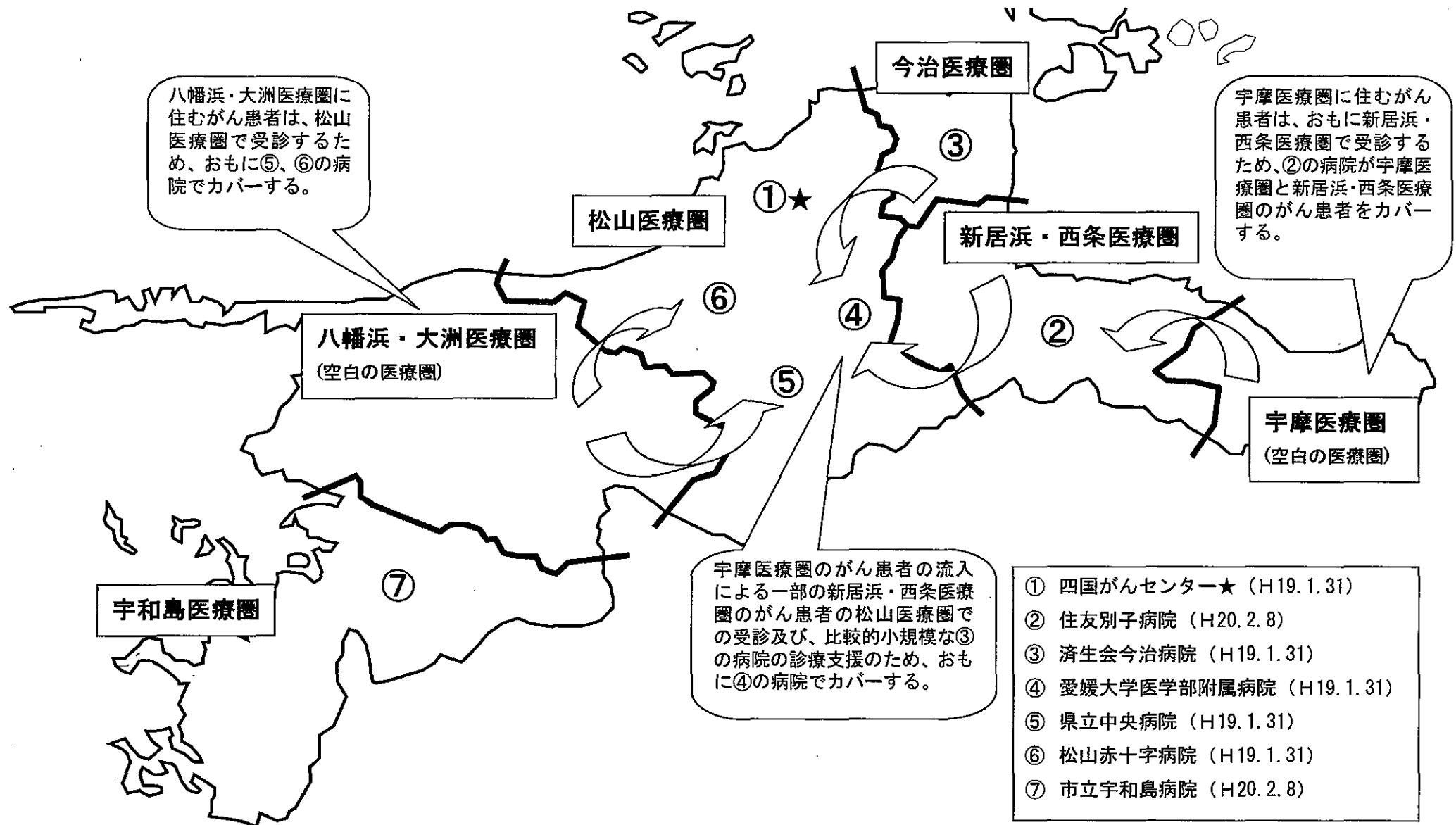
よって、地域がん診療連携拠点病院として、2病院 倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院を推薦する。

- 津山・英田医療圏においては、県中北部の中核医療機関である津山中央病院を地域がん診療連携拠点病院として推薦する。

38 愛媛県

愛媛県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

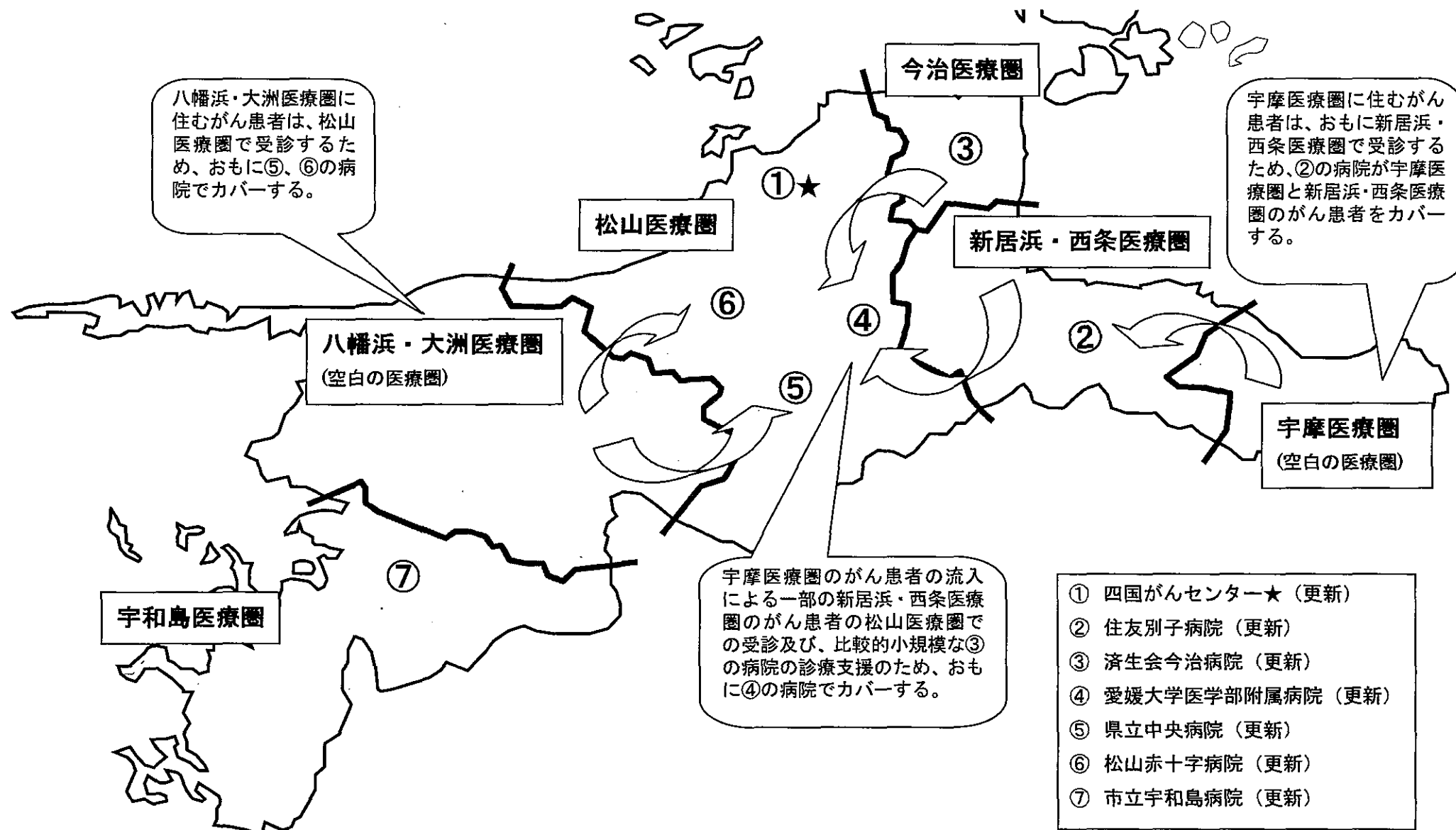
資料1



	都道府県○ r地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数 の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る薬 物療法(6～7 月の集計)		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携
				年間新入 院がん患 者数(1 月～12 月)	年間 新入院 患者数 に占める がん患者 の割合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数(1月～12 月)		薬物療法のべ 患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療依 頼数(6～7 月の集計)	相談支 援セン ター相 談件数 6～7月 の集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の集計)	
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術粘 膜切 除 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
1	★	更新	四国がん センター	(6,239) 7,004	(89.9) 99.0	(378) 443	(11) 7	(9) 31	(32) 36	(1) 1	(15) 28	(1) 2	(5) 8	(9) 0	(75) 81	(0) 0	(756) 1,094	(69) 34	(493) 373	(1,454) 562	(29) 60	(1,530) 1,620	(1) 0	
2		更新	住友別子 病院	(1,060) 1,475	(16.2) 23.1	(65) 69	(0) 2	(0) 5	(4) 6	(1) 3	(6) 6	(3) 1	(1) 4	(6) 0	(9) 2	(0) 0	(120) 113	(0) 0	(44) 38	(51) 58	(5) 3	(283) 44	(0) 0	
3		更新	済生会今 治病院	(747) 621	(19.9) 17.3	(52) 49	(2) 0	(0) 1	(11) 8	(0) 0	(8) 14	(1) 2	(2) 0	(8) 10	(3) 7	(0) 0	(60) 60	(0) 0	(21) 28	(52) 53	(7) 2	(102) 228	(0) 0	
4		更新	愛媛大学 医学部附 属病院	(5,762) 1,328	(60.6) 14.1	(185) 125	(6) 4	(2) 5	(3) 4	(1) 0	(10) 3	(0) 0	(0) 3	(19) 22	(9) 4	(0) 0	(327) 317	(23) 27	(214) 201	(95) 84	(8) 6	(38) 24	(0) 0	
5		更新	県立中央 病院	(2,558) 2,768	(17.1) 18.6	(138) 176	(8) 1	(2) 16	(24) 14	(0) 0	(27) 20	(0) 0	(11) 9	(29) 22	(12) 15	(0) 0	(453) 313	(0) 0	(145) 185	(165) 258	(5) 4	(12) 12	(0) 1	
6		更新	松山赤十 字病院	(2,960) 2,712	(19.1) 18.1	(121) 143	(1) 2	(5) 9	(10) 11	(2) 0	(15) 23	(4) 5	(3) 4	(43) 15	(5) 5	(0) 0	(163) 159	(0) 0	(46) 127	(100) 27	(15) 25	(44) 18	(19) 5	
7		更新	市立宇和 島病院	(1,826) 1,626	(19.4) 18.3	(50) 106	(2) 3	(3) 3	(10) 11	(0) 0	(12) 15	(0) 4	(0) 3	(1) 3	(12) 7	(0) 0	(181) 132	(0) 0	(126) 65	(113) 106	(43) 28	(72) 207	(0) 0	

愛媛県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料3



愛媛県における各がん診療連携拠点病院の役割

●本県におけるがん診療体制について

本県の6つの2次医療圏のうち、宇摩医療圏及び八幡浜・大洲医療圏は、拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条医療圏、松山医療圏と一体的な診療体制を整備することにより、県内4つの『がん医療圏』として集約化を図った上で、各医療圏に拠点病院を配置し、県内全域をカバーできる体制を整備している。

●松山医療圏に4病院を整備する理由（4病院：四国がんセンター、愛媛大学医学部附属病院、県立中央病院、松山赤十字病院）

愛媛県入院患者調査（平成16年）の結果では、がん患者は高度な医療機能の集積する松山医療圏に集中する傾向が顕著である。

（1）患者の受療動向

県内のがんによる入院患者（病院の入院患者。以下同じ）の約60%が松山医療圏に集中し、松山医療圏に所在する病院の入院患者の31%は他の医療圏からの流入患者であり、県内の111病院の入院患者の43%、松山医療圏に所在する病院の入院患者の75%（878人）を当該4病院で受け入れている。

（2）他の2次医療圏との関係

宇摩医療圏の患者の3割が隣接の新居浜・西条医療圏、2割が松山医療圏に流出し、新居浜・西条医療圏の患者の2割強も松山医療圏に流入しており、また八幡浜・大洲医療圏の患者の4割強は、隣接する松山医療圏に流出しているため、松山医療圏の拠点病院の診療支援は不可欠である。なお、今治医療圏は離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには松山医療圏の拠点病院との連携が必要である。

（3）拠点病院間の機能分担

次頁「医療機関の機能・役割」とおり

よって、相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築するとともに、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するために、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とし、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある愛媛大学医学部附属病院、県立中央病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

●未充足要件について

済生会今治病院は、年間入院がん患者数が621人（H20年1～12月）であり、1200人を超えていない。これは、病床数171床という中規模病院であることと、四国がんセンターの新築移転、複数常勤医師の退職・転任が影響していると思われるが、平成22年度から新たに常勤医師の派遣を得られる予定であることと、平成21年12月からリニアックが稼働したことにより、入院患者数は今後、増加に転じるものと見込まれる。今治医療圏では、150床を越える医療機関は3病院（うち1つは精神病床のみ）と、中小規模の病院が多い地域であるうえに、面積の3割以上が島嶼部という交通が不便な地域を抱えており、今治医療圏の住民の利便性の確保、医療機関への的確な支援等を十分に行うためには、済生会今治病院が引き続き同医療圏の拠点病院として機能を担ったうえで、松山医療圏の拠点病院と連携することにより、今治医療圏のがん医療の充実を図る。

市立宇和島病院では、もともと精神科を標榜しておらず、同医療圏に300以上の精神病床のみを有する正光会宇和島病院と連携・協力し、患者の治療を行っていたため、緩和ケアチームに精神科医師が配置されていなかった。今回の指定更新にあたり、正光会宇和島病院及び医師派遣を実施している愛媛大学医学部に精神科医の派遣を依頼していたが、医師不足の中で困難を要した。市立宇和島病院は宇和島医療圏のみならず、拠点病院が存在しない隣接する八幡浜医療圏も含めた南予地域で唯一の拠点病院であり、欠くことのできない重要な拠点病院であるため、県としても強く協力要請を行っていたところ、正光会宇和島病院から、平成22年4月から週1回（半日若しくは1日）医師派遣に協力する申し出があり、市立宇和島病院では現在、正光会宇和島病院から医師派遣を前提とした、緩和ケアチームの体制整備を行っている。

県内の拠点病院の機能・役割分担（総括）

【がん入院患者受入実態調査（H21.9 実施）による主な医療圏の入院患者比率】

◆都道府県拠点病院（1 病院）

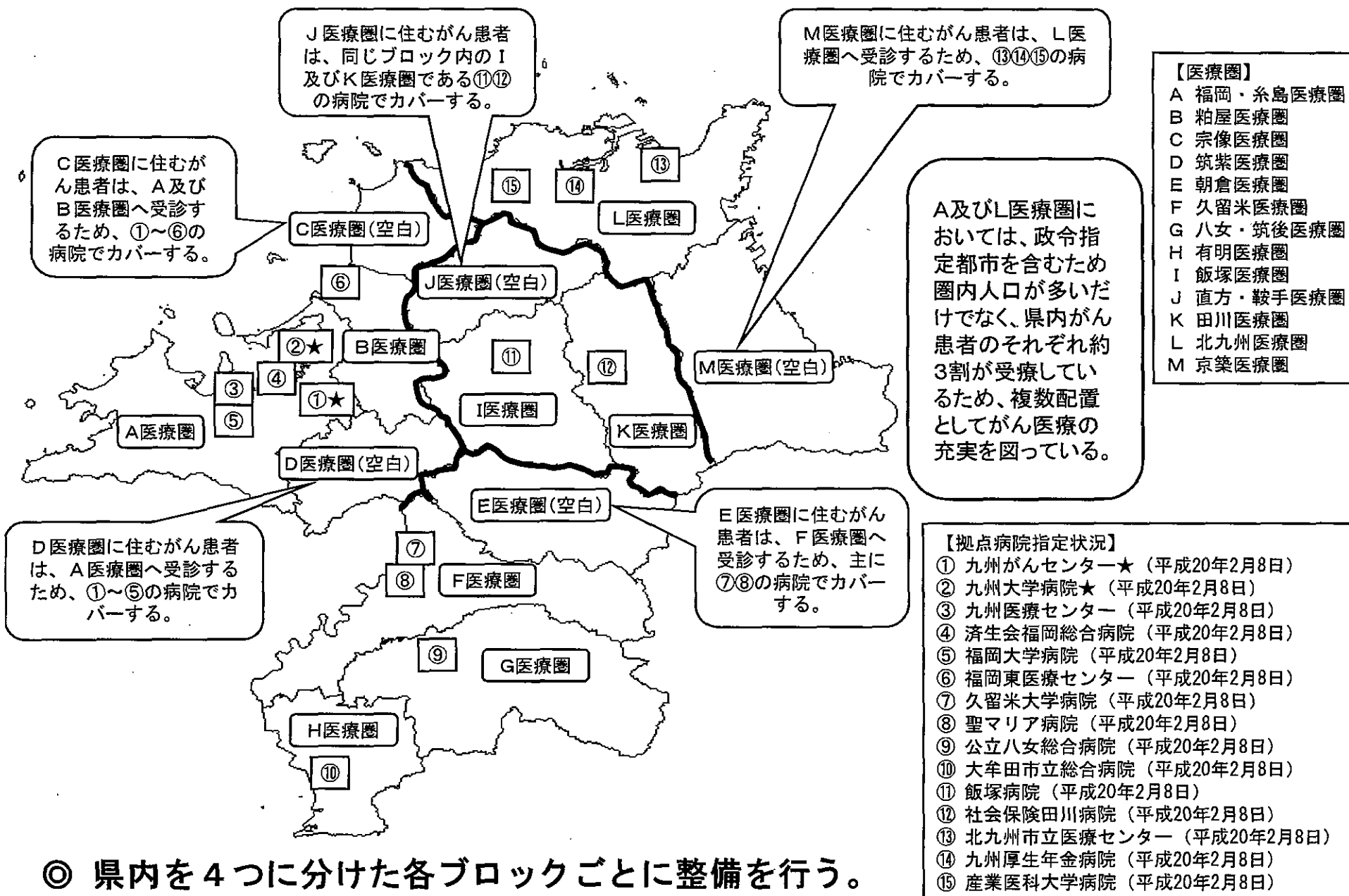
医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター （2次医療圏：松山） （がん医療圏：全県）	○全国がん（成人病）センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。 ○都道府県拠点病院として県がん診療連携協議会を主宰する。 ●がん専門病院として全県の医療機関に対する支援を行う。【松山 44%、今治 15%、八幡浜・大洲 15%、新居浜・西条 14%】

◆地域拠点病院（6 病院）

2 次 医療圏	がん 医療圏	医 療 機 関 名	医療機関の機能・役割
宇摩(空白) 新居浜・西条	東 予	住友別子 病院	○空白の医療圏である「宇摩医療圏」を含め、東予地域において、高度ながん診療を行う。
今治	今 治	済生会今 治病院	○離島の住民の診療、医療圏内の中小医療機関の支援を重点的に行い、中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。
松山	中 予	愛媛大学 医学部附 属病院	○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。 ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関への医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ●特に、空白の「宇摩医療圏」も担当する住友別子病院（「新居浜・西条医療圏」）、比較的小規模である済生会今治病院（「今治医療圏」）の診療支援を行う。【松山 44%、新居浜・西条 19%、今治 17%】
八幡浜・大洲 (空白)		県立中央 病院	○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。 ○県内5医療圏にある県立5病院の拠点として、遠隔画像システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。 ○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等を特徴とする。 ○PET-CT センターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。 ●特に、空白の「八幡浜・大洲医療圏」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。【松山 70%、八幡浜・大洲 20%】
		松山赤十 字病院	○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、「松山医療圏」の地域医療支援病院として医療圏内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果たしている。 ○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。 ●特に、空白の「八幡浜・大洲医療圏」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。【松山 85%、八幡浜・大洲 10%】
宇和島	南予	市立宇和 島病院	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、医療圏内完結のがん診療体制を構築する。

40 福岡県

福岡県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



福岡県 診療実績等の比較

	都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		治療件数(手術件数)6月～7月												放射線治療		がんに係る薬物 療法(6月～7月)		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携
				年間新 入院患 者数(1月 ～12月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性腫 瘍手術 総数	肺がん		胃がん		大腸がん		肝臓がん		乳がん		患者実数 (1月～12月)		薬物療法 のべ患者数		緩和ケ アチー ムに対 する新 規診療 依頼数 (6月～7 月)	相談支 援セン ター相 談件数 (6月～7 月)	退院時 共同指 導料2 (6月～7 月)	
							開胸手 術	胸腔鏡 下手術	開腹手 術	内視鏡 手術 粘 膜切除 術(EM R)	開腹手 術	内視鏡 手術	開腹手 術	ラジオ 波焼灼 療法	乳癌手 術	乳房再 建術(乳 房切除 後)二期 的に行 うもの	体外照 射	小線源 治療	入院患 者数	外来患 者数				
1	★	更新	九州がんセンター	(5,435) 4,781	(87.4) 88.3	(156) 176	(1) 4	(27) 14	(9) 9	(0) 2	(16) 24	(0) 1	(7) 4	(0) 9	(59) 60	(0) 0	(742) 771	(29) 35	(537) 584	(361) 394	(60) 84	(596) 408	(0) 0	
2	★	更新	九州大学病院	(6,475) 8,771	(33.0) 44.0	(485) 1,387	(18) 21	(4) 10	(8) 16	(3) 6	(8) 12	(7) 5	(18) 12	(2) 6	(37) 37	(0) 0	(1,210) 1,170	(80) 58	(375) 430	(239) 364	(45) 40	(144) 205	(1) 0	
3		更新	九州医療センター	(4,474) 4,150	(29.1) 27.1	(217) 370	(5) 1	(11) 22	(19) 20	(1) 0	(20) 32	(0) 3	(3) 2	(2) 5	(17) 20	(0) 0	(454) 204	(36) 28	(264) 252	(581) 314	(2) 3	(67) 78	(0) 0	
4		更新	済生会福岡総合病院	(1,716) 1,776	(19.5) 19.4	(121) 128	(1) 1	(3) 6	(7) 7	(0) 0	(8) 24	(6) 4	(2) 3	(12) 5	(9) 11	(0) 0	(252) 294	(0) 0	(113) 93	(207) 135	(15) 18	(291) 51	(0) 1	
5		更新	福岡大学病院	(2,910) 2,231	(20.1) 15.5	(175) 316	(11) 23	(9) 13	(5) 17	(0) 4	(12) 23	(2) 6	(4) 0	(0) 20	(18) 9	(0) 0	(493) 620	(17) 15	(158) 266	(88) 158	(11) 21	(1) 172	(2) 3	
6		更新	福岡東医療センター	(332) 728	(4.9) 10.5	(46) 49	(6) 6	(3) 5	(5) 8	(0) 0	(7) 7	(0) 2	(1) 6	(4) 4	(4) 3	(0) 0	(185) 208	(0) 0	(101) 93	(41) 38	(0) 1	(15) 29	(13) 4	
7		更新	久留米大学病院	(4,610) 4,588	(28.2) 28.2	(258) 315	(12) 15	(7) 2	(21) 26	(0) 0	(18) 20	(3) 4	(16) 21	(30) 58	(15) 14	(1) 0	(876) 923	(21) 20	(271) 417	(283) 477	(21) 14	(99) 66	(0) 0	
8		更新	聖マリア病院	(1,801) 1,886	(11.4) 12.5	(141) 81	(0) 1	(1) 0	(12) 6	(0) 0	(9) 14	(1) 1	(4) 0	(2) 0	(7) 8	(1) 1	(218) 196	(39) 142	(183) 101	(241) 101	(2) 9	(21) 38	(0) 0	

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと

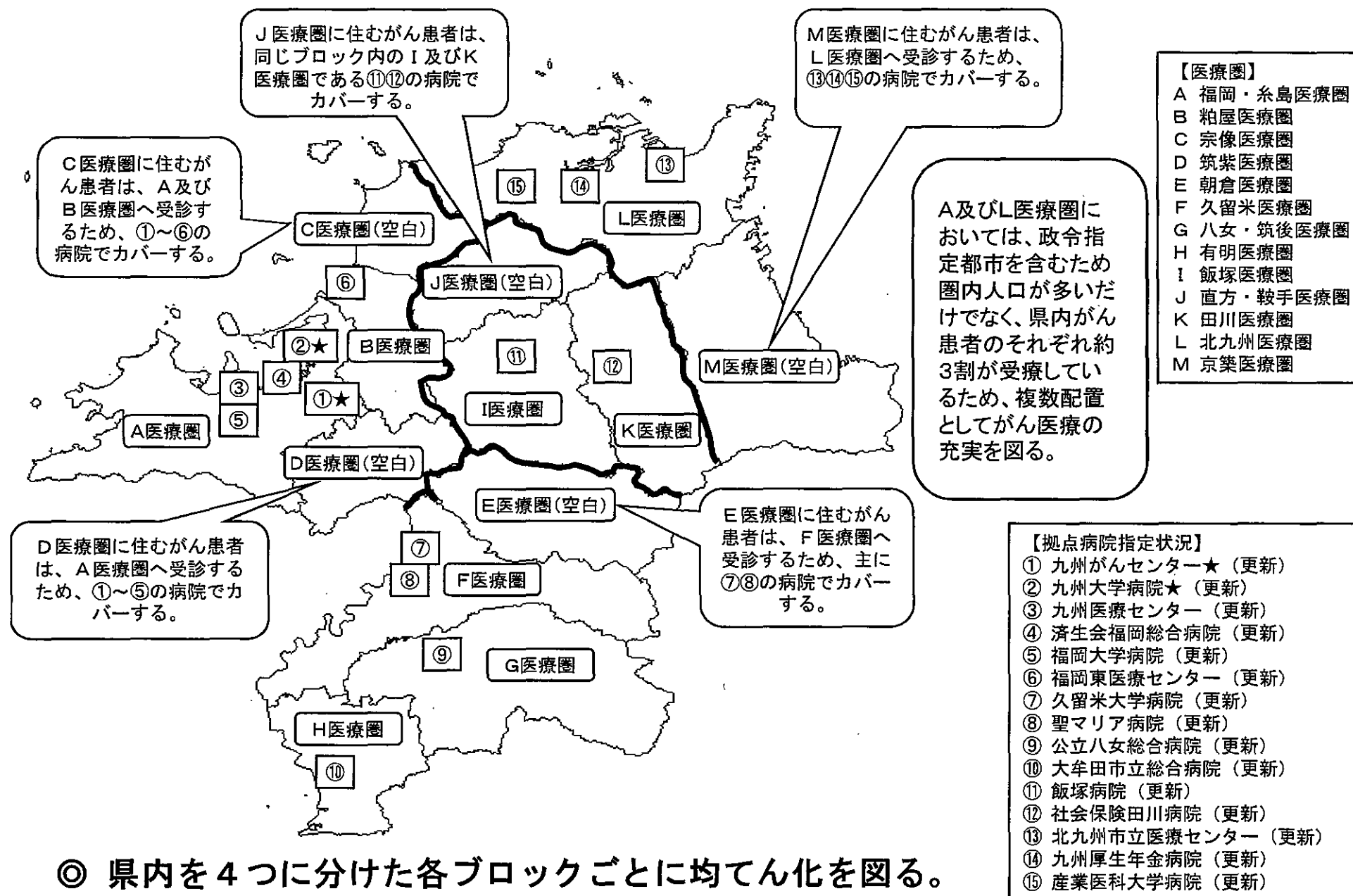
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

福岡県 診療実績等の比較

都道府県 or 地域	更新	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		治療件数(手術件数)6月～7月										放射線治療		がんに係る薬物 療法(6月～7月)		緩和 ケア	相談支 援セン ター	地域 連携	
				年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12 月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性腫 瘍手術 総数	肺がん		胃がん		大腸がん		肝臓がん		乳がん		患者実数 (1月～12月)		薬物療法 のべ患者数		緩和ケ アチー ムに対 する新 規診療 依頼数 (6月～7 月)	相談支 援セン ター相 談件数 (6月～7 月)	退院時 共同指 導料2 (6月～7 月)
							開胸手 術	胸腔鏡 下手術	開腹手 術	内視鏡 手術 粘 膜切除 術(EM R)	開腹手 術	内視鏡 手術	開腹手 術	ラジオ 波焼灼 療法	乳癌手 術	乳房再 建術(乳 房切除 後)二期 的に行 うもの	体外照 射	小線源 治療	入院患 者数	外来患 者数			
9		更新	公立八女総合病院	(1,323) 1,340	(21.3) 22.2	(173) 143	(1) 2	(3) 4	(12) 10	(0) 2	(6) 5	(1) 2	(1) 3	(30) 5	(4) 11	(0) 0	(195) 131	(0) 0	(61) 50	(85) 120	(6) 4	(39) 52	(0) 0
10		更新	大牟田市立総合病院	(974) 1,500	(13.8) 21.3	(97) 98	(0) 0	(1) 1	(0) 4	(0) 2	(7) 7	(0) 0	(3) 2	(6) 3	(6) 9	(0) 0	(177) 117	(4) 2	(89) 111	(325) 110	(3) 9	(15) 15	(0) 0
11		更新	飯塚病院	(3,598) 4,135	(21.8) 24.8	(599) 656	(14) 10	(8) 6	(14) 21	(1) 1	(20) 4	(10) 10	(11) 12	(23) 0	(16) 19	(0) 0	(401) 388	(14) 13	(674) 446	(531) 264	(2) 17	(8) 12	(0) 0
12		更新	社会保険田川病院	(1,225) 1,376	(23.0) 24.7	(82) 48	(0) 0	(1) 0	(19) 8	(1) 1	(13) 5	(7) 5	(0) 0	(1) 1	(5) 6	(0) 0	(0) 17	(0) 0	(24) 34	(68) 75	(11) 10	(17) 58	(0) 0
13		更新	北九州市立医療センター	(3,811) 3,811	(40.0) 41.3	(232) 264	(19) 4	(19) 13	(9) 9	(0) 1	(11) 4	(6) 5	(5) 2	(0) 0	(55) 64	(0) 0	(735) 526	(81) 14	(926) 231	(913) 466	(10) 11	(226) 165	(0) 0
14		更新	九州厚生年金病院	(4,125) 4,316	(32.5) 33.5	(198) 194	(17) 13	(4) 1	(1) 13	(1) 1	(1) 8	(11) 13	(2) 2	(15) 19	(22) 20	(0) 0	(361) 375	(30) 41	(160) 197	(550) 497	(43) 47	(57) 123	(0) 0
15		更新	産業医科大学病院	(2,957) 3,051	(26.5) 26.9	(228) 240	(7) 1	(13) 15	(8) 1	(6) 1	(6) 6	(1) 5	(4) 4	(6) 7	(12) 5	(0) 0	(734) 891	(9) 8	(224) 174	(229) 199	(10) 15	(209) 34	(0) 0

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

福岡県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



福岡県 がん診療連携拠点病院の整備について

1 整備方針

現在と同様、県拠点病院 2 か所、地域拠点病院 13 か所を、以下のとおり整備する。

(1) 福岡県がん診療連携拠点病院の整備 県内 2 か所

以下の機能を重視して整備する。

ア 連携及び調整機能 イ がん登録の推進機能 ウ 教育及び研修機能

(2) 地域がん診療連携拠点病院の整備 県内 13 か所

二次医療圏単位を基準とし、二次医療圏に指定要件を満たす医療機関がない場合は、県内を 4 つ（福岡、筑後、筑豊、北九州）に分けたブロック単位で整備することにより、がん医療の均てん化を図る。

ブロック	人 口	二次医療圏数	地域拠点病院整備数
福 岡	約 2 4 8 万人	4	4
筑 後	約 8 4 万人	4	4
筑 豊	約 4 3 万人	3	2
北 九 州	約 1 3 1 万人	2	3
合 計	約 5 0 6 万人	13	13

2 福岡県がん診療連携拠点病院

福岡県においては、がんの診療及び連携体制を強力かつ効果的に推進するため、これまでと同様に九州がんセンターと九州大学病院の 2 か所を推薦する。

【2 か所を推薦する理由】

- 福岡県におけるがん医療は、県外からの患者の流入も認められることから、九州全域を網羅する必要があるといっても過言ではない。そのため、より高度で広範囲ながん医療の提供が求められる。
- 両病院とも、県拠点病院としての要件を充分満たしているが、がん診療情報ネットワークやがん登録については九州がんセンターがより優れた機能を持っている。一方、高度で専門的ながん医療の提供や専門医師の育成等には、大学病院の主体的関与が必須であり、福岡県では、県内 4 大学が「九州がんプロフェッショナル養成プラン」として、共同で実施することとなっており、九州大学病院は、その代表として、他の 3 大学病院から推薦を受けている。
- 現在、がん対策やがん医療に対する県内の医療機関の関心は非常に高まっており、今年度新規に拠点病院指定を希望する病院もあった。このような状況の中、県内のがん医療を牽引し、医療機関間のネットワークを構築するためには、九州がんセンターと 3 大学病院の推薦を受けた九州大学病院が互いに協力し合い、先駆的・指導的役割を果たしていくことが必要不可欠である。
- 平成 20 年 2 月 8 日に指定を受けて以来、両県拠点病院は相互に協力し合いながら拠点病院の指定を受けて間もない医療機関も多い本県の拠点病院の中において、先駆的・指導的役割を果たしていると考えられる。特に、連携協議会においては、互いに役割分担しながら 3 つの専門部会を設置し、専門部会の下部組織であるワーキングチームについても積極的に開催することなどにより、本県におけるがん医療提供体制の充実を図ってきたところである。

福岡県 がん診療連携拠点病院の整備について

3 地域がん診療連携拠点病院

福岡県においては、現在地域拠点病院として指定を受けている下記13病院について、指定更新の推薦を行う。

○ 二次医療圏の単位を念頭に置き、県内を4つ（福岡、筑後、筑豊、北九州の4圏域）に分けたブロック単位で整備する。

○ 地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏数と同じ13病院推薦し、推薦医療機関が存在しない空白の二次医療圏も存在するが、下記の受療動向や人口等を考慮したブロック単位での整備により、県内のがん医療の均てん化を図ることができ、より効率的ながん診療を提供できると考える。

○ 当県においては、福岡・糸島医療圏への一極集中的な医療状況にあり、県全域へ質の高い医療の提供のためにはある程度の集約化が必要であることから、整備数については、各ブロック内人口及び二次医療圏数等を考慮する。

ブロック	二次医療圏	圏域内医療需給率(入院)	圏域内医療需給率(入院外)
福 岡	福岡・糸島	94.3 %	95.1 %
	粕屋	42.7 %	42.4 %
	宗像	38.6 %	41.4 %
	筑紫	38.1 %	47.5 %
	朝倉	42.2 %	47.8 %
筑 後	久留米	83.4 %	87.9 %
	八女・筑後	65.5 %	71.3 %
	有明	73.6 %	76.8 %
	飯塚	82.0 %	88.0 %
筑 豊	直方・鞍手	36.2 %	41.9 %
	田川	58.8 %	71.6 %
	北九州	94.8 %	96.4 %
北九州	京築	35.6 %	40.0 %

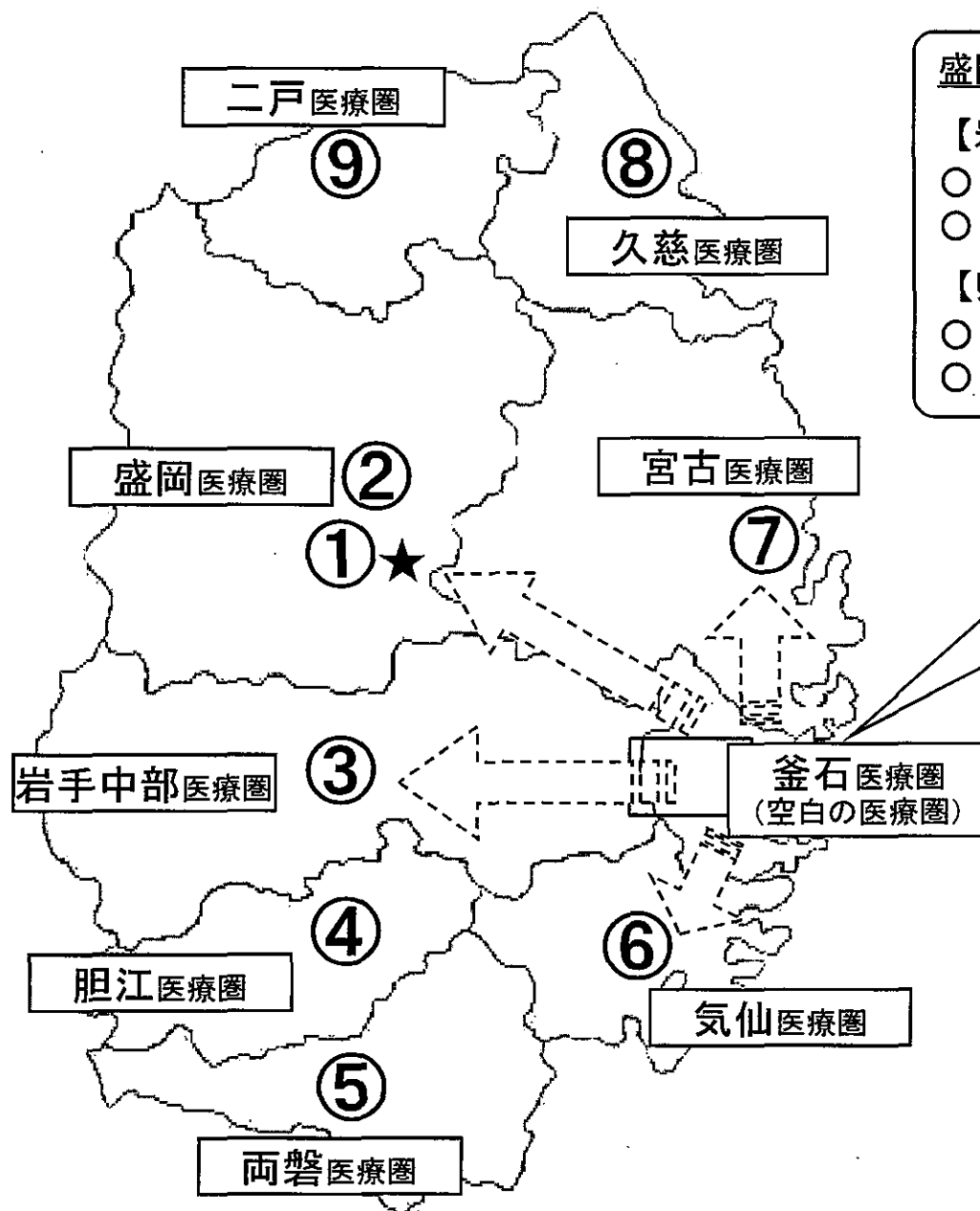
○ 推薦する13病院の二次医療圏別の割りつけを次のとおりとする。

ブロック	二次医療圏	病 院
北九州	北九州	産業医科大学病院
		九州厚生年金病院
		北九州市立医療センター
福岡	京築	九州医療センター
		済生会福岡総合病院
		福岡大学病院
	福岡・糸島	福岡東医療センター
筑豊	筑紫	
	粕屋	
	宗像	
	飯塚	飯塚病院
筑後	直方・鞍手	
	田川	社会保険田川病院
	久留米	聖マリア病院
	朝倉	久留米大学病院
	八女・筑後	公立八女総合病院
	有明	大牟田市立総合病院

3 岩 手 県

岩手県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料 1



盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院】

- がん医療を担う人材の養成、地域への医師派遣
- 「腫瘍センター」設置、地域拠点病院との連携

【県立中央病院】

- 県立病院（21病院、5診療所）のセンター病院機能
- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施

釜石医療圏のがん医療の中核を担う県立釜石病院には放射線治療設備がないため、釜石医療圏に住むがん患者の放射線治療については、隣接する医療圏の③、⑥、⑦の病院のほか、必要に応じてより高度ながん治療に対応できる①の病院でカバーしている。

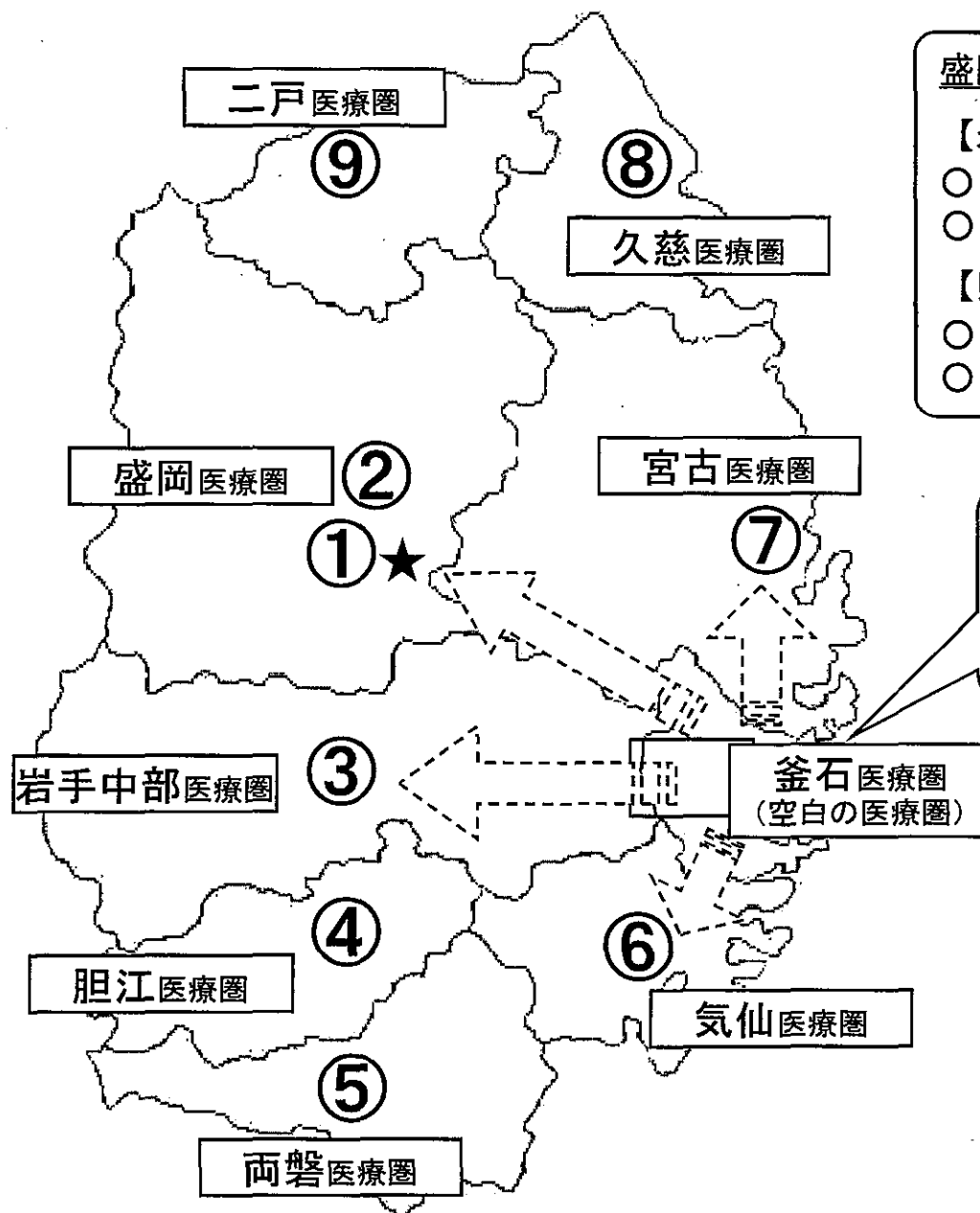
- ① 岩手医科大学附属病院★（平成20年2月8日）
- ② 県立中央病院（平成20年2月8日）
- ③ 県立中部病院（平成20年2月8日）
- ④ 県立胆沢病院（平成21年4月1日）
- ⑤ 県立磐井病院（平成20年2月8日）
- ⑥ 県立大船渡病院（平成21年4月1日）
- ⑦ 県立宮古病院（平成20年2月8日）
- ⑧ 県立久慈病院（平成21年4月1日）
- ⑨ 県立二戸病院（平成19年1月31日）

資料 2

県・地域	申請区	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る薬物療法(6月～7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
			(年間新入院がん患者数 1月～12月)	年間新入院患者に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6～7月の集計)	(相談支援センター相談件数 6～7月の集計)	(退院時共同指導料2 6～7月の集計)	
						開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	(内視鏡手術 粘膜切除術 EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除 後二期的に行うもの)	対外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数				
1	★更新	岩手医科大学附属	(3,978) 4,310	(26.0) 27.4	(207) 275	(0) 0	(4) 17	(10) 9	(2) 2	(8) 17	(0) 3	(3) 5	(14) 32	(22) 19	(0) 1	(559) 505	(103) 125	(295) 409	(362) 430	(19) 22	(73) 376	(1) 0	
2	更新	県立中央	(3,471) 3,453	(21.2) 21.7	(164) 201	(20) 6	(6) 14	(17) 27	(2) 13	(28) 37	(2) 3	(3) 6	(1) 3	(29) 31	(0) 0	(489) 429	(1) 0	(122) 168	(256) 293	(35) 34	(446) 523	(0) 0	
3	更新	県立中部	(1,043) 1,161	(19.7) 21.7	(60) 110	(0) 1	(2) 4	(11) 7	(0) 0	(5) 20	(1) 2	(0) 3	(0) 2	(6) 10	(0) 0	(127) 143	(0) 0	(29) 104	(75) 188	(21) 30	(19) 30	(0) 0	
4	現況	県立胆沢	(530) 1,483	(8.0) 22.9	(108) 134	(0) 0	(8) 9	(4) 10	(0) 0	(13) 20	(2) 5	(0) 1	(1) 0	(15) 11	(0) 0	(584) 211	(0) 0	(112) 95	(222) 116	(1) 3	(120) 84	(0) 1	
5	更新	県立磐井	(1,956) 3,171	(26.5) 42.4	(75) 100	(0) 0	(0) 0	(8) 7	(1) 2	(11) 8	(0) 1	(2) 0	(0) 5	(3) 9	(0) 0	(303) 143	(0) 0	(60) 45	(87) 212	(4) 8	(165) 104	(0) 0	
6	現況	県立大船渡	(483) 968	(7.7) 14.5	(46) 58	(0) 0	(0) 0	(5) 8	(1) 0	(5) 12	(0) 0	(1) 4	(0) 3	(5) 1	(0) 0	(52) 82	(0) 0	(33) 28	(69) 75	(17) 16	(0) 13	(0) 0	
7	更新	県立宮古	(1,088) 1,168	(17.4) 19.2	(72) 31	(0) 0	(0) 0	(30) 2	(0) 1	(10) 5	(2) 4	(4) 0	(1) 0	(2) 4	(0) 0	(66) 79	(0) 0	(100) 108	(71) 111	(4) 5	(42) 70	(0) 2	
8	現況	県立久慈	(862) 732	(16.7) 15.4	(32) 29	(0) 0	(0) 1	(4) 1	(0) 1	(6) 1	(7) 1	(0) 0	(3) 1	(4) 4	(0) 0	(45) 41	(0) 0	(58) 19	(127) 69	(6) 4	(2) 4	(0) 0	
9	更新	県立二戸	(597) 622	(13.4) 14.7	(30) 26	(0) 0	(0) 0	(3) 6	(0) 0	(15) 12	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(2) 1	(0) 0	(117) 74	(0) 0	(29) 48	(41) 33	(6) 15	(40) 55	(0) 0	

岩手県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 3



盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院】

- がん医療を担う人材の養成、地域への医師派遣
- 「腫瘍センター」設置、地域拠点病院との連携

【県立中央病院】

- 県立病院（21病院、5診療所）のセンター病院機能
- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施

釜石医療圏に住むがん患者の放射線治療については、隣接する医療圏の③、⑥、⑦の病院のほか、必要に応じてより高度ながん治療に対応できる①の病院でカバーする。

なお、県立釜石病院の放射線治療設備については、地域医療再生計画に基づき、平成23年度末までに整備予定

- ① 岩手医科大学附属病院★（更新）
- ② 県立中央病院（更新）
- ③ 県立中部病院（更新）
- ④ 県立胆沢病院（継続）
- ⑤ 県立磐井病院（更新）
- ⑥ 県立大船渡病院（継続）
- ⑦ 県立宮古病院（更新）
- ⑧ 県立久慈病院（継続）
- ⑨ 県立二戸病院（更新）

岩手県 がん診療連携拠点病院の整備方針

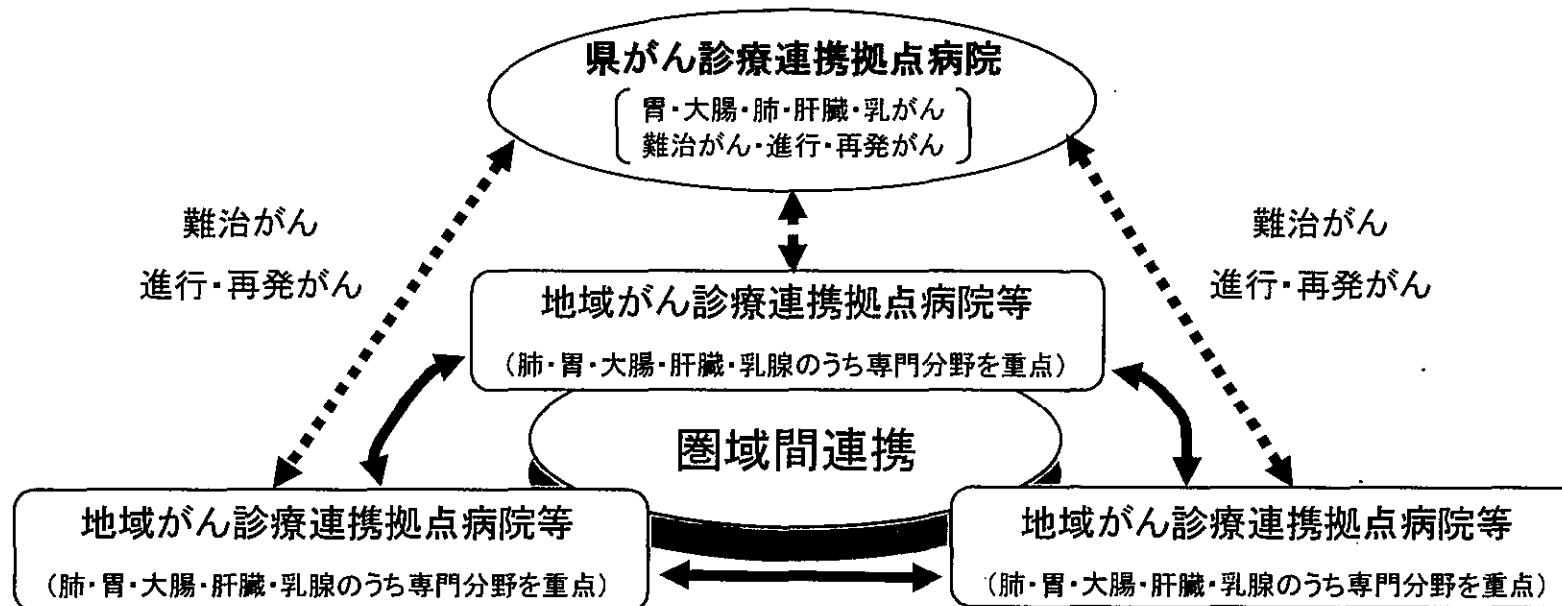
■ 基本的考え方

9 医療圏すべてに、地域がん診療連携拠点病院を整備（指定）することを推進

■ 県の支援の取組み

がん診療連携拠点病院の機能強化に係る支援のほか、岩手県医療計画を踏まえ、医療圏ごとに策定した医療連携プランに基づく地域医療連携の構築の取組みを推進

がん診療（急性期）の医療連携（イメージ）



指定要件未充足事項の対応状況

病院名	未充足事項	平成21年9月1日 時点の状況	理由	対応状況
⑤ 県立磐井病院	院内クリティカルパス(別紙4)	胃がん、大腸がん、 肝がんについて 未整備	順次整備予定(肺がん、乳がんは整備済み)が、電子カルテ導入作業等で遅延	平成22年1月15日開催の院内クリニカルパス委員会で標準パスを決定し、翌日より運用を開始
⑥ 県立大船渡病院	我が国に多いがんに対して、手術、放射線療法又は化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制(別紙19)	肺がんについて 実績なし	対応可能な医師との調整の遅延	平成22年1月4日より対応。 ○面談実施医師の所属 = 呼吸器科 ○医師の専門性 = がん治療認定医機構 がん治療認定医
⑦ 県立宮古病院	当該2次医療圏においてがん医療に携わる医師を対象とした緩和ケアに関する研修を毎年定期的実施	未実施	日程調整の結果、研修開催時期を9月中旬に設定	平成21年9月12日～13日に「宮古地域緩和ケア医師研修会」を実施(修了者数20名)
	国立がんセンターがん対策情報センターによる研修を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置	未配置	11月開催の研修受講を計画	平成21年11月に所要の基礎研修を修了。現在、専従者として配置。
	国立がんセンターがん対策情報センターによる研修を修了した専任の相談支援に携わる者を配置	未配置	11月開催の研修受講を計画	平成21年11月に所要の基礎研修を修了。現在、専従者として配置。

4 宮 城 県

宮城県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料 1

【患者受療動向①】

(隣接医療圏の拠点病院によるカバー)

※  で動向を表示

仙南医療圏  仙台医療圏
(①～⑤病院)

栗原、登米医療圏  大崎医療圏
(⑥病院)

気仙沼医療圏  石巻医療圏
(⑦病院)

【患者受療動向②】

(仙台医療圏による全県的カバー)

※  で動向を表示

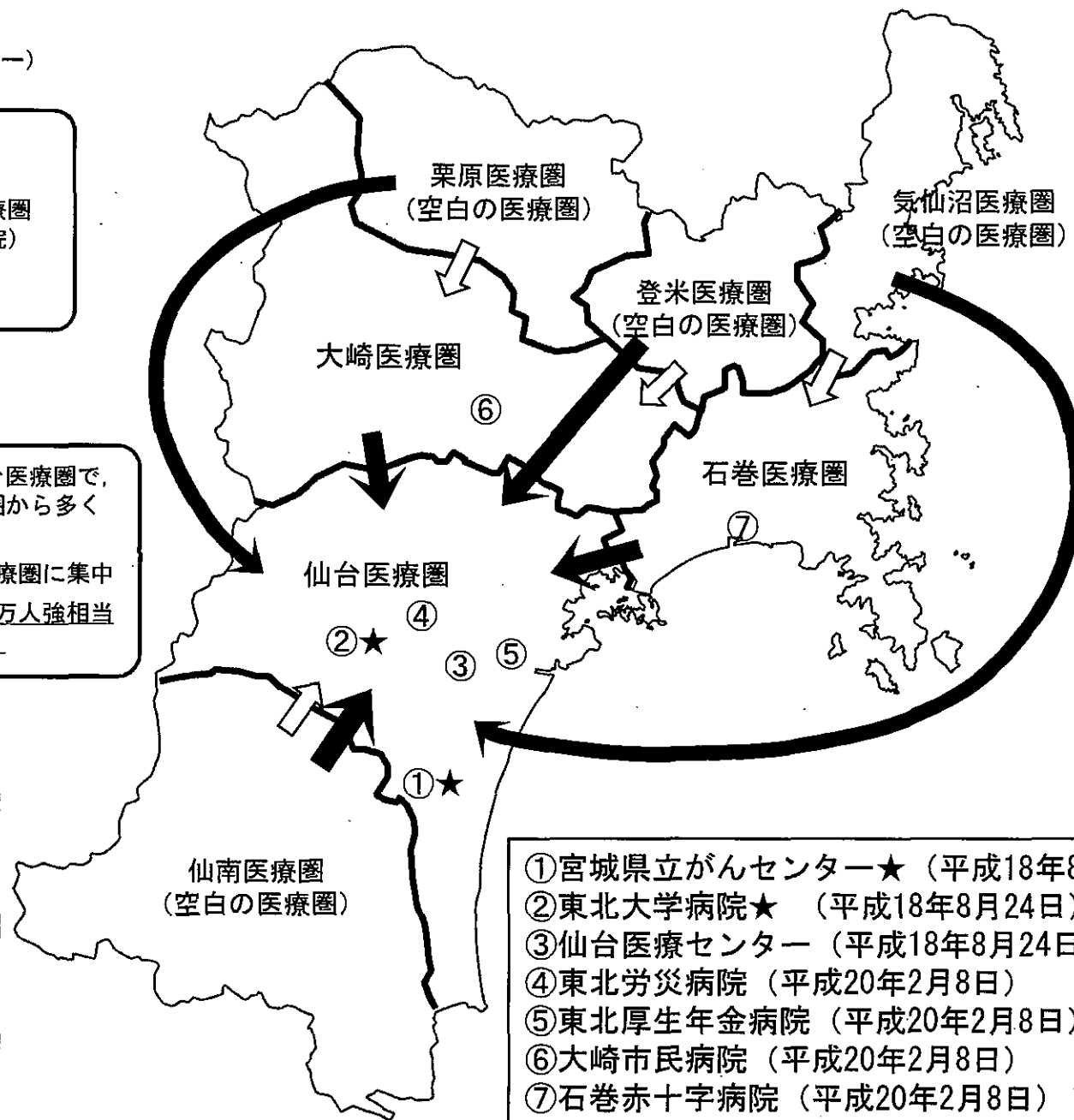
5つの拠点病院を中心とした仙台医療圏で、空白医療圏を含む県全域の医療圏から多くのがん患者を受け入れている。

* 入院がん患者の約73%が仙台医療圏に集中
⇒人口換算で、仙台医療圏が170万人強相当のがん医療の役割を担っている。

(参考)

入院がん患者の各医療圏から
仙台医療圏への依存割合

医療圏	仙台への 依存割合	医療圏の 人口(人)
仙南	54.5%	185,024
仙台		1,476,141
大崎	25.4%	212,001
栗原	39.0%	75,964
登米	39.1%	84,948
石巻	26.5%	214,425
気仙沼	15.4%	91,681
合計		2,340,184



- ①宮城県立がんセンター★ (平成18年8月24日)
- ②東北大学病院★ (平成18年8月24日)
- ③仙台医療センター (平成18年8月24日)
- ④東北労災病院 (平成20年2月8日)
- ⑤東北厚生年金病院 (平成20年2月8日)
- ⑥大崎市民病院 (平成20年2月8日)
- ⑦石巻赤十字病院 (平成20年2月8日)

宮城県 がん診療連携拠点病院指定推薦病院の診療実績等一覧

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

都道府県 or 地域			申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計										放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
					年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12 月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療依 頼数(6～7 月の集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数(6 ～7月 の集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)
								開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜 切 除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ 波 焼 灼 療 法	乳癌 手術	乳房 再 建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	宮城県立がんセンター	(4152) 4330	(87) 87.5	(158) 164	(0) 3	(7) 13	(17) 17	(5) 4	(8) 15	(2) 2	(0) 0	(0) 0	(22) 19	(0) 1	(615) 621	(9) 9	(230) 220	(93) 153	(14) 14	(689) 799	(0) 0	
2	★	更新	東北大学病院	(4749) 5485	(26.2) 29.7	(88) 205	(4) 8	(8) 6	(3) 5	(1) 0	(12) 8	(1) 0	(9) 10	(0) 0	(13) 18	(0) 0	(1632) 1452	(79) 44	(357) 703	(434) 957	(10) 14	(211) 272	(11) 25	
3		更新	仙台医療センター	(3053) 3474	(23.6) 26.0	(152) 226	(1) 0	(16) 15	(11) 15	(1) 2	(21) 34	(1) 0	(1) 8	(5) 7	(20) 18	(0) 0	(407) 420	(0) 0	(339) 185	(245) 131	(14) 17	(189) 166	(0) 13	
4		更新	東北労災病院	(1922) 1807	(19.5) 18.4	(112) 115	(0) 0	(0) 3	(7) 7	(2) 2	(9) 11	(9) 4	(0) 0	(4) 0	(14) 11	(0) 0	(216) 265	(0) 0	(80) 88	(109) 163	(11) 7	(93) 53	(0) 0	
5		更新	東北厚生年金病院	(1254) 1273	(16.4) 17.8	(47) 91	(0) 1	(8) 18	(7) 7	(3) 3	(6) 15	(0) 1	(1) 1	(0) 1	(1) 1	(0) 0	(84) 213	(0) 0	(43) 46	(60) 56	(6) 6	(17) 20	(0) 1	
6		更新	大崎市民病院	(2296) 2183	(20.2) 18.7	(140) 139	(0) 1	(3) 3	(16) 14	(2) 2	(21) 19	(0) 2	(0) 1	(3) 1	(13) 13	(0) 0	(355) 385	(0) 0	(126) 157	(197) 389	(7) 19	(100) 143	(0) 0	
7		更新	石巻赤十字病院	(2468) 2076	(24.9) 20.6	(117) 134	(4) 5	(10) 19	(2) 8	(0) 1	(2) 11	(2) 2	(1) 2	(2) 2	(23) 20	(0) 0	(206) 235	(0) 0	(124) 168	(380) 479	(28) 33	(99) 254	(1) 1	

宮城県 平成22年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

資料 3

【患者受療動向①】

(隣接医療圏の拠点病院によるカバー)

※ → で動向を表示

仙南医療圏 → 仙台医療圏
(①～⑤病院)
栗原、登米医療圏 → 大崎医療圏
(⑥病院)
気仙沼医療圏 → 石巻医療圏
(⑦病院)

【患者受療動向②】

(仙台医療圏による全県的カバー)

※ → で動向を表示

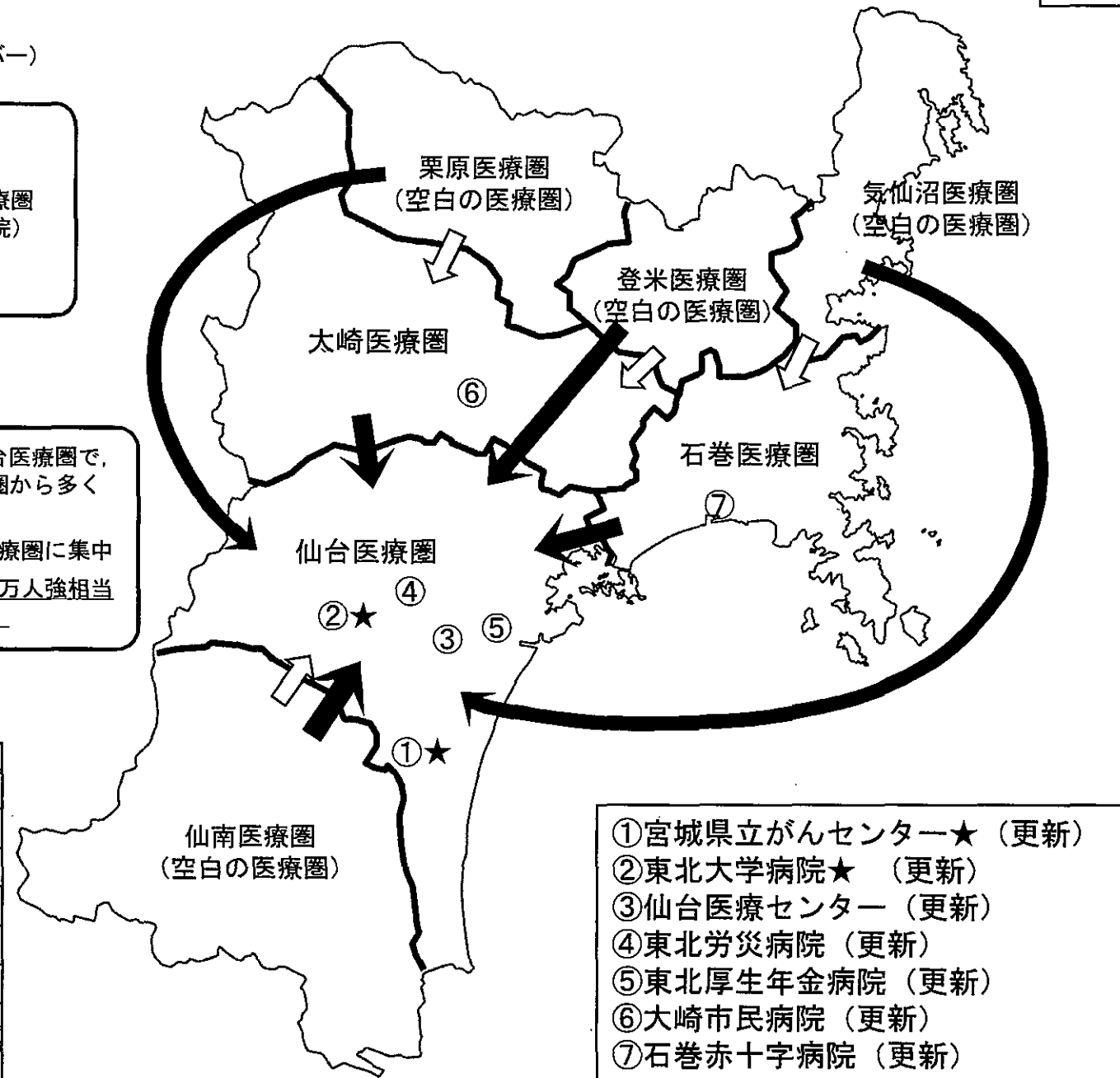
5つの拠点病院を中心とした仙台医療圏で、空白医療圏を含む県全域の医療圏から多くのがん患者を受け入れている。

* 入院がん患者の約73%が仙台医療圏に集中
⇒人口換算で、仙台医療圏が170万人強相当のがん医療の役割を担っている。

(参考)

入院がん患者の各医療圏から
仙台医療圏への依存割合

医療圏	仙台への 依存割合	医療圏の 人口(人)
仙南	54.5%	185,024
仙台		1,476,141
大崎	25.4%	212,001
栗原	39.0%	75,964
登米	39.1%	84,948
石巻	26.5%	214,425
気仙沼	15.4%	91,681
合計		2,340,184



宮城県におけるがん診療連携拠点病院指定推薦の考え方

資料 4-1

県内のがん医療の現状・特徴

- * がん診療連携拠点病院の空白医療圏（7医療圏中4医療圏）
（背景）・医療資源、社会資源の仙台市周辺への集中
・当該医療圏で指定要件を充足する病院の不在

体制整備の視点の柱

- A. 仙台医療圏へのがん患者集中に対する対応の必要性
- B. 空白医療圏のがん医療体制に対する支援と連携の重要性

医療圏単位だけではなく、空白医療圏を含めた全県域のカバーを前提とした体制整備が特に重要

A. 仙台医療圏のがん診療機能の整備

- * 5つのがん拠点病院を中心とした仙台医療圏の体制整備
- ①宮城県立がんセンター、②東北大学病院、
③仙台医療センター、④東北労災病院、⑤東北厚生年金病院

B. 2つの都道府県拠点病院を中心とした全県的体制整備

- * 2つの都道府県拠点病院のリーダーシップによる、空白医療圏を含めた全県的ながん診療の均てん化の推進
- ①宮城県立がんセンター、②東北大学病院

2つの都道府県がん拠点病院の役割分担と連携体制

①宮城県立がんセンター

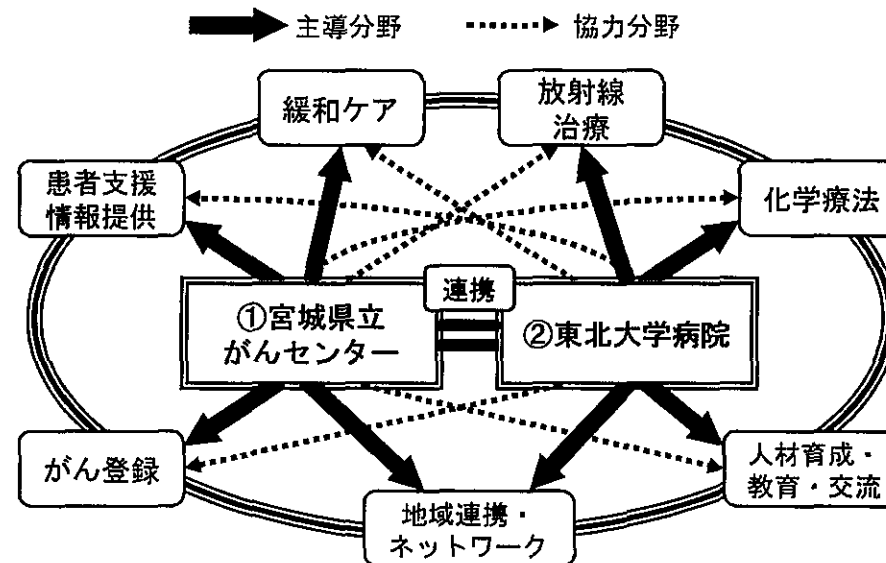
- 県内唯一のがん専門病院としての、県内全体のがん診療の拠点機能。
- 豊富ながん診療実績・ネットワークに基づく県内医療機関の連携体制づくりの主導機能。

②東北大学病院

- 特定機能病院としての高度・広範ながん医療の提供、研究推進の拠点機能。
- 大学病院としての、県内・東北地方における人材・教育の拠点機能、医療水準の均てん化の主導機能。

両病院の特長、機能を活かした分野ごとの役割分担と密接な連携に基づく全県的がん診療体制の構築

都道府県がん診療連携拠点病院の連携・協力図



都道府県がん診療連携拠点病院を中心とした全県的がん診療体制の取組

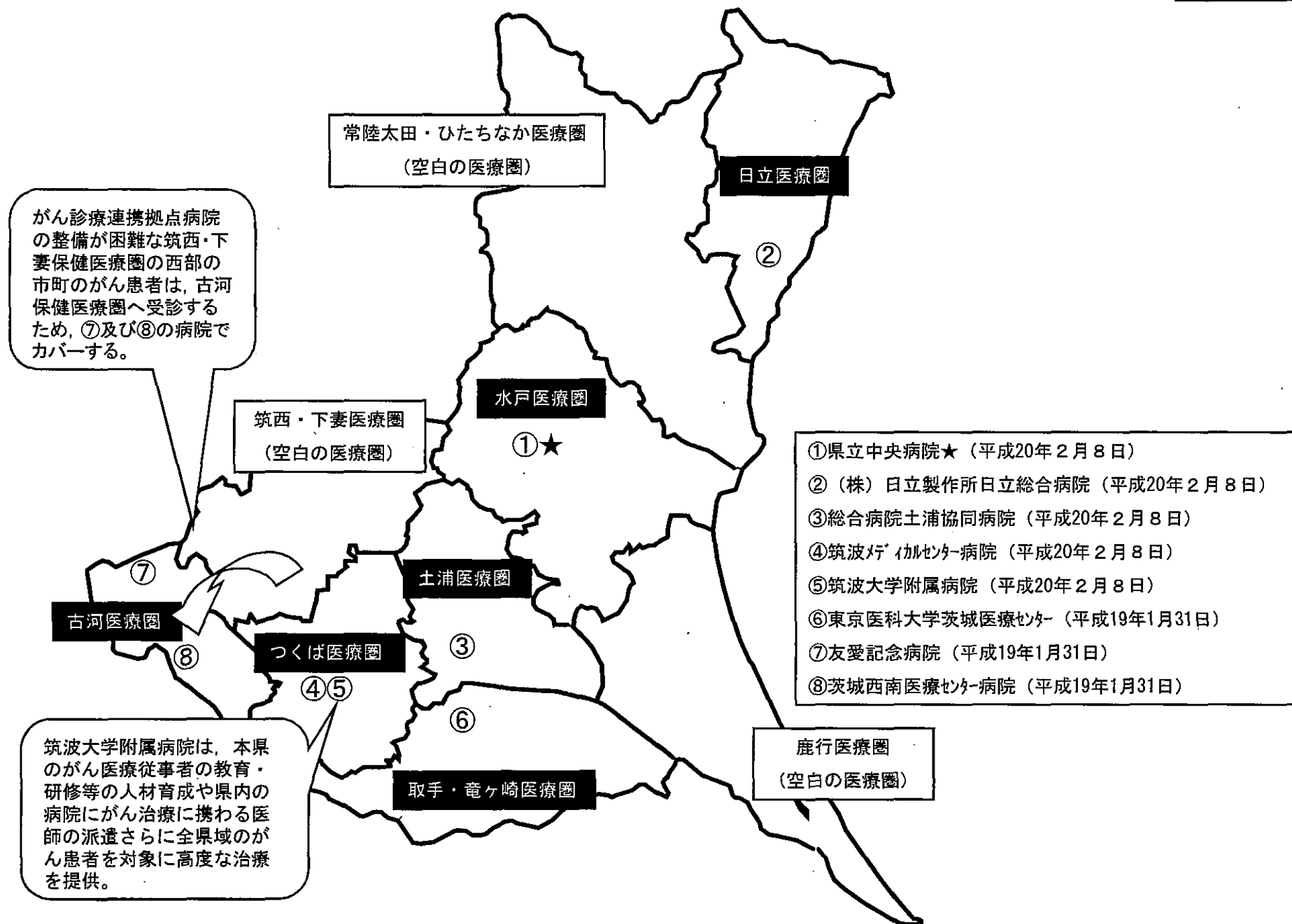
資料 4-2

分野 ※【 】は主導病院	取組の考え方・方向性	これまでの取組状況
放射線治療 【東北大学】	◆東北大学病院の豊富な放射線治療実績、人材拠点機能を活用した放射線治療体制の整備。 ⇒県内、東北地方における放射線治療水準の均てん化。	○県内・東北地方における放射線治療医の派遣調整・人材交流 ⇒県内全拠点病院における放射線治療医の常勤化 ⇒県内を含む東北全体に対する治療専門医の派遣(5県14病院) ○県内・東北地方における標準プロトコールによる治療の推進
化学療法 【東北大学】	◆東北大学病院の豊富な化学療法実績、指導能力を活用した、化学療法レベルの向上のための指導、情報提供。 ⇒県内、東北地方における化学療法水準の均てん化。	○信頼度の高い標準プロトコールの公開・共有(76種類・HP公開) ○県内を含む東北全体の拠点病院等に対する指導・研修受け入れ ○東北地方の他大学の腫瘍内科講座開設、拠点病院に対する人材協力
人材育成・教育・交流 【東北大学】	◆東北大学病院の育成・教育機能、人材拠点機能を活用した、県内及び東北地方レベルでの人材確保の先導的役割。 ⇒がん医療における人材的な均てん化。	○東北がんプロフェッショナル養成プランの立ち上げ(H19～) (がん専門医、コメディカルスタッフの継続的養成) ○特に人材不足が深刻な放射線治療医、腫瘍内科医等の育成、派遣調整
緩和ケア 【県がんセンター】	◆県立がんセンターの豊富な緩和医療実績に基づいた、県内のすべての緩和ケア実施医療機関への指導体制の構築。 ◆宮城県在宅緩和ケア支援センター(県立がんセンター内)を中心とした「在宅緩和ケアネットワーク」の整備。 ⇒全県的な緩和医療水準の均てん化、ネットワーク構築。	○緩和ケア従事者・医療機関の全県ネットワークの構築。 (「宮城県緩和ケアチーム勉強会」(H20～)) ○多職種にわたる緩和ケア従事者への指導、実地研修の受け入れ ○在宅緩和ケアに関する全県施設調査の実施、情報共有。(H20, H21) ○地域ごとの在宅緩和ケア連絡会議、ネットワーク化(H19～)
患者支援・情報提供 【県がんセンター】	◆県立がんセンターの豊富な相談実績と拠点病院との協力を中心とした県下すべてのがん相談窓口ネットワークの構築。 ⇒患者支援・情報提供機能、地域連携の均てん化。	○3つの空白医療圏におけるがん相談窓口の開設(H20～) ○県内全体の「がん相談窓口連絡会議」の設立(14窓口)(H19～) ○県内のがん相談窓口における報告シートの統一(H21)⇒統一集計 ○県内の患者会等(10団体)のネットワーク構築(H20～) ○「みやぎのがん情報ポータルサイト」の開設(H21)
がん登録 【県がんセンター】	◆県立がんセンターの長年にわたる精度の高いがん登録実績、研究・分析機能を活用したがん登録の推進。 ⇒県内におけるがん登録の均てん化と精度向上。	○県全体の協力体制に基づく全国トップクラスの精度の地域がん登録 ⇒DC0割合ついて、概ね10%以内を毎年実現 ○医療機関への精度管理実地指導(年間15箇所程度)、新規導入支援 ○県内全体の「がん登録連絡会議」(16医療機関)(H19～)
地域連携・ネットワーク 【両病院連携】	◆全がん協施設と大学病院ネットワークの連携。 ⇒東北地方における広域がんネットワークの構築。 ◆県内のがん医療を主導する両病院のリーダーシップによる地域連携の推進。 ⇒県全体をカバーする連携体制の整備。	○東北がんネットワークの設立(H20～) ⇒患者相談専門委員会の主宰(県立がんセンター) ⇒化学療法専門委員会の主宰(東北大学病院) ○全県的地域連携クリティカルパスの作成(H20～H23) (※現在作成中。H21年度中に一部(胃・大腸)部位のパスを作成予定)

8 茨 城 県

茨城県 平成21年度4月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料 1



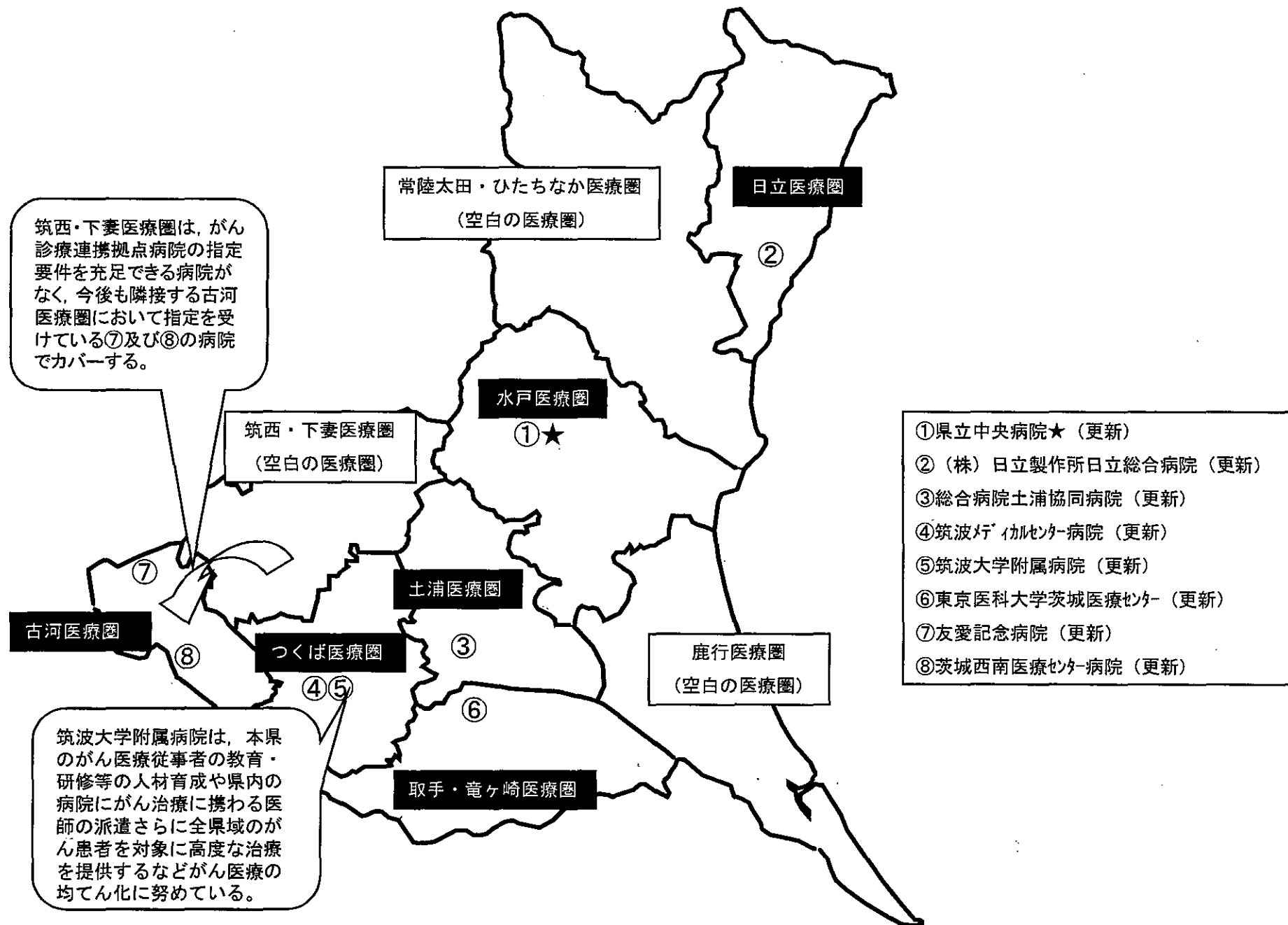
資料 2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数（手術件数） 6～7月の集計											放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月 の集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
			年間新 入院が ん患者 数 (1 月～12 月)	年間新 入院患 者数に 占める 割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規診 療依頼 数 (6～ 7月の 集計)	相談 支援 セン ター 相談 件数 (6～ 7月の 集計)	退院 共指 導料 2 (6 ～7 月の 集計)
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術粘 膜切 除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳癌 再建 術 (乳 房切 除後) 二期 的に 行う もの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
★	更新	茨城県立中央病 院	(3,805) 3,383	(43.7) 39.6	(121) 158	(14) 25	(3) 5	(20) 12	(0) 0	(21) 11	(1) 0	(2) 7	(22) 12	(12) 12	(0) 0	(551) 480	(8) 12	(230) 159	(421) 409	(14) 10	(35) 287	(0) 17
	更新	(株)日立製作所 日立総合病院	(2,433) 2,513	(24.3) 25.6	(151) 159	(21) 9	(19) 4	(3) 14	(2) 1	(22) 8	(0) 41	(5) 1	(20) 11	(16) 37	(0) 0	(330) 381	(10) 0	(191) 145	(169) 335	(8) 8	(186) 437	(0) 0
	更新	総合病院土浦協 同病院	(3,001) 2,631	(17.2) 16.7	(137) 190	(5) 4	(8) 4	(6) 10	(0) 0	(8) 12	(1) 2	(1) 1	(5) 6	(13) 11	(0) 0	(305) 357	(12) 22	(173) 160	(238) 232	(12) 15	(326) 384	(0) 0
	更新	筑波がん医療セン ター病院	(2,627) 2,735	(30.0) 30.3	(125) 116	(4) 12	(0) 1	(18) 15	(0) 0	(15) 14	(6) 3	(0) 0	(9) 0	(21) 34	(0) 0	(464) 536	(0) 0	(104) 86	(327) 377	(16) 27	(199) 208	(1) 0
	更新	筑波大学附属病 院	(3,510) 3,864	(28.1) 30.3	(120) 247	(2) 4	(9) 11	(13) 12	(1) 0	(11) 15	(0) 0	(4) 5	(1) 3	(29) 9	(0) 0	(593) 620	(44) 31	(526) 538	(406) 334	(59) 75	(56) 234	(3) 4
	更新	東京医科大学茨 城医療センター	(1,278) 1,346	(15.9) 16.1	(91) 80	(3) 7	(8) 4	(5) 6	(0) 0	(18) 2	(2) 1	(4) 3	(9) 9	(10) 9	(0) 0	(119) 151	(0) 0	(148) 188	(280) 244	(3) 5	(104) 78	(0) 0
	更新	友愛記念病院	(1,433) 1,258	(23.0) 19.5	(81) 74	(0) 0	(0) 0	(9) 9	(8) 7	(12) 13	(4) 3	(0) 5	(0) 0	(5) 7	(0) 0	(173) 259	(0) 0	(66) 44	(338) 144	(15) 14	(36) 75	(0) 0
	更新	茨城西南医療セ ンター病院	(997) 1,544	(14.0) 21.0	(62) 57	(3) 0	(7) 5	(9) 2	(0) 0	(19) 8	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(7) 5	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(46) 57	(59) 98	(16) 6	(181) 182	(0) 0

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

茨城県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料3



茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制

全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん、進行・再発がん、我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）の治療に対応

特定機能病院
筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院等の医師等に対する高度のがん医療に関する研修の実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣

都道府県がん診療連携拠点病院
県立中央病院・茨城県地域がんセンター

- ・茨城県がん診療連携協議会の運営
- ・緩和ケア、各種研修に関する計画作成
- ・地域連携クリティカルパスの整備

連携
支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）を中心に治療

※茨城県地域がんセンターは、多臓器にまたがる難治がん、進行・再発がんにも対応

医療圏	がん診療連携拠点病院名
水戸	県立中央病院・茨城県地域がんセンター
日立	（株）日立製作所日立総合病院・茨城県地域がんセンター
常陸太田・ひたちなか	（空白の医療圏）
鹿行	（空白の医療圏）
土浦	総合病院土浦協同病院・茨城県地域がんセンター
つくば	筑波メディカルセンター病院・茨城県地域がんセンター、筑波大学附属病院
取手・竜ヶ崎	東京医科大学茨城医療センター
筑西・下妻	（空白の医療圏）
古河・坂東	友愛記念病院、茨城西南医療センター病院

カバー

茨城西南医療センター病院の放射線治療装置の未充足の理由・充足見込み年月等

1 放射線治療装置の未充足の理由

茨城西南医療センター病院では、放射線部、検査部の老朽化が著しく狭隘であったため、検査棟を改築する計画があった。新検査棟は地上3階、地下1階とし、地下に放射線治療装置（リニアック）を国の補助事業を活用し整備する予定であったが、耐震設計をやり直したこと等により着工が平成19年度から本年度に変更となった。

2 放射線治療装置及び治療体制の充足見込み年月

①放射線治療装置（リニアック）の整備

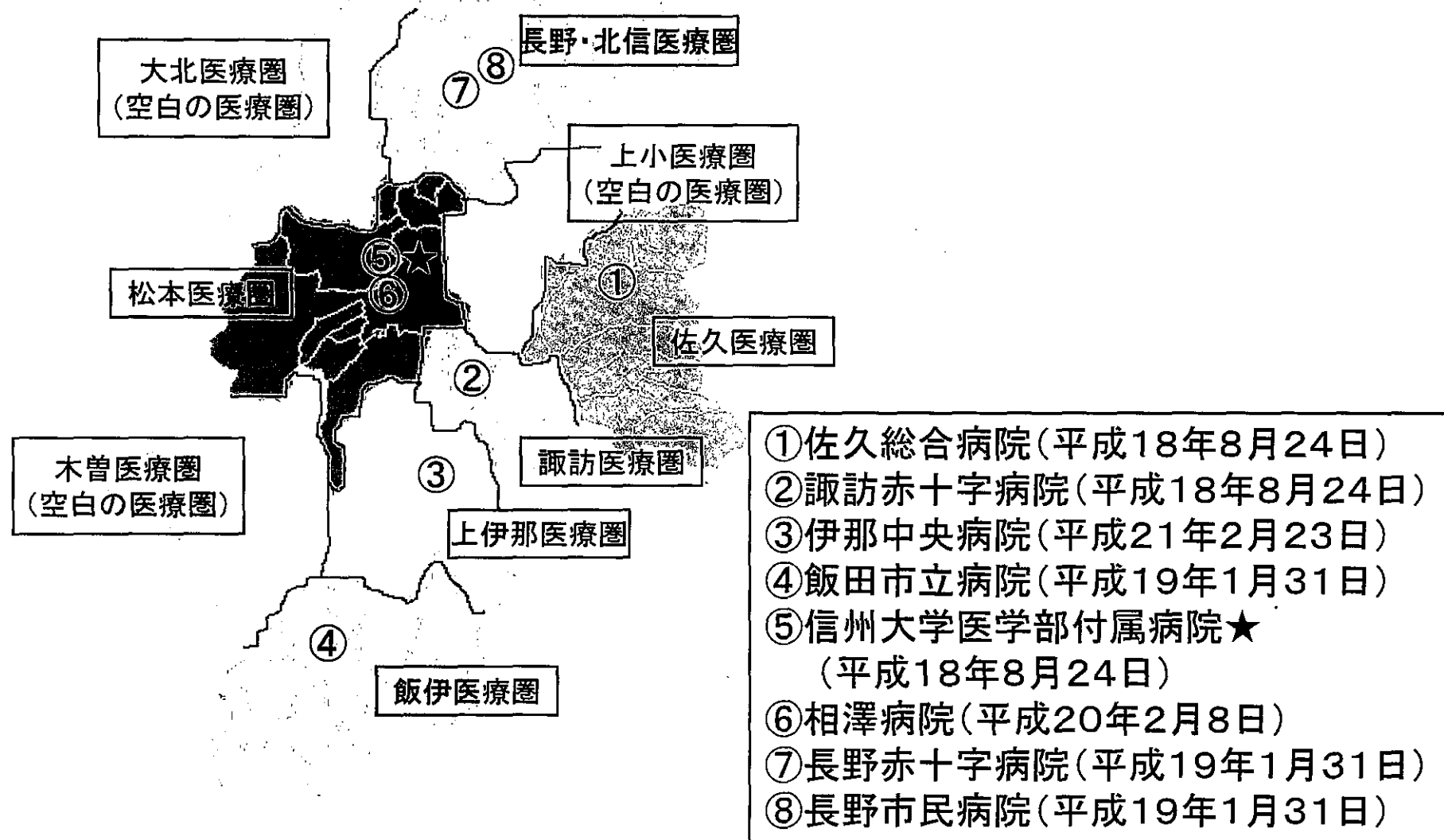
- ・平成21年 8月24日：業者と売買契約締結
- ・平成21年11月27日：放射線発生装置の使用許可申請（文科省）
- ・平成22年 1月 8日：放射線発生装置の使用許可（文科省）
- ・平成22年 3月 ：検査棟地下1階にリニアック設置。速やかに治療開始。

②放射線治療体制

- ・放射線治療医は、筑波大学からの派遣が決定しており、専従で放射線治療に従事することとなっている。
- ・放射線治療に携わる診療放射線技師は、常勤で専従として3名配置することとしている。
内1名の技師は、放射線治療における機器の精度管理、照射計画の検証等に従事することとしている。

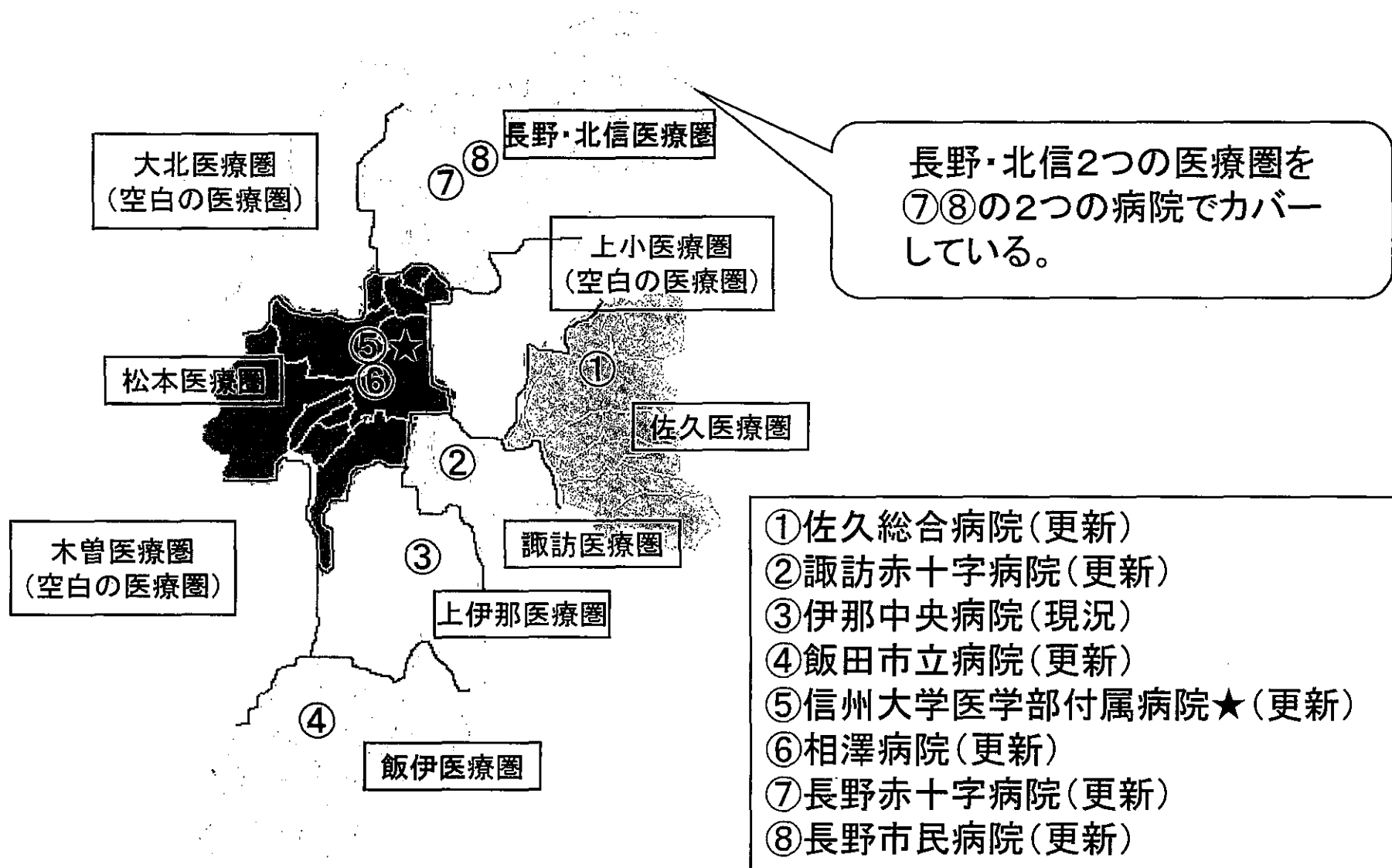
20 長野県

長野県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



				年間入院患者数の状況			治療件数(手術件数)6~7月の集計										放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月~7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
都道府県 or 地域	申請区分	更新	病院名	年間 新入院 患者数 (1月~12月)	年間 新入院 患者数に 占める がん患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月~12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規診 療依頼 数 (6~7 月の 集計)	相談 支援 セン ター 相談 件数 (6~7 月の 集計)	退院 共同 指導 料 2 (6~7 月の 集計)
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜 切 除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行う もの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1		更新	佐久総合	(3739) 2591	(29) 18	(130) 157	(8) 4	(20) 17	(11) 19	(0) 2	(6) 11	(6) 8	(1) 9	(6) 0	(11) 16	(0) 0	(420) 405	(0) 0	(548) 345	(344) 477	(10) 22	(21) 91	(4) 0
2		更新	諏訪赤十字	(2057) 2305	(22) 24	(138) 133	(1) 0	(0) 2	(12) 12	(0) 0	(26) 22	(6) 9	(7) 1	(6) 3	(12) 6	(0) 1	(218) 296	(0) 0	(122) 150	(305) 147	(5) 12	(79) 48	(0) 0
3		現況	伊那中央	1513	17	97	1	9	18	0	4	4	3	1	9	0	239	0	45	105	5	17	0
4		更新	飯田市立	(1972) 2052	(21) 23	(92) 103	(1) 1	(2) 0	(12) 13	(0) 0	(16) 19	(2) 1	(1) 5	(0) 0	(15) 14	(0) 0	(273) 306	(8) 12	(104) 107	(143) 195	(16) 20	(88) 100	(0) 4
5	★	更新	信州大学	(3929) 3976	(32) 32	(155) 213	(3) 3	(14) 15	(4) 6	(1) 4	(9) 5	(3) 1	(5) 8	(7) 7	(18) 19	(2) 0	(680) 583	(10) 18	(186) 189	(206) 310	(4) 18	(57) 75	(0) 0
6		更新	相澤	(1765) 1780	(15) 14	(148) 102	(1) 1	(0) 3	(9) 11	(0) 0	(23) 20	(10) 10	(0) 0	(1) 1	(12) 15	(0) 0	(32) 392	(0) 0	(21) 38	(989) 371	(19) 19	(13) 35	(14) 19
7		更新	長野赤十字	(2850) 2581	(21) 19	(98) 118	(4) 2	(0) 3	(6) 17	(0) 1	(8) 14	(0) 1	(0) 4	(1) 0	(6) 13	(0) 0	(514) 487	(34) 15	(146) 151	(242) 428	(25) 24	(19) 102	(0) 2
8		更新	長野市民	(2349) 2382	(35) 32	(150) 176	(8) 6	(0) 1	(5) 10	(0) 0	(15) 5	(5) 5	(0) 3	(4) 0	(11) 22	(0) 0	(385) 355	(104) 84	(56) 15	(41) 239	(44) 68	(450) 356	(0) 0

長野県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



本県では、10ある2次医療圏のうち7医療圏においてがん診療連携拠点病院が整備されている。

各2次医療圏では、原則1か所のがん診療連携拠点病院を整備することとしている。

（県がん診療連携拠点病院が整備されている松本医療圏は除く）

今回の申請は、全て更新の申請であり、該当する医療機関は、指定要件を全て満たしている。

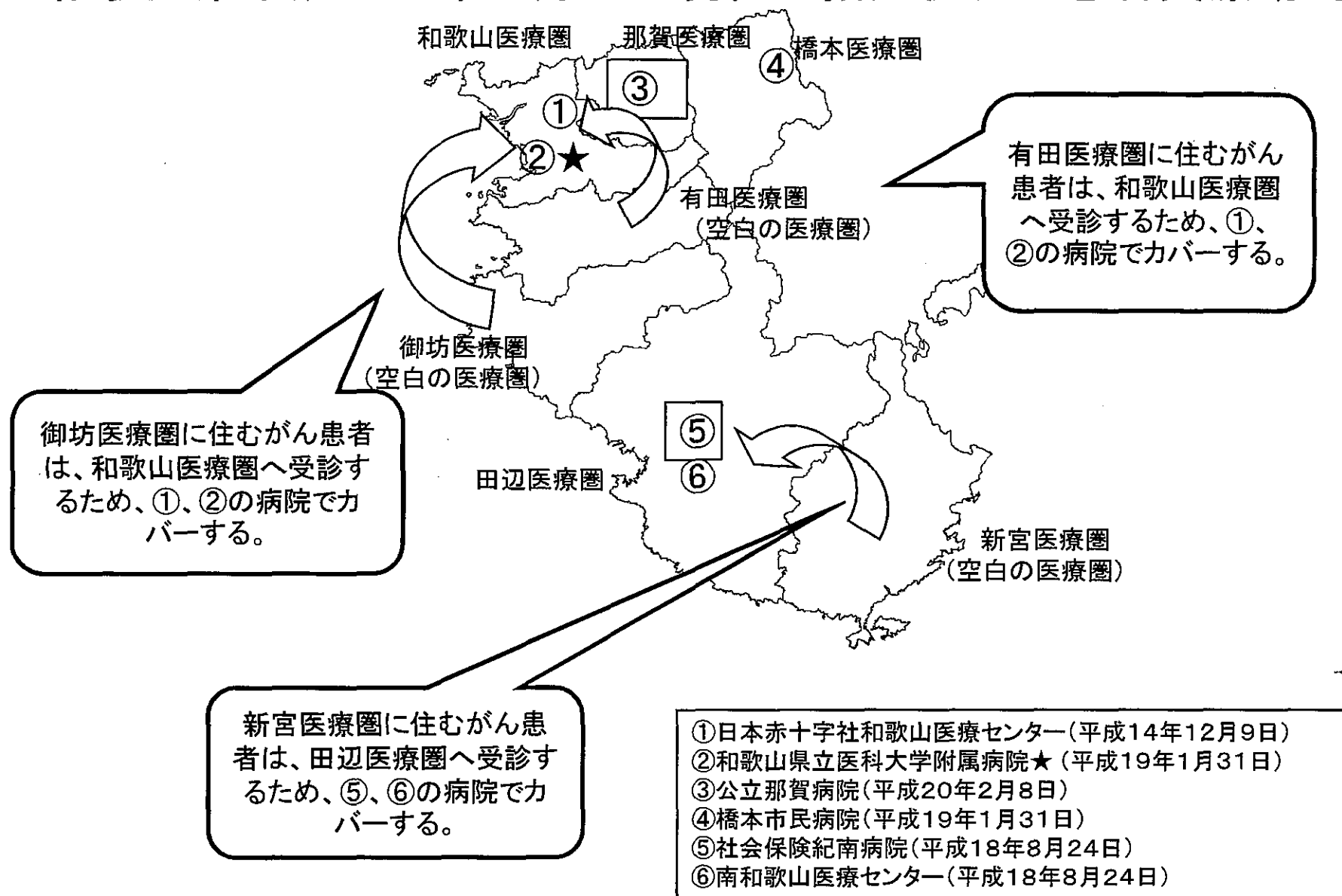
本県では独自の取り組みとして、既に指定を受けたがん診療連携拠点病院に対する機能評価（現地調査）を実施し、がん医療の質の確保を維持している。



諏訪赤十字病院への機能評価（H20.11.17）

30 和歌山県

和歌山県平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

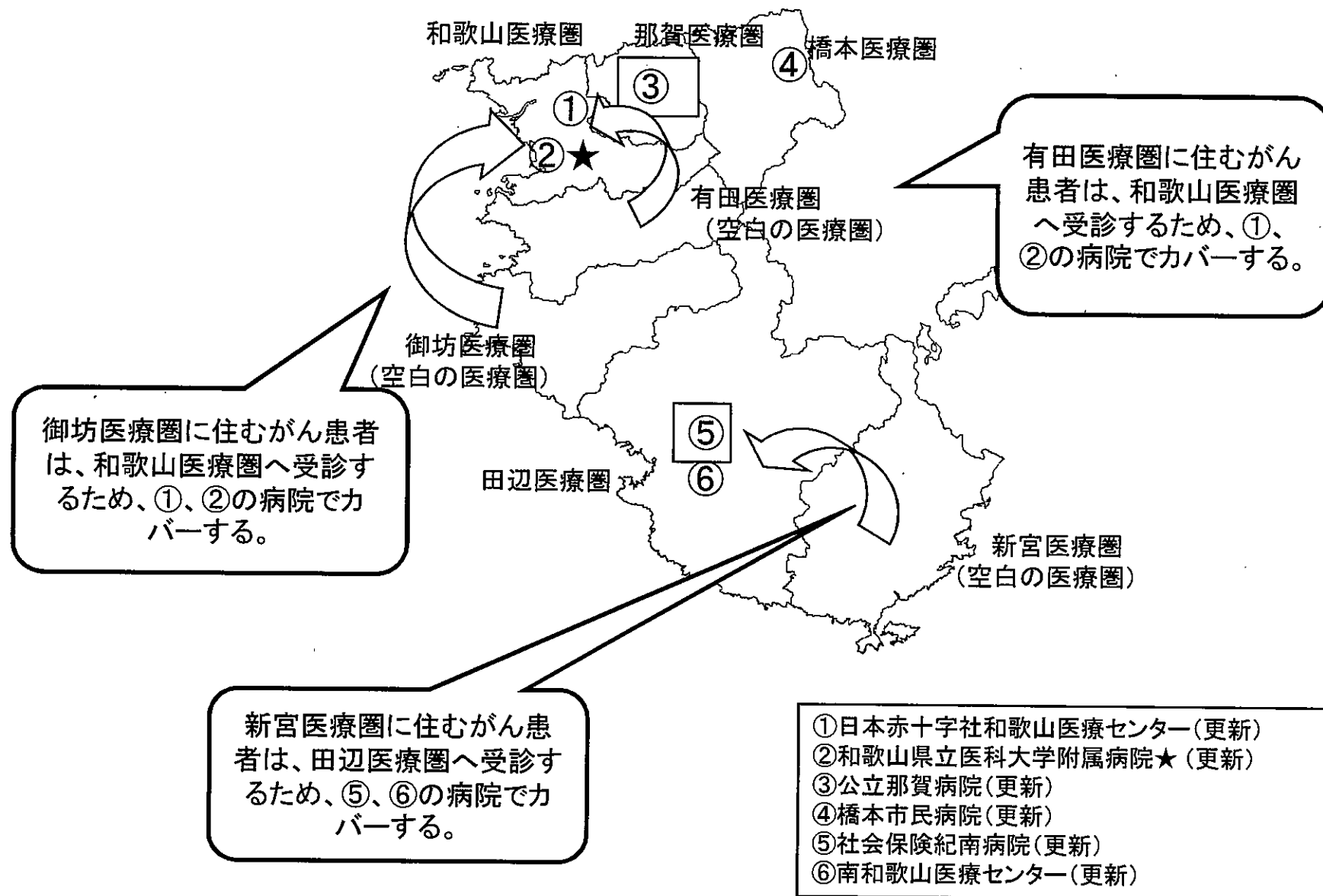


※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料 2

				年間入院患者数の状況	治療件数(手術件数)6～7月の集計													放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月～7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
都道府県 or 地域	申請区分	更新	病院名	年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患者 数に占 めるがん 患者の割 合(%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療依 頼数(6～7 月の集計)	相談 支援セン ター相 談件数(6～7 月の集計)	退院共 同指 導料2 (6～7 月の集計)	
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜 切除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うもの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
1		更新	日赤 和歌山	(3993) 4321	(23.0) 23.5	(247) 241	(12) 13	(26) 17	(27) 19	(0) 0	(38) 14	(1) 6	(4) 3	(24) 16	(9) 7	(0) 0	(464) 438	(7) 12	(418) 289	(559) 618	(8) 4	(20) 19	(0) 0	
2	★	更新	和医 大	(3388) 3899	(24.3) 26.4	(231) 269	(7) 0	(7) 13	(14) 15	(2) 1	(12) 10	(4) 1	(11) 15	(34) 49	(28) 35	(0) 0	(447) 514	(48) 60	(657) 782	(438) 549	(11) 13	(175) 219	(0) 0	
3		更新	那賀	(1071) 1373	(19.0) 24.1	(95) 110	(1) 0	(2) 8	(3) 7	(0) 0	(6) 13	(4) 3	(1) 0	(6) 7	(4) 4	(0) 0	(88) 88	(0) 0	(59) 123	(28) 28	(10) 12	(6) 13	(0) 0	
4		更新	橋本	(1017) 1063	(21.2) 21.5	(67) 57	(0) 0	(0) 0	(10) 9	(0) 0	(4) 13	(1) 0	(0) 1	(1) 0	(7) 8	(0) 0	(63) 76	(0) 0	(18) 21	(50) 67	(1) 11	(8) 12	(0) 1	
5		更新	紀南	(1628) 1258	(18.0) 14.5	(79) 69	(0) 0	(0) 0	(10) 7	(2) 0	(19) 9	(1) 1	(0) 0	(0) 1	(4) 5	(0) 0	(135) 175	(0) 0	(84) 49	(65) 100	(2) 7	(4) 24	(0) 0	
6		更新	南和 歌山	(394) 410	(7.8) 8.4	(35) 57	(0) 0	(6) 7	(10) 7	(0) 0	(0) 1	(2) 0	(0) 0	(4) 7	(7) 13	(1) 0	(103) 65	(0) 0	(39) 36	(52) 51	(1) 1	(133) 144	(0) 0	

和歌山県平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

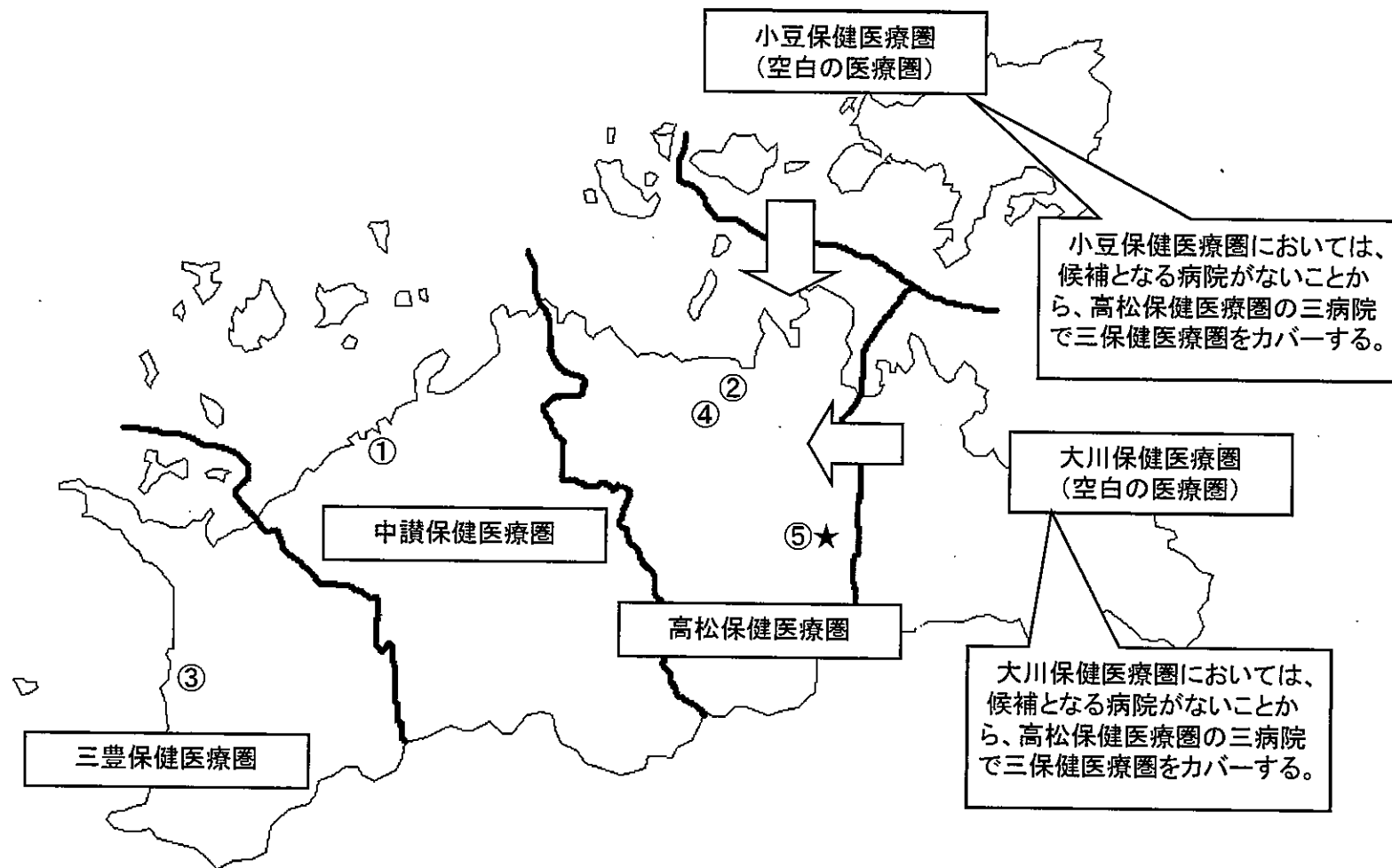


和歌山県におけるがんの75歳未満年齢調整死亡率の都道府県別順位は、全がんで平成17年が全国ワースト5位、18年2位、19年3位、20年において9位と、高水準で推移しており、がんは、県民にとって大きな健康不安の一つとなっており、予防・早期発見や医療体制の確保・充実が求められている。

県では、がん対策を主要施策と位置づけ、平成20年3月に、「和歌山県がん対策推進計画」を策定した。その中の重点課題として、がん診療の中心となる拠点病院を整備し、その機能向上を図ることなどにより、すべて県民が、住んでいる地域に関わらず、質の高いがん診療を受けることができる体制の整備を進めることとしており、今回の更新においても現在の6病院を引き続きがん診療連携拠点病院として推薦し、7医療圏におけるがん診療体制整備を図るものである。

37 香川県

香川県平成21年4月1日現在の拠点病院の指定状況等について

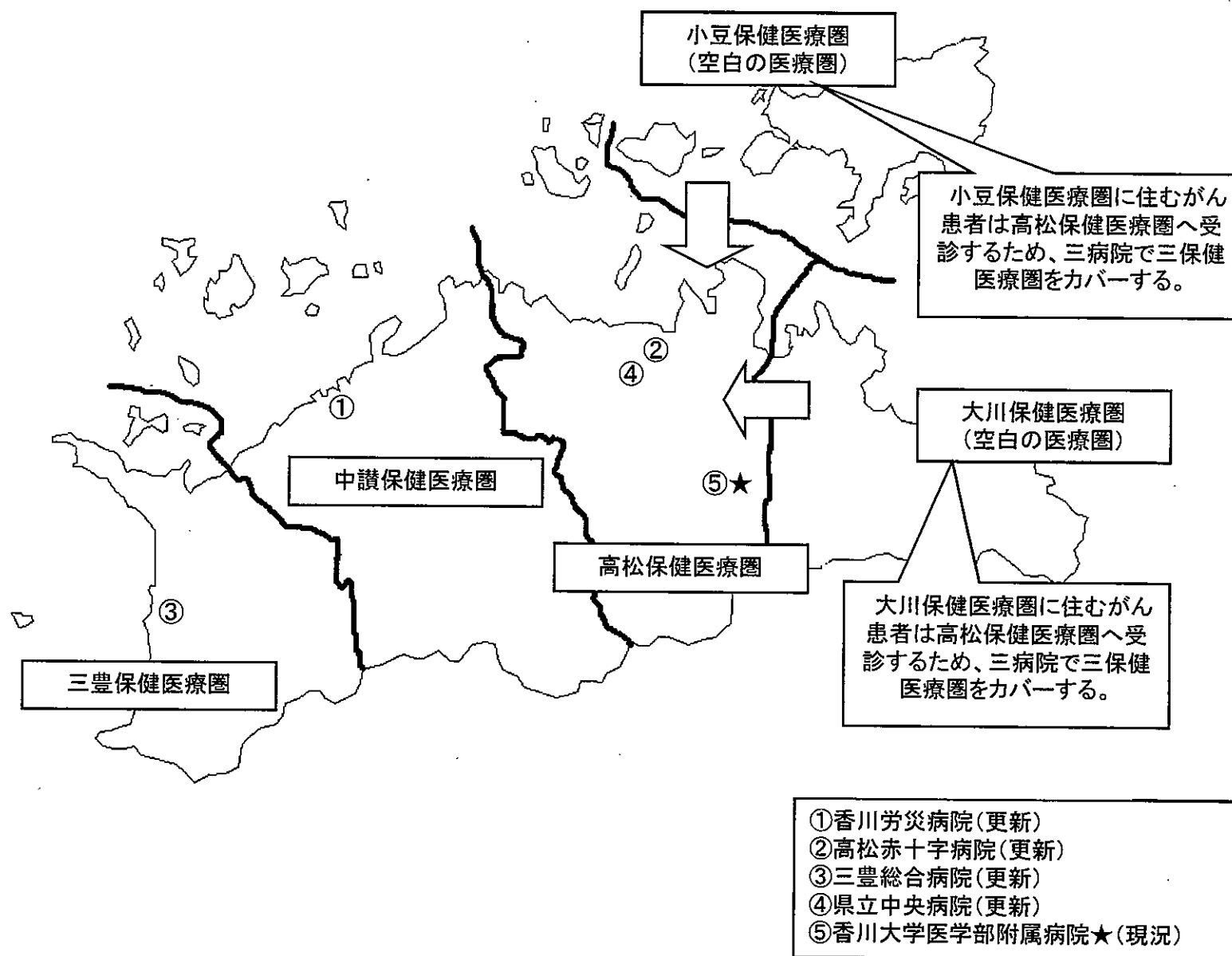


- ①香川労災病院 (平成18年8月24日)
- ②高松赤十字病院 (平成19年1月31日)
- ③三豊総合病院 (平成20年2月8日)
- ④県立中央病院 (平成20年2月8日)
- ⑤香川大学医学部附属病院★ (平成21年2月23日)

各病院における平成20年9月1日時点と平成21年9月1日時点の診療実績等の比較について

資料 2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院 名	年間入院患 者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計											放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合 (%)	悪 性 腫 瘍 手 術 総 数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チー ムに 対す る新 規診 療依 頼数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数(6 ～7月 の集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜切 除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	更新	香川 労災 病院	(1678) 1,915	(26.8) 23.5	(186) 189	(0) 0	(6) 3	(30) 9	(7) 7	(16) 15	(6) 1	(1) 2	(2) 1	(9) 15	(0) 0	(255) 262	(0) 0	(114) 127	(385) 192	(35) 30	(8) 8	(4) 1
2	更新	高松 赤十 字病 院	(1511) 1,598	(14.5) 15.0	(130) 136	(3) 3	(2) 5	(11) 11	(1) 0	(12) 9	(2) 4	(3) 1	(6) 5	(4) 10	(0) 0	(94) 92	(0) 0	(231) 262	(214) 240	(12) 9	(4) 8	(0) 2
3	更新	三豊 総合 病院	(1940) 3,576	(19.9) 36.5	(67) 100	(8) 2	(7) 13	(4) 12	(0) 2	(10) 18	(3) 6	(6) 2	(7) 4	(5) 9	(0) 0	(89) 161	(0) 0	(171) 96	(576) 106	(3) 4	(32) 35	(0) 0
4	更新	県立 中央 病院	(2564) 3,590	(23.0) 32.4	(222) 192	(4) 2	(9) 11	(20) 12	(1) 1	(15) 9	(2) 4	(9) 6	(17) 27	(0) 11	(0) 0	(249) 274	(1) 13	(217) 210	(164) 235	(7) 7	(95) 32	(0) 0
5	★	現況	香大 附属 病院	(2550) 2,240	(28.2) 24.6	(143) 144	(17) 18	(6) 10	(9) 10	(0) 3	(1) 8	(1) 3	(32) 15	(9) 10	(0) 0	(429) 416	(29) 27	(111) 349	(211) 509	(29) 7	(4) 8	(0) 0



今回の指定推薦等に係る県の考え方について

1. 推薦医療機関

香川労災病院、高松赤十字病院、三豊総合病院、香川県立中央病院（いずれも指定更新）

2. 推薦の理由

（1）第5次保健医療計画及びがん対策推進計画における対策

①本県の現状と課題

がんは、本県において、昭和52年より死因の第1位、平成18年のがんによる死亡者数は2,879人で全死亡者の28.1%を占めている。高齢化が全国平均を上回っている本県では、がんによる死亡者数は今後とも増加していくと推測される。

②対策と目標

がんによる死亡者をできるだけ減少させることを目標とし、がん診療の体制の整備・充実について、拠点病院を核として、個別の目標を定めている。

（2）拠点病院の整備状況

- ・三豊総合病院（平成15年12月指定、平成20年2月更新）、
- ・香川県立中央病院（平成17年1月指定、平成20年2月更新）
- ・香川労災病院（平成18年8月指定）
- ・高松赤十字病院（平成19年1月指定）
- ・香川大学医学部附属病院（平成20年2月指定、平成21年2月県拠点指定）

（3）高松保健医療圏内に3病院を整備する必要性と考え方

①大川、小豆保健医療圏の患者の受療動向

大川保健医療圏は、二市で構成され、面積は312.24km²、人口割合は8.8%、病院数は5、小豆保健医療圏は二町で構成され、島嶼部で面積は170.01km²、人口割合は3.2%、病院数は4という状況である。

また、県下の全病院を対象とした平成19年6月の県患者調査の結果によると、外来患者が通院する場合、大川保健医療圏に住所を有する患者の23.1%、小豆保健医療圏に住所を有する患者14.8%が、高松保健医療圏で受診している。

一方、入院患者を見ると、大川保健医療圏に住所を有する患者の33.5%、小豆保健医療圏に住所を有する患者の18.4%が高松保健医療圏で受診している。

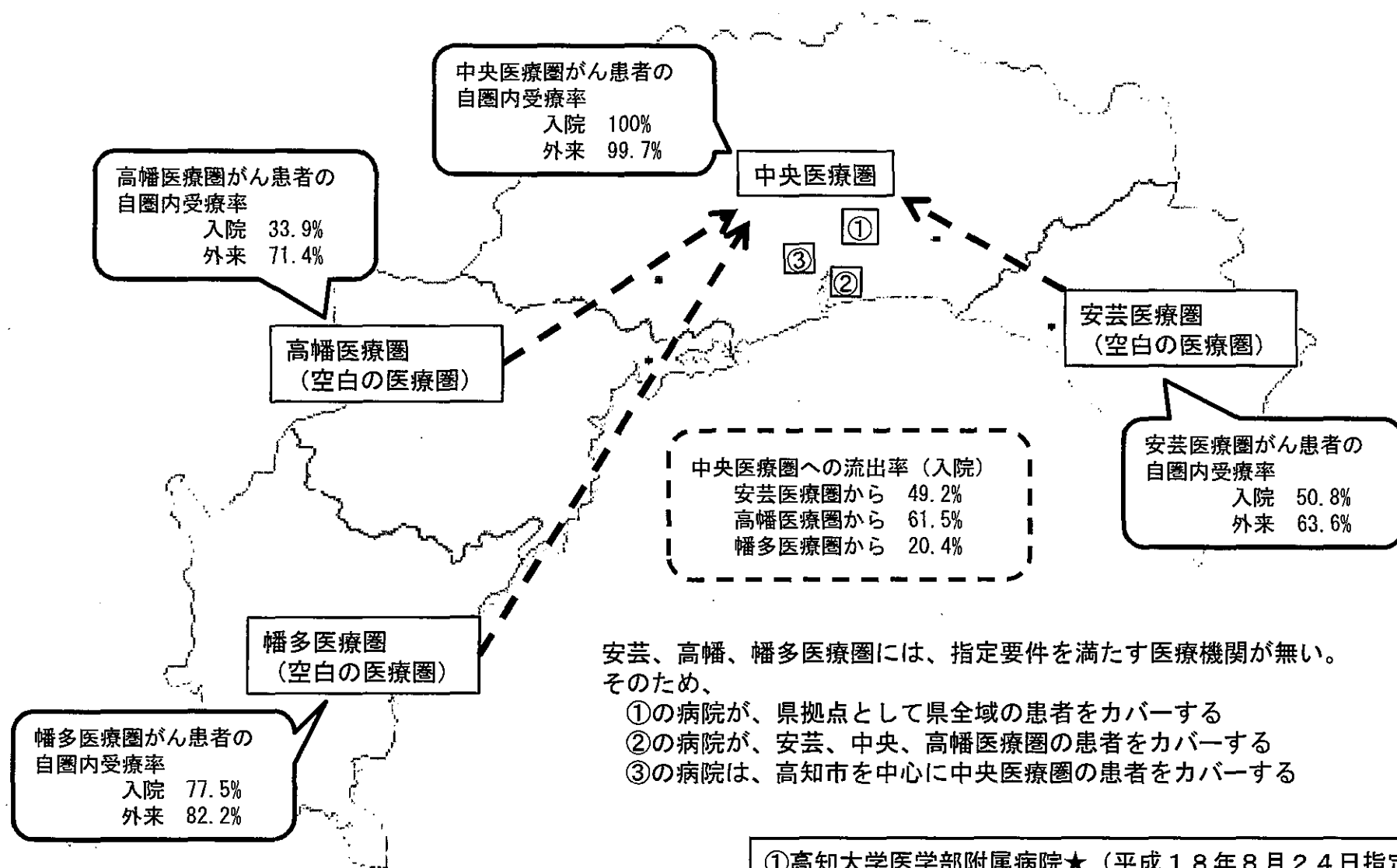
このように、大川、小豆両保健医療圏の患者は、相当数が、高松保健医療圏で受診していることが窺え、これらの医療圏における医療機能の一定程度は、高松保健医療圏に依存しているといえる。

②2保健医療圏の状況 候補となる病院がない。

③その他

39 高 知 県

高知県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



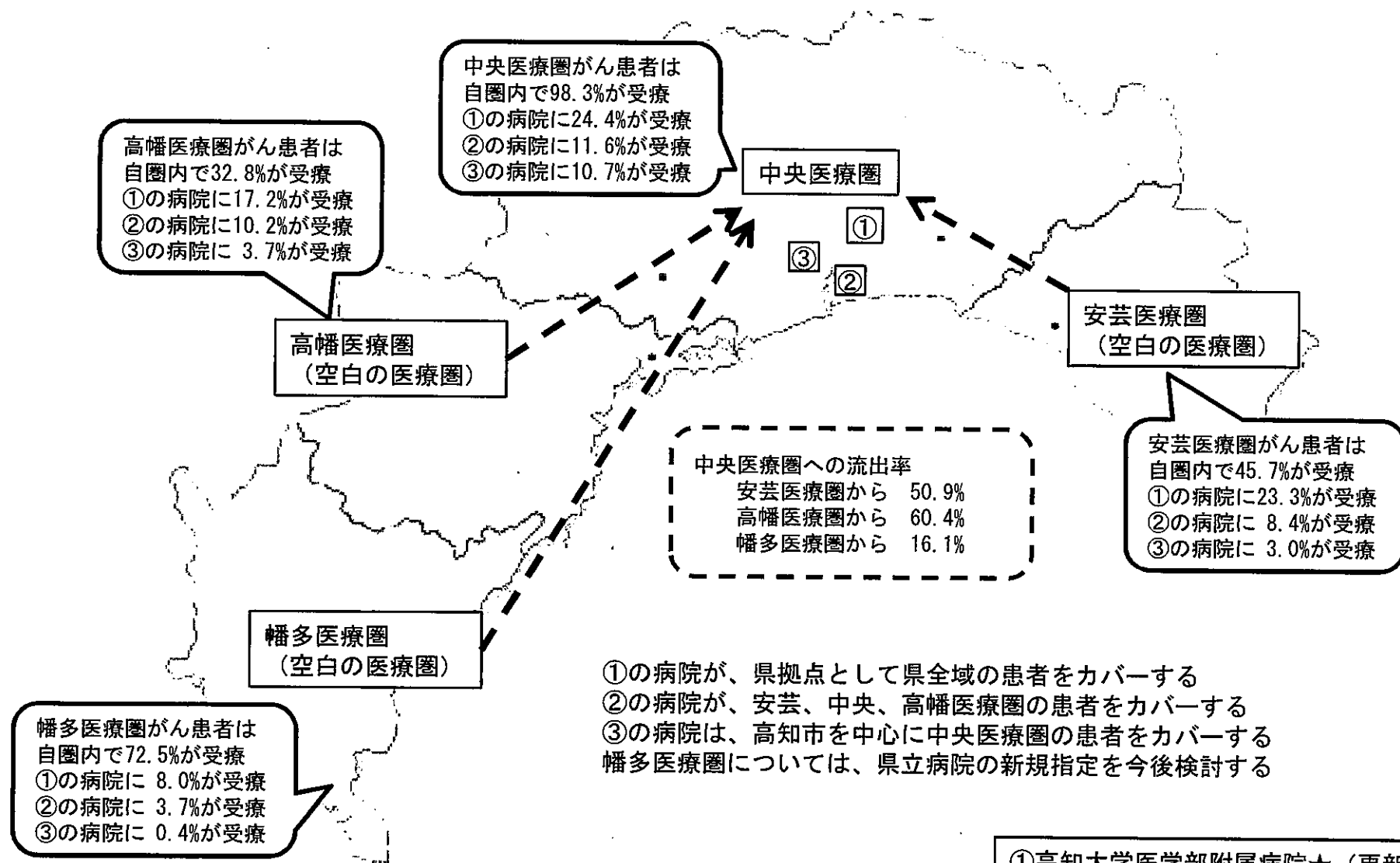
※受療率等は、平成17年高知県患者調査結果による

資料2

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

都道府県 Or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)	体外 照射	小線 源治 療	薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チー ムに 対す る新 規診 療依 頼数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数(6 ～7月 の集計)	退院共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術粘 膜切 除術 (EM R)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に行 うもの				入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	高知大学 医学部附 属病院	(2749) 3,497	(32.5) 38.7	(140) 191	(7) 6	(5) 14	(13) 7	(1) 0	(2) 5	(0) 2	(15) 4	(0) 25	(24) 26	(0) 0	(333) 358	(58) 41	(470) 450	(472) 371	(14) 14	(219) 186	(0) 0
2		更新	高知医療 センター	(3516) 4,028	(28.3) 33.7	(317) 187	(9) 12	(6) 5	(21) 14	(0) 0	(15) 27	(3) 2	(5) 11	(0) 4	(4) 7	(0) 0	(360) 325	(0) 0	(182) 164	(197) 218	(11) 19	(94) 265	(0) 0
3		更新	高知赤十 字病院	(1431) 1,389	(16.5) 16.3	(89) 65	(8) 3	(5) 3	(5) 0	(0) 0	(13) 0	(0) 0	(2) 1	(0) 0	(2) 0	(0) 0	(132) 125	(0) 0	(57) 69	(221) 71	(18) 9	(34) 71	(0) 0

高知県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



- ①高知大学医学部附属病院★ (更新)
②高知医療センター (更新)
③高知赤十字病院 (更新)

※受療率等は、平成20年国保レセプトによる0歳～74歳の入院及び外来受療の合計から計算

(1) がん診療の圏域の設定

本県には、4つの二次医療圏（安芸・中央・高幡・幡多）があるが、がん診療体制については、次のような医療機能の集積状況やがん患者の医療圏間移動、地理的条件等を踏まえ、県全体として高度医療の確保と患者の利便性の双方を確保できるよう、2診療圏域（中・東部及び西部）を設定する。

①本県では、医療機能が中央医療圏に集中しており、安芸及び高幡医療圏域内では十分ながん治療は実施できていない。

- ・安芸医療圏及び高幡医療圏では、放射線治療及び集学的治療を実施できる医療機関はない。
- ・胃がんの放射線治療及び集学的治療が出来る医療機関は、中央医療圏にしかない。
- ・幡多医療圏で、放射線治療及び集学的治療が出来る医療機関は1か所しかない。

②がんの入院患者についても、全県の7割強が中央医療圏に集中しており他の医療圏からの流入も多い。

安芸医療圏の入院患者の受療完結率	50.8%
中央医療圏の入院患者の受療完結率	100.0%
高幡医療圏の入院患者の受療完結率	33.9%
幡多医療圏の入院患者の受療完結率	77.5%

安芸医療圏から中央医療圏への流出は	49.2%
中央医療圏から他の医療圏への流出は	0.0%
高幡医療圏から中央医療圏への流出は	61.5%
幡多医療圏から中央医療圏への流出は	20.4%

③本県は、東西に長くしかも過疎化が進んだ中山間部を抱えるなど、地理的条件が厳しいが、最近の道路網や鉄道網の発達で、高知市から安芸・高幡医療圏への時間距離は、大幅に短縮している。

以上のことにより、がん診療については、2診療圏域（中・東部及び西部）を想定することとする。

(2) がん診療連携拠点病院の整備方針

都道府県拠点病院として、高知大学医学部附属病院（都道府県拠点・指定更新）の機能拡充を図るとともに、中・東部（安芸・中央・高幡医療圏）の地域拠点病院として、高知医療センター（地域・指定更新）及び高知赤十字病院（地域・指定更新）を整備する。

また、幡多医療圏については、5年以内に、幡多けんみん病院を拠点病院として整備できるよう検討を進める（第5期保健医療計画に明記）。

圏域	医療機関名	各医療機関の機能
全 県	高知大学医学部附属病院 （都道府県拠点・指定更新）	◆都道府県拠点病院として、高知がん診療連携協議会を主宰する。 ◆特定機能病院及び大学病院として、県内全域を対象に、高度ながん診療のみならず、次の機能も発揮する。 ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・全県の医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・全県の医療機関への医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ◆県内4医療圏の医療機関等の拠点として、遠隔画像システム等を通じて、診療支援を行う。 ◆PET-CTセンターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。
	高知医療センター （地域・指定更新）	◆中・東部の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、県内全域を対象に高度な医療を行う。 ◆高知大学とともに、中央医療圏、安芸医療圏・高幡医療圏の患者の診療と、これら医療圏の医療機関の診療支援を行う。 ◆がんの分野でも、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病病連携、病診連携、がん在宅医療推進の役割を果たしている。
中・東 部	高知赤十字病院 （地域・指定更新）	◆中・東部でがん診療の中核となる病院で、高度ながん診療を行うとともに、地域医療支援病院として医療圏内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ◆高知市中心部に位置し、JR高知駅や高速道路高知ICに近いなど、県内患者の利便性が図られている。
	幡多けんみん病院 （今後、拠点病院として、整備を具体的に検討する。）	◆幡多地区の基幹病院として、高度な医療を行う。
西 部		

中央医療圏に3病院を推薦する理由

(1) 患者の受療動向と他の医療圏との関係

安芸・高幡医療圏については、集学的治療が実施できないため、多くの患者が中央医療圏へ流入している。

安芸医療圏については、がん外来患者の自圏内受療完結率が63.6%、がん入院患者の自圏内受療完結率が50.8%となっており、その残りのほとんどが中央医療圏に流入している。

高幡医療圏については、がん外来患者の自圏内受療完結率が、71.4%、がん入院患者の自圏内受療完結率が33.9%となっており、その残りのほとんどが中央医療圏に流入している。

幡多医療圏については、がん外来患者の自圏内受療完結率が、82.2%、がん入院患者の自圏内受療完結率は77.5%と高い。

中央医療圏以外で現在要件を充足する病院はなく、安芸医療圏・高幡医療圏については、今後も整備が見込めない状況である。

以上のように、中央医療圏は、幡多医療圏を除く安芸・高幡医療圏を広くカバーする必要がある、現在の保健医療圏の枠組みを超えた広域対応が必要である。

資料 「悪性新生物 患者流出状況」平成17年高知県患者調査

入 院		単位：％・人				
機関医療圏 患者医療圏	中央	安芸	高幡	幡多	県外	実数
中央医療圏	100.0	0	0	0	0	759
安芸医療圏	49.2	50.8	0	0	0	122
高幡医療圏	61.5	0	33.9	2.8	1.8	109
幡多医療圏	20.4	0	0.7	77.5	1.4	142

外 来		単位：％・人				
機関医療圏 患者医療圏	中央	安芸	高幡	幡多	県外	実数
中央医療圏	99.7	0.3	0	0	0	604
安芸医療圏	33.8	63.6	0	0	2.6	77
高幡医療圏	28.6	0	71.4	0	0	91
幡多医療圏	11.1	0	5.6	82.2	1.1	90

(2) 拠点病院間の機能分担等

①対象地域

高知大学医学部附属病院は、遠隔画像システムや医師派遣による支援を行い、広く県内全域を対象としている。各医療圏居住患者の受療割合（入院分）からみると、安芸医療圏38.0%、中央医療圏24.7%、高幡医療圏23.7%、幡多医療圏12.8%で、県内全域をカバーしている。

高知医療センターは、中央及び高幡医療圏を中心に、県内全域を対象とし、診療、診療連携、支援を行っている。各医療圏居住患者の受療割合（入院分）からみると、安芸医療圏9.9%、中央医療圏18.8%、高幡医療圏22.0%、幡多医療圏10.5%で、中央及び高幡医療圏の受療割合が高い。

高知赤十字病院は、中央医療圏を中心に診療、診療連携、支援を行っている。各医療圏居住患者の受療割合（入院分）からみると、安芸医療圏1.4%、中央医療圏11.5%、高幡医療圏3.4%、幡多医療圏0%で、中央医療圏のうちでも高知市の患者に限ってみると14.1%と受療割合が高い。

以上のことから、安芸医療圏は高知大学医学部附属病院が主となって、高知医療センターとともにカバーしており、高幡医療圏は高知大学医学部附属病院と高知医療センターがカバーしている。

高知赤十字病院は、中央医療圏でも高知市が中心となっている。

②主要ながん治療（手術）実績（平成18年度）

高知大学医学部附属病院は、子宮がん以外はほぼ同程度の実績であり、幅広く手術が行われている。

高知医療センターは、胃・大腸悪性腫瘍手術、肝臓・胆嚢・膵臓悪性腫瘍手術の割合が高いことが特徴である。

高知赤十字病院は、胃・大腸悪性腫瘍手術、子宮悪性腫瘍手術の割合が高いことが特徴である。

3病院ともに、がんについて放射線治療、化学療法との併用による集学的治療を実施している。

(3) 本県のがん診療体制を整備するうえでの必要性

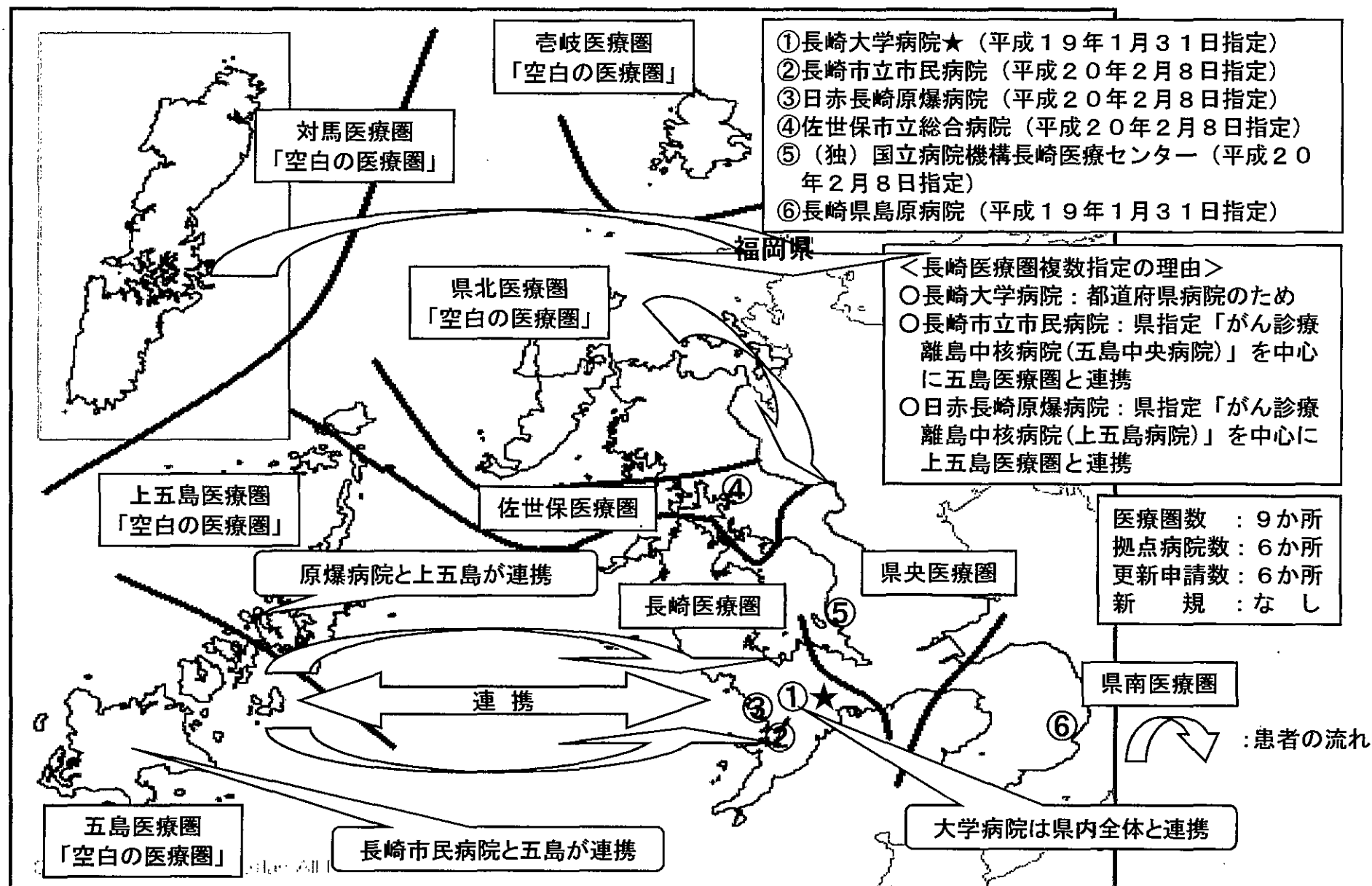
がん診療については、最新の医療を本県でも提供しうる体制づくりを目標とし、医療従事者の育成、診療の相互支援、がんに係る情報の収集・提供等を行うこととしている。その推進体制としては、特定機能病院及び大学病院である高知大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん治療水準の向上と人材の育成、治療連携体制を構築していく。

また、安芸医療圏及び高幡医療圏にがん診療連携拠点病院としての要件を満たす病院が無いことから、高知医療センターと高知赤十字病院の2病院が、高知大学医学部附属病院と連携して、中央医療圏のほかに安芸医療圏・高幡医療圏をカバーしていくことが不可欠であり、中央医療圏に3病院の指定が必要である。

以上のことから、高知県としては、高知大学医学部附属病院を全県的ながん治療と人材育成の基幹病院とし都道府県がん診療連携拠点病院に、高知医療センターと高知赤十字病院を中央・安芸・高幡医療圏をカバーする地域がん診療連携拠点病院として推薦し、がん診療地域連携診療体制を構築する方針である。

4 2 長 崎 県

長崎県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

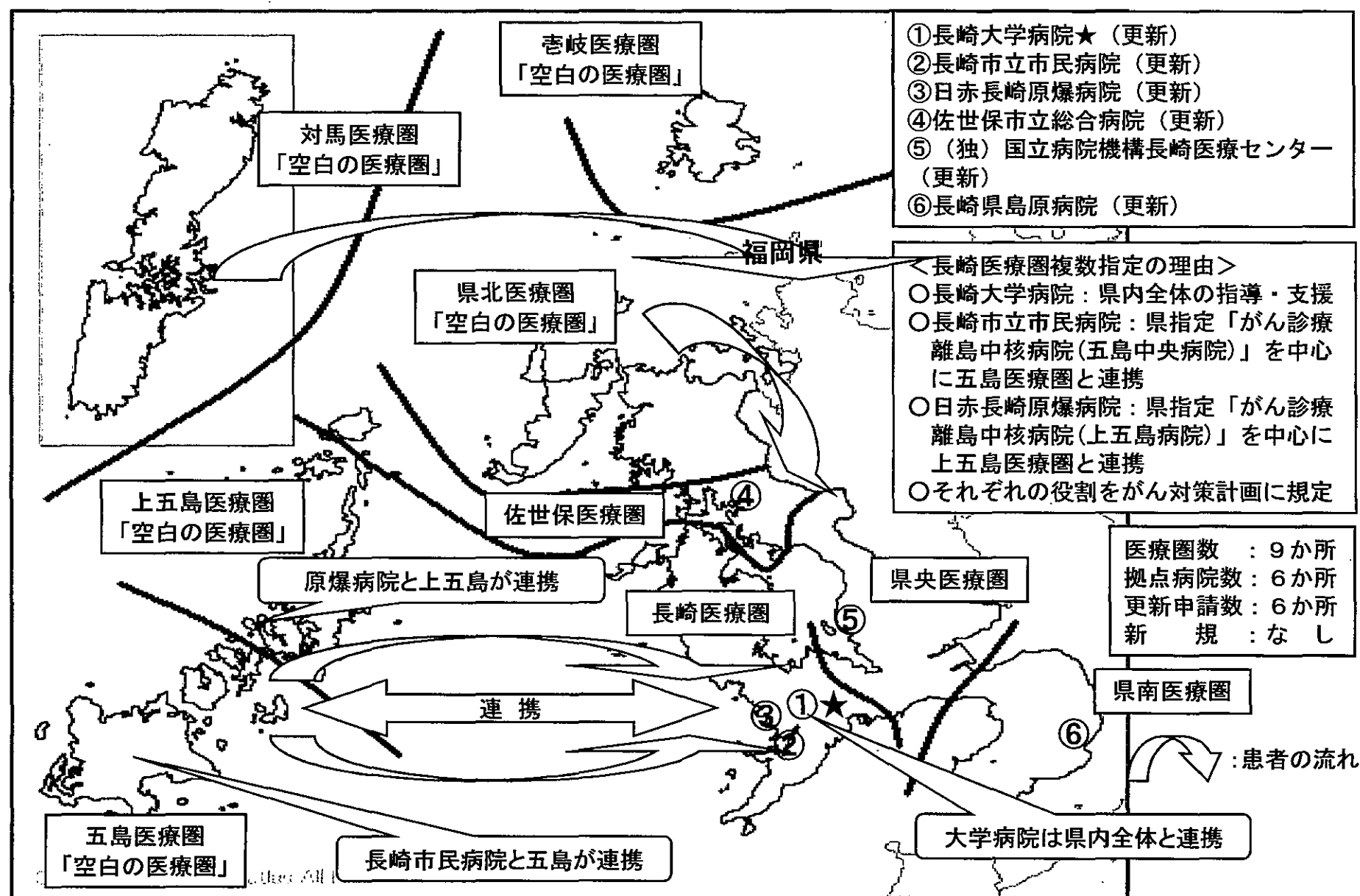


※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料2

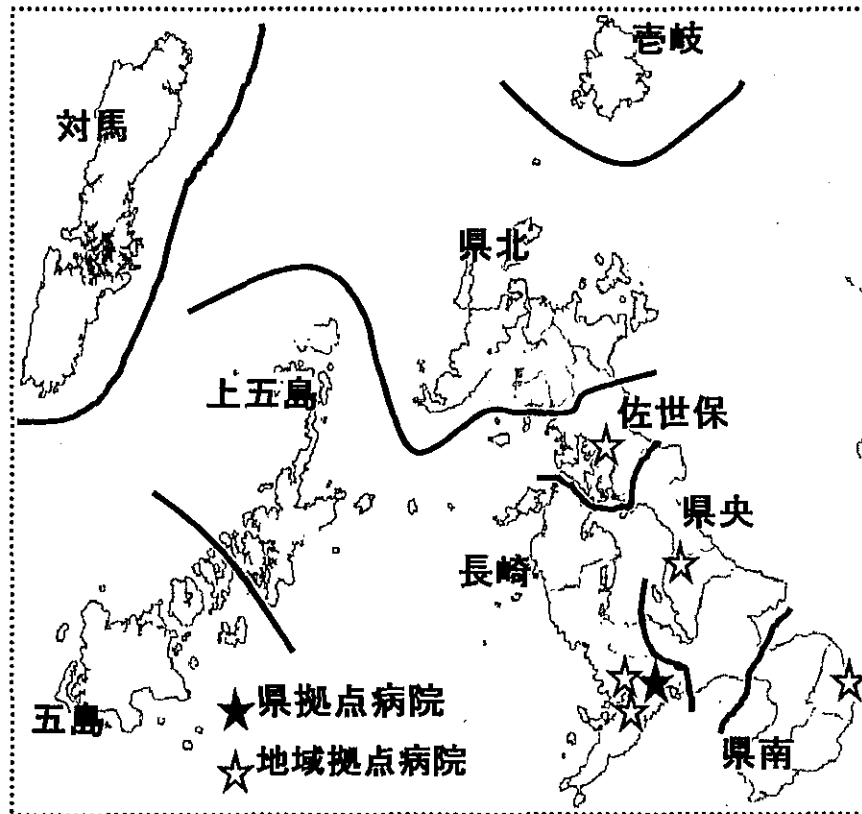
			年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計											放射線治療		がんに係る薬物療法(6月~7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間新入院がん患者数(1月~12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	悪性腫瘍手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数(1月~12月)		薬物療法のべ患者数		緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(6~7月の集計)	相談支援センター相談件数(6~7月の集計)	退院時共同指導料2(6~7月の集計)
						開胸手術	胸腔鏡下手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜切除術(EMR)	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波焼灼療法	乳癌手術	乳房再建術(乳房切除後)二期的に 行うもの	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数			
1	★	更新 長崎大 病 学院	(2922) 3139	(19.0) 25.0	(83) 126	(0) 6	(17) 9	(0) 4	(1) 0	(8) 16	(3) 6	(8) 6	(9) 20	(11) 16	(0) 0	(488) 557	(60) 65	(1731) 1462	(674) 919	(30) 30	(194) 198	(14) 19
2		更新 長崎市立 市民病院	(1760) 1866	(21.9) 23.2	(53) 104	(0) 0	(7) 13	(3) 8	(2) 0	(6) 7	(35) 34	(2) 0	(0) 14	(8) 10	(2) 1	(281) 331	(7) 8	(100) 134	(29) 74	(14) 8	(298) 165	(10) 3
3		更新 日本赤十字 社長崎原爆 病 院	(1978) 2171	(31.8) 33.6	(139) 116	(3) 2	(13) 17	(6) 4	(1) 0	(4) 5	(0) 1	(1) 4	(2) 3	(23) 12	(0) 0	(253) 305	(0) 0	(171) 175	(112) 106	(8) 21	(184) 201	(3) 5
4		更新 佐世保市立 総合病院	(3833) 2693	(34.0) 22.7	(128) 105	(15) 1	(17) 17	(12) 12	(0) 0	(38) 21	(0) 7	(4) 0	(4) 5	(12) 13	(0) 0	(482) 405	(0) 0	(245) 268	(110) 131	(17) 22	(58) 99	(0) 0
5		更新 国立病院機 構長崎医療 センター	(2281) 4880	(18.6) 39.1	(99) 204	(3) 1	(2) 8	(6) 10	(3) 3	(15) 18	(14) 19	(8) 9	(10) 7	(19) 12	(0) 0	(258) 287	(46) 9	(281) 141	(91) 100	(13) 26	(62) 152	(0) 0
6		更新 長崎県 島原病院	(673) 796	(16.0) 21.9	(61) 58	(0) 0	(0) 0	(4) 4	(0) 1	(11) 18	(3) 4	(1) 3	(0) 0	(10) 7	(0) 0	(223) 171	(0) 0	(26) 70	(72) 73	(7) 15	(128) 133	(0) 0

長崎県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



長崎県 今回の指定推薦(更新)に係る考え方(1)

資料 4-1



人 口: 約 144 万人
(本土: 約 125 万人、離島: 約 19 万人)
医 療 圏: 9 か所 (本土: 5 か所 離島: 4 か所)
都道府県病院: 長崎大学病院 (長崎医療圏)
地 域 病 院: 長崎市立市民病院 (長崎医療圏)
(県 1、地域 5) 長崎原爆病院 (長崎医療圏)
佐世保市立総合病院 (佐世保医療圏)
国立病院機構長崎医療センター (県中央医療圏)
「空白の医療圏」への対策 長崎県島原病院 (県南医療圏)
○ 離島地域医療圏、県北医療圏には、整備指針の要件を満たす病院がない。
○ そのため、「長崎県保健医療計画」及び「長崎県がん対策推進計画」において、各地域拠点病院に、拠点病院のない医療圏域も含めた「地域がん診療連携協議会」を設置し、その地域におけるがん診療に関する研修会の計画・実施、地域の医療機関や介護施設等との連携等により、地域全体のがん医療水準の向上を図ることとしている。

<連携体制>

(医療圏名)	(がん診療離島中核病院)	(連携支援病院)
五島医療圏	五島中央病院	◎長崎市立市民病院、日赤長崎原爆病院、長崎大学病院
上五島医療圏	上五島病院	長崎市立市民病院、◎日赤長崎原爆病院、長崎大学病院
壱岐医療圏	壱岐市民病院	長崎医療センター、長崎大学病院
対馬医療圏	対馬病院	長崎医療センター、長崎大学病院
県北医療圏域		佐世保市立総合病院
○がんと診療離島中核病院(◎は主連携担当病院)		

長崎県 今回の指定推薦(更新)に係る考え方(2)

<「長崎県がん対策推進計画」～抜粋～>

長崎県がん診療連携協議会 県内のがん診療の質の向上を図るため研修等の企画立を行う
協議会設置：長崎大学医学部・歯学部附属病院（以下、この頁内「長崎大学病院」という。）
協議会メンバー：全拠点病院

地域がん診療連携協議会 地域のがん診療の質の向上を図るため研修会等の企画立案を行う
○長崎地域がん診療連携協議会
協議会設置：長崎市立市民病院、日赤長崎原爆病院
協議会メンバー：地域医師会（長崎市、西彼杵）、医療圏内の主ながん診療医療機関、のほか、必要に応じ、訪問看護ステーション、介護関係者、行政機関（市町、保健所）など

○五島・上五島地域がん診療連携協議会
協議会設置：長崎市立市民病院、日赤長崎原爆病院（五島中央病院、上五島病院と共同運営）
協議会メンバー：地域医師会（五島）、以下同じ

○佐世保・県北地域がん診療連携協議会
協議会設置：佐世保市立総合病院
協議会メンバー：同上（佐世保市、平戸市、北松浦）、以下同じ

○県央地域がん診療連携協議会
協議会設置：長崎医療センター
協議会メンバー：同上（諫早、大村市、東彼杵郡）、以下同じ

○県南地域がん診療連携協議会
協議会設置：県立島原病院
協議会メンバー：同上（島原市、南高）、以下同じ

○杓岐・対馬地域がん診療連携協議会
協議会設置：長崎医療センター（杓岐市民病院、対馬いづはら病院と共同運営）
協議会メンバー：同上（杓岐、対馬市）、以下同じ

離島中核病院 拠点病院の支援を受けつつ、地域医療機関も含めたがん診療従事者を育成する

五 島	五 島 中 央 病 院	支 援 長崎市民病院、日赤長崎原爆病院、長崎大学病院 長崎市民病院、日赤長崎原爆病院、長崎大学病院 長崎医療センター、長崎大学病院 長崎医療センター、長崎大学病院
上五島	上 五 島 病 院	
杓 岐	杓 岐 市 民 病 院	
対 馬	対馬いづはら病院	

○長崎県がん対策部会（長崎県がん対策協議会）
平成21年10月20日開催

更新申請病院6か所について、

- ・拠点病院整備指針を満たしている
- ・すでに、それぞれの地域において、がん診療の地域連携及び、医師、看護師等への研修会の開催など拠点病院の役割を果たしている

→よって、全病院の推薦を承認

○長崎医療圏の複数更新申請

・長崎市立市民病院

五島医療圏との連携及び長崎医療圏（主に南部）の中核病院としての実績とともに、長崎県がん診療連携協議会緩和ケアWG中心的役割を担当。

・日本赤十字社長崎原爆病院

被爆県である本県の特殊性から、被爆者、被爆二世も含めたがん診療を行っているとともに、上五島医療圏との連携及び長崎医療圏（主に北部）の中核病院としての実績に加え、WGの相談支援部門の中心的役割を担当。

・長崎大学病院

県内全域（一部佐賀県等を含む）のがん診療を行える。特に、合併症、小児、妊婦、多重がん等、特殊な治療を担うとともに、県拠点病院として、県内のがん診療医療従事者に対する各研修会の企画、支援及び実施。

4 6 鹿 児 島 県

鹿児島県平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料1

出水保健医療圏に住むがん患者は、川薩保健医療圏と隣接の水俣市・八代市の医療機関を受診する。⑤の病院が出水保健医療圏と川薩保健医療圏のがん患者をカバーする

①国立大学法人鹿児島大学病院★

(平成18年8月24日)

②国立病院機構鹿児島医療センター

(平成18年8月24日)

③県立薩南病院

(平成19年1月31日)

④県立大島病院

(平成19年1月31日)

⑤済生会川内病院

(平成20年2月8日)

⑥国立病院機構南九州病院

(平成20年2月8日)

⑦県民健康プラザ鹿屋医療センター

(平成20年2月8日)

出水保健医療圏
(空白の医療圏)

川薩保健医療圏

鹿児島保健医療圏
ア)イ)ウ)コ)

南薩保健医療圏
エ)

始良・伊佐保健医療圏

肝属保健医療圏

【県がん診療指定病院】

ア(総合)今給黎病院

イ(総合)鹿児島市立病院

ウ(総合)南風病院

エ(総合)サザン・リージョン病院

オ(総合)阿久根市民病院

カ(総合)出水総合医療センター

キ(総合)霧島市立医師会医療センター

ク(総合)県立北薩病院

ケ(総合)屋久島徳洲会病院

コ(単独)相良病院

曾於保健医療圏に住むがん患者は、肝属保健医療圏と隣県の都城市・日南市の医療機関を受診する。⑦の病院が、曾於保健医療圏と肝属保健医療圏のがん患者をカバーする

奄美保健医療圏

熊毛保健医療圏
(空白の医療圏)

鹿児島保健医療圏

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、交通の便の良い鹿児島保健医療圏域の病院を受診する

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料2

都道府県 or 地域			申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計										放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月 の集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
					年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12月)	年間新 入院患 者に占 めるがん 患者の割 合(%)	悪性 腫瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん 手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する新 規診療依 頼数(6～7 月の集計)	相談 支援セン ター相談 件数(6～7 月の集計)	退院共 同指導料2 (6～7月 の集計)
								開胸 手術	胸腔 鏡手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜切 除術(EM R)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジオ波 焼灼療法	乳癌 手術	乳房 再建術(乳 房切除後) 二期的に 行うもの	体外 照射	小線源 治療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	鹿児島 大学病院	(3850) 4193	(43.4) 44.6	(81) 98	(0) 0	(24) 32	(1) 2	(0) 12	(5) 6	(1) 9	(12) 16	(13) 0	(9) 14	(0) 1	(566) 450	(105) 58	(244) 252	(97) 92	(18) 25	(57) 90	(0) 0	
2		更新	鹿児島医 療センター	(1881) 1927	(30.8) 29.8	(25) 19	(0) 1	(0) 2	(0) 6	(0) 0	(0) 8	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(153) 164	(0) 3	(184) 171	(43) 78	(15) 11	(3) 378	(1) 0		
3		更新	県立 薩南病院	(758) 651	(33.1) 30.4	(17) 16	(0) 0	(0) 0	(3) 3	(0) 0	(11) 7	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(33) 23	(0) 0	(34) 29	(24) 30	(3) 11	(33) 111	(0) 0	
4		更新	県立 大島病院	(627) 623	(10.9) 10.8	(41) 22	(3) 0	(0) 1	(4) 2	(1) 0	(6) 7	(3) 0	(0) 0	(0) 0	(9) 7	(0) 0	(7) 61	(0) 0	(83) 67	(21) 31	(11) 5	(34) 35	(0) 0	
5		更新	済生会 川内病院	(1179) 1067	(26.8) 24.5	(39) 26	(0) 0	(0) 0	(1) 3	(0) 0	(2) 6	(0) 0	(0) 1	(1) 1	(0) 1	(0) 0	(166) 153	(0) 0	(102) 95	(28) 25	(2) 4	(1) 65	(0) 0	
6		更新	南九州病 院	(1719) 1625	(48.0) 47.4	(36) 44	(6) 15	(18) 13	(4) 2	(0) 0	(4) 2	(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 5	(0) 0	(163) 116	(0) 0	(124) 114	(13) 18	(9) 12	(52) 100	(0) 0	
7		更新	鹿屋医療セ ンター	(920) 860	(25.1) 27.2	(21) 24	(1) 0	(0) 0	(3) 1	(0) 0	(3) 2	(19) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 4	(0) 0	(133) 83	(0) 0	(49) 92	(32) 59	(16) 17	(35) 23	(0) 0	

鹿児島県平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ①国立大学法人鹿児島大学病院★(更新)
- ②国立病院機構鹿児島医療センター(更新)
- ③県立薩南病院(更新)
- ④県立大島病院(更新)
- ⑤済生会川内病院(更新)
- ⑥国立病院機構南九州病院(更新)
- ⑦県民健康プラザ鹿屋医療センター(更新)

- 【県がん診療指定病院】
- ア(総合)今給黎病院
 - イ(総合)鹿児島市立病院
 - ウ(総合)南風病院
 - エ(総合)サザン・リージョン病院
 - オ(総合)阿久根市民病院
 - カ(総合)出水総合医療センター
 - キ(総合)霧島市立医師会医療センター
 - ク(総合)県立北薩病院
 - ケ(総合)屋久島徳洲会病院
 - コ(単独)相良病院
 - サ(総合)国立病院機構指宿病院

曾於保健医療圏に住むがん患者は肝属保健医療圏と隣県(都城市・日南市)で受診するため⑦の病院でカバーする

熊毛保健医療圏に住むがん患者は交通の便のよい鹿児島保健医療圏で受診するため、当面は①②の病院でカバーするが、今後、鹿児島保健医療圏で主に熊毛保健医療圏をカバーする拠点病院の指定申請を検討している

◎現状

- ・9医療圏域中6医療圏域に7施設(都道府県:1機関・地域:6機関)が指定されている。
- ・本県独自の「県がん診療指定病院」を11医療機関指定している。(H22. 1. 1現在)

◎目標

- ・平成22年度末までに一又は複数の二次保健医療圏域に地域がん診療連携拠点病院を整備。
- ・平成22年度末までに、地域がん診療連携拠点病院が未整備の二次保健医療圏域及び圏域の特性等により連携医療の強化が必要な圏域については、県がん診療指定病院を整備。

◎役割分担

○県がん診療連携拠点病院

- ・専門的な高度医療の提供
- ・医療従事者を対象とした研修会の開催
- ・がん診療に関する情報提供
- ・がん拠点病院連携協議会の設置

○地域がん診療拠点病院

- ・集学的治療及び標準的治療体制の提供
- ・緩和ケアチームの設置及び提供
- ・病病連携、病診連携の協力体制の整備
- ・相談支援センターの設置

◎未充足項目

施設名: 県立鹿屋医療センター

3 情報の収集提供体制

(1) 支援センター

- ④ 国立がんセンターがん情報センターによる研修を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置している。

- ⑤ がん対策情報センター相談支援センター相談員(1)(2)(3)の修了者数

- ・理由: 受講者本人が研修会直前になり、体調不良になり入院する結果となった。

21年11月9～10日の研修会を受講した。

- ・充足見込み年月日: 平成21年11月11日

◎空白圏域の考え方

○出水保健医療圏

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定要件を充足する医療機関がない。
- ・隣接の水俣市・八代市(熊本県)も生活圏となっており, その医療施設を利用するがん患者も多い。
- ・隣接の川薩医療圏の地域がん診療連携拠点病院(済生会川内病院)と県がん診療指定病院(阿久根市民病院・出水総合医療センター)との連携によりがん患者に対応する。

○曾於保健医療圏域

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定要件を充足する医療機関がない。
- ・県がん診療指定病院も指定されていない。
- ・隣接の肝属保健医療圏域の地域がん診療連携拠点病院(鹿屋医療センター)で対応する。

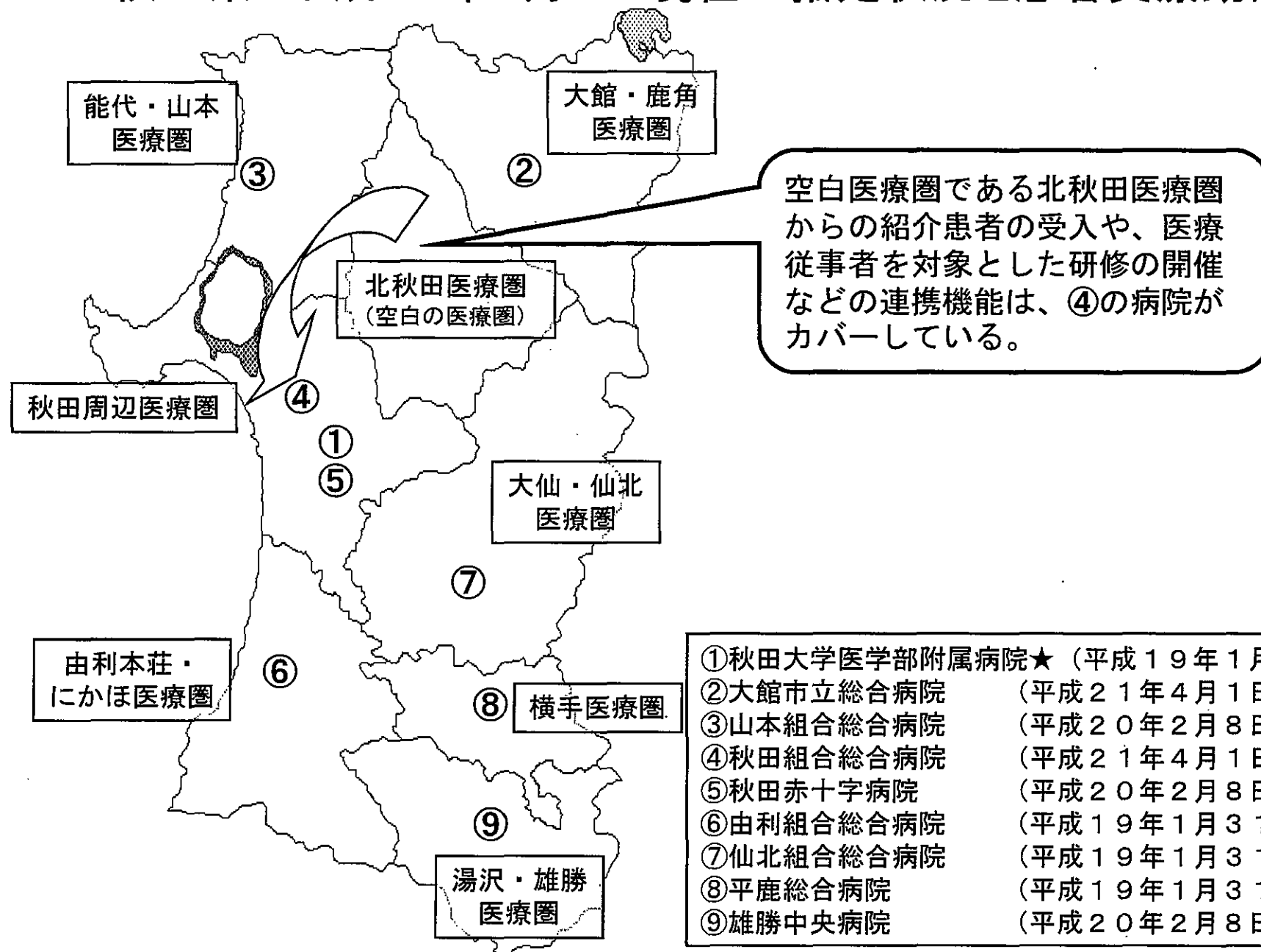
また, 隣接の宮崎県(都城市・日南市)の医療機関への受診もみられる。

○熊毛保健医療圏域

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定要件を充足する医療機関がない。
- ・屋久島には県がん診療指定病院(屋久島徳洲会病院)が指定されている。
- ・現状では, この圏域のがん患者は交通網(航空機・船)の便利な鹿児島市内の医療機関を受診している。
- ・熊毛圏域については, 鹿児島保健医療圏域の医療機関への受診が多いことから, 熊毛圏域のがん患者をカバーする地域がん診療連携拠点病院を鹿児島圏域で今後指定推薦する方向で検討している。

5 秋 田 県

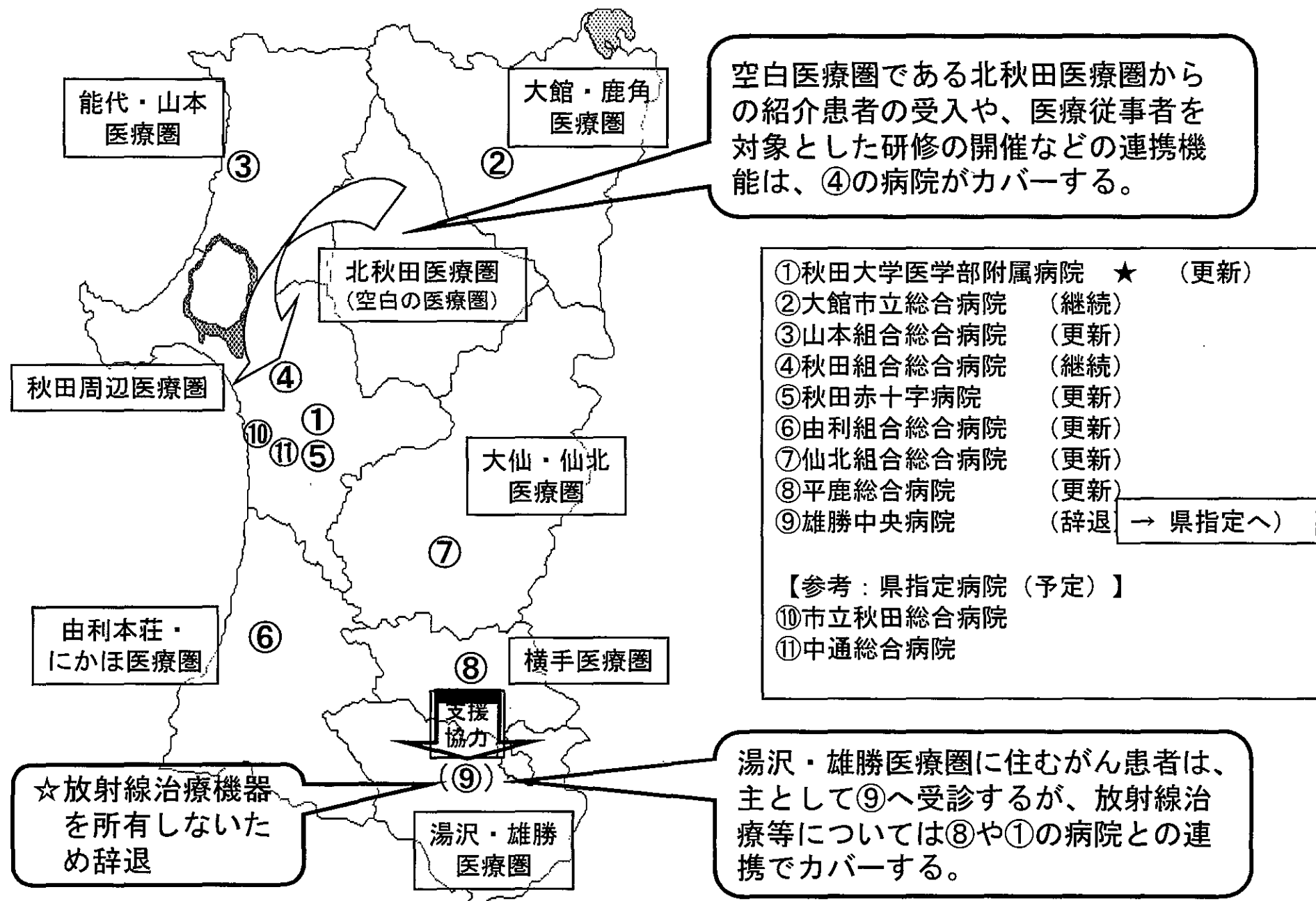
秋田県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

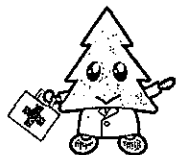


資料 2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		治療件数（手術件数） 6～7月の集計											放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 センター	地域 連携	
			年間新 入院が ん患者 数 (1月～ 12月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸 がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者 実数 (1月～12月)		薬物療法 のべ患者数		緩和 ケア チームに 対する 新規診 療依頼 数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 センター 相談件 数 (6～7 月の 集計)	退院 時共 同指 導料 2 (6～7 月の 集計)	
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜 切 除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術 (乳房 切除 後)二 期的 に行 うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
1	★	更新	秋田大学医学 部附属病院	(2,949) 3,068	(32.2%) 33.5%	(53) 165	(10) 13	(2) 3	(0) 4	(0) 0	(4) 4	(2) 2	(1) 4	(3) 3	(7) 9	(0) 0	(539) 552	(41) 30	(316) 276	(267) 318	(5) 4	(84) 98	(0) 0
2		現況	大館市立総合 病院	(1,074) 804	(18.7%) 13.9%	(48) 63	(0) 0	(0) 0	(13) 14	(1) 5	(11) 12	(20) 0	(0) 0	(1) 0	(5) 6	(0) 0	(103) 122	(0) 0	(106) 55	(331) 103	(6) 4	(124) 196	(0) 0
3		更新	山本組合総合 病院	(833) 902	(12.1%) 13.0%	(37) 24	(0) 0	(0) 0	(6) 8	(0) 0	(7) 2	(0) 0	(0) 0	(4) 3	(0) 0	(145) 83	(0) 0	(84) 92	(120) 43	(1) 8	(12) 17	(0) 0	
4		現況	秋田組合総合 病院	(1,535) 1,635	(17.9%) 18.9%	(72) 85	(2) 0	(3) 2	(11) 22	(0) 0	(15) 24	(6) 2	(1) 2	(7) 7	(7) 6	(0) 0	(102) 108	(0) 0	(74) 79	(63) 71	(5) 6	(29) 57	(2) 0
5		更新	秋田赤十字病 院	(1,754) 2,053	(17.9%) 21.1%	(139) 137	(3) 0	(10) 8	(19) 22	(2) 1	(12) 25	(9) 13	(1) 2	(4) 6	(10) 10	(0) 0	(182) 166	(0) 0	(71) 80	(122) 121	(33) 57	(32) 53	(0) 0
6		更新	由利組合総合 病院	(1,414) 1,318	(8.9%) 14.2%	(33) 26	(1) 2	(1) 1	(2) 1	(1) 1	(10) 4	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(8) 3	(0) 0	(98) 122	(0) 0	(94) 156	(55) 96	(6) 2	(65) 35	(0) 0
7		更新	仙北組合総合 病院	(1,609) 1,587	(20.2%) 20.4%	(77) 69	(4) 0	(3) 1	(15) 15	(4) 2	(9) 15	(4) 3	(1) 0	(0) 0	(8) 5	(0) 0	(94) 14	(0) 0	(126) 145	(105) 145	(2) 9	(18) 17	(0) 0
8		更新	平鹿総合病院	(1,403) 1,527	(15.7%) 16.4%	(98) 104	(1) 1	(5) 4	(10) 7	(0) 0	(18) 10	(3) 5	(7) 0	(7) 1	(13) 13	(0) 0	(270) 218	(0) 0	(102) 98	(96) 113	(0) 3	(70) 81	(3) 10
9		辞退	雄勝中央病院	(379) 558	(7.0%) 10.5%	(28) 50	(0) 0	(0) 0	(3) 4	(1) 3	(2) 8	(2) 1	(0) 1	(1) 0	(4) 7	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(33) 18	(27) 38	(7) 5	(5) 6	(0) 0

秋田県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向





秋田県におけるがん診療体制の基本的な考え方

今回の推薦：更新 6 病院（継続 2、辞退 1） → 8 医療圏 8 病院へ

○ 秋田大学医学部附属病院が、県の拠点として、高度ながん医療を提供するとともに、県内拠点病院の連携の中心となって均てん化を推進

○ 医療提供体制の現状や、地理的条件、交通の利便性などの地域特性から、8つの二次医療圏すべてに、がん診療連携拠点病院を整備することが目標

・ 過疎地の医療圏にあっても、均てん化のためには拠点病院が必要

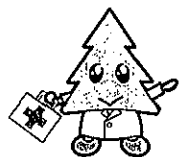
◇地域がん診療連携拠点病院は、

- 住民から身近な相談支援の窓口
- 予防・検診から治療まで、地域に根ざした啓発、情報提供
- 地域の医療機関との顔の見える連携

○ 秋田周辺医療圏は人口・医療資源が集中していることから、複数の病院を拠点病院とし、それぞれの特徴を活かしながら連携することで、医療圏内はもとより、県内全体の均てん化を推進

- ・ 秋田市内の複数の病院が医療圏及び県全体のがん診療をリード
- ・ 空白域のカバー、他の医療圏の拠点病院をサポート





今後の推進方針

資料 4 - ②

○拠点病院に加え、県指定病院を整備し、県全体のがん診療の均てん化を推進

- 国の整備指針に準じた県独自の指定基準を設定し、雄勝中央病院、市立秋田総合病院、中通総合病院を「県がん診療連携推進病院（仮称）」として指定
- 県指定病院は、拠点病院との協力により、診療機能の強化や、医療圏内の他の医療機関との連携を推進
- 県単の補助制度により、県指定病院の機能強化を促進

・医療従事者を対象とする研修の実施
・がん登録の推進
・相談支援体制の強化
・地域連携クリティカルパスの整備 等

北秋田医療圏

人口4万、過疎・高齢化が急速に進行

北秋田市民病院（H22年4月開院・地域の中核病院）を、拠点病院が支援
※秋田組合総合病院（秋田周辺医療圏）がカバー

湯沢・雄勝医療圏

人口7万、過疎・高齢化が急速に進行

雄勝中央病院（拠点病院→県指定）が、引き続き医療圏内の診療の中心
※放射線治療等は、他の拠点病院との連携で

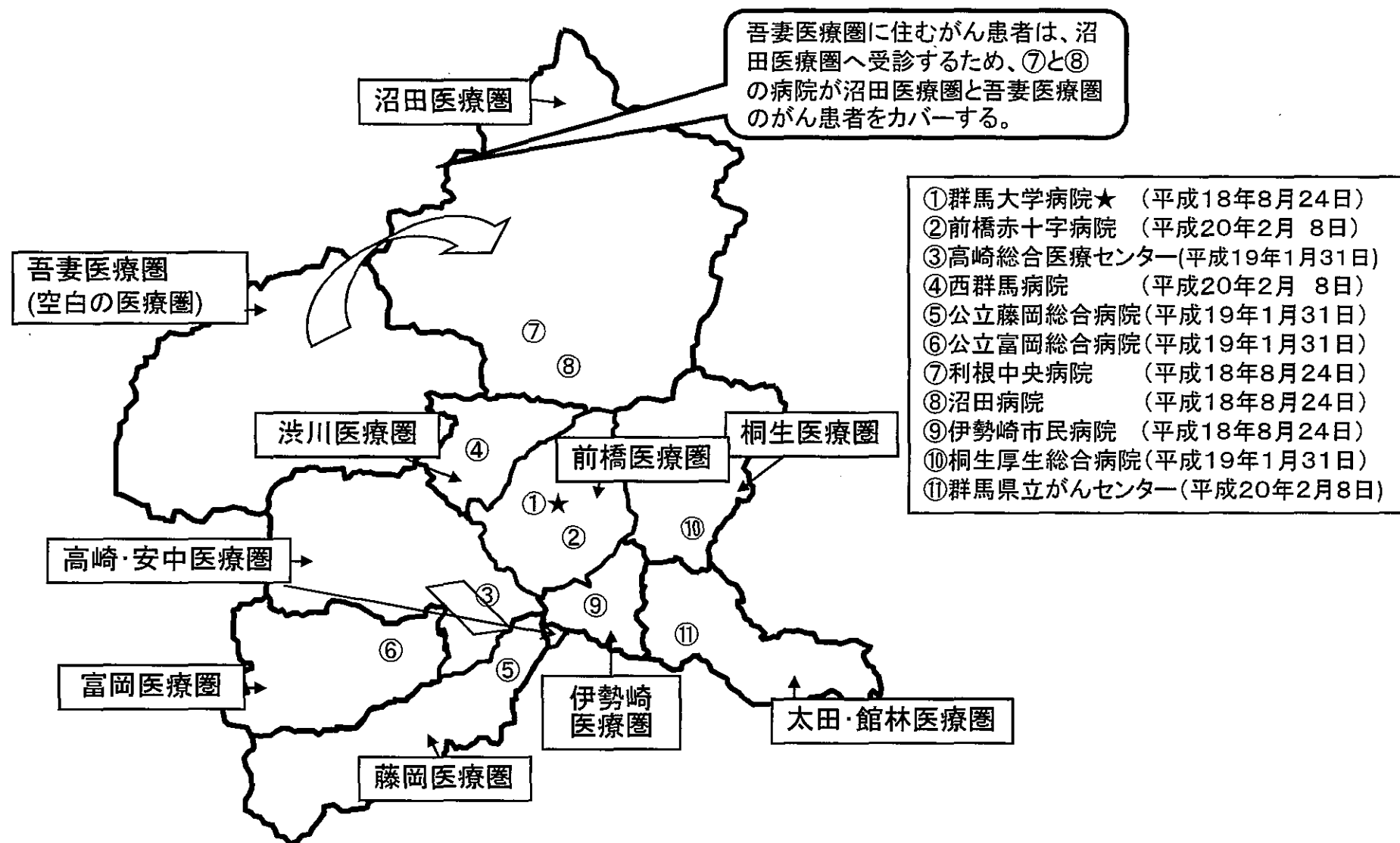
秋田周辺医療圏

・人口42万
・圏外から患者流入多い
・医療資源が集中

拠点病院に加え、市立秋田総合病院、中通総合病院を県指定病院として指定し、拠点病院と相互に協力し、県全体のがん診療水準向上を図る

10 群馬県

群馬県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

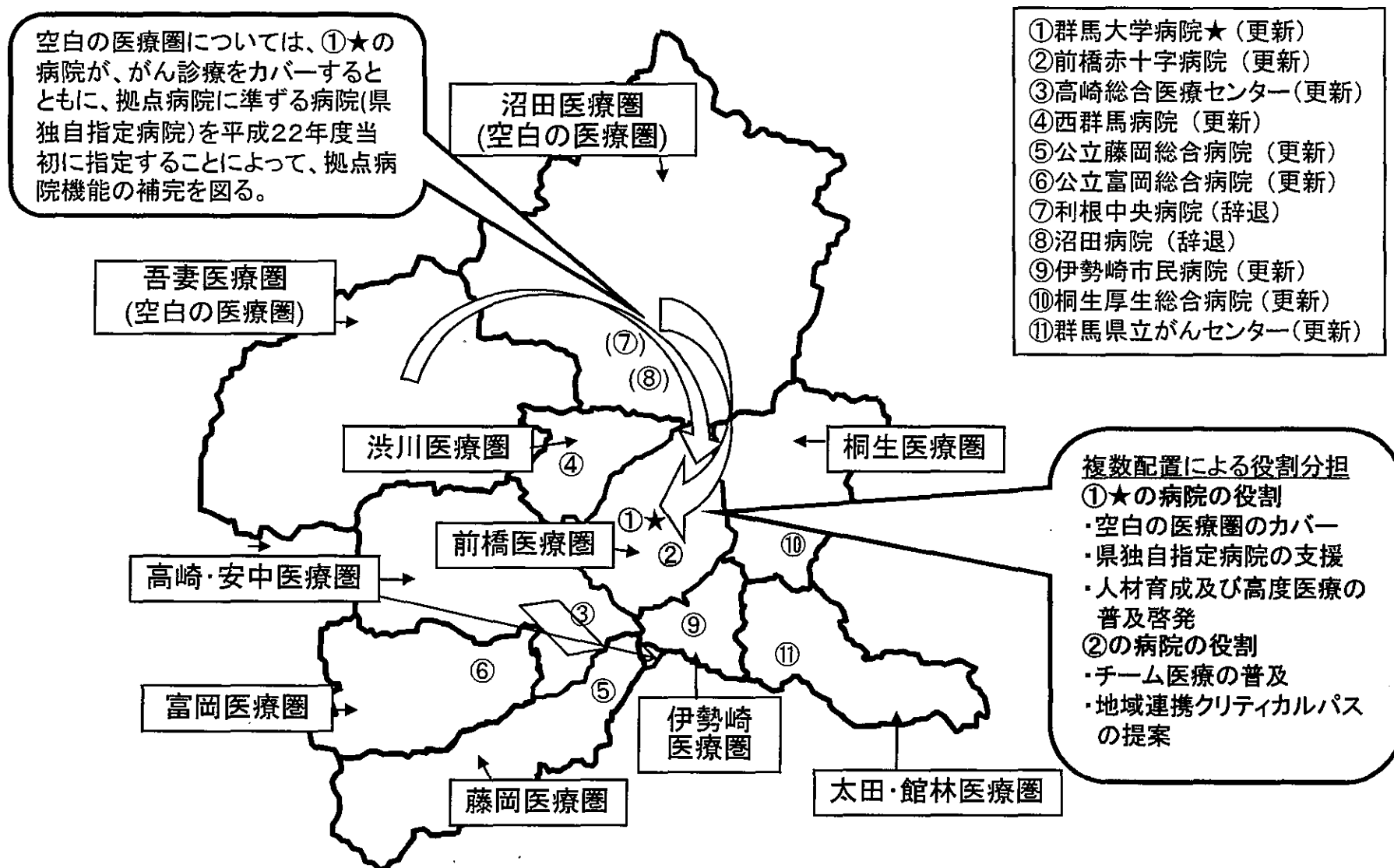


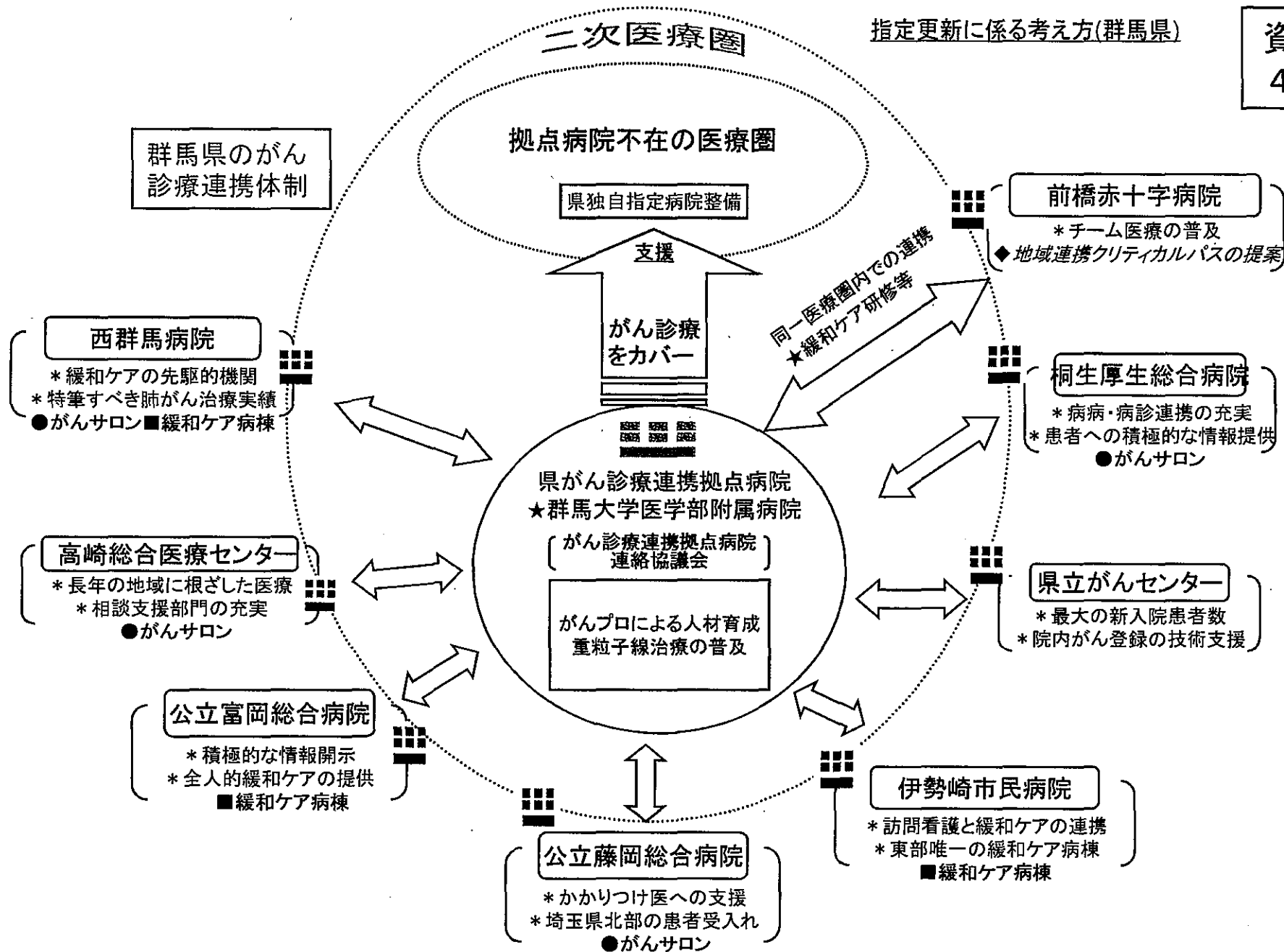
資料 2

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値

	都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計											放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)	緩和 ケア	相談 支援 センター	地域 連携	
				年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12月)	年間 入院 患者 数に める が ん 者 の 割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新 規 診 療 依 頼 数 (6～7 月の 集 計)	相談 セン ター 相 談 件 数 (6 ～ 7 月 の 集 計)	退院共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)
							開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜 切 除 術 (EMR)	開腹手 術	内視 鏡手 術	開腹手 術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的行 うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	群馬大 病院	(3898) 3877	(31.7) 30.3	(298) 237	(8) 9	(21) 16	(14) 13	(4) 4	(28) 23	(1) 0	(0) 8	(1) 5	(44) 37	(1) 0	(826) 778	(191) 197	(429) 437	(376) 1419	(13) 193	(233) 244	(0) 0
2		更新	前橋日 赤病院	(1314) 2520	(16.2) 20.7	(97) 110	(10) 2	(3) 3	(12) 7	(0) 0	(18) 11	(11) 0	(1) 4	(10) 11	(12) 15	(0) 0	(335) 334	(0) 0	(98) 118	(238) 127	(25) 32	(358) 387	(0) 0
3		更新	高崎医 療セン ター	(790) 992	(141) 15.8	(86) 184	(0) 0	(5) 7	(8) 15	(0) 0	(4) 11	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(14) 18	(0) 0	(341) 274	(32) 30	(77) 132	(130) 91	(17) 24	(417) 386	(12) 3
4		更新	西群馬 病院	(1614) 1899	(63.2) 70.9	(53) 59	(24) 28	(0) 8	(3) 2	(0) 0	(3) 2	(7) 0	(2) 1	(3) 7	(12) 7	(0) 0	(44) 237	(0) 0	(113) 184	(11) 29	(7) 13	(85) 55	(0) 0
5		更新	藤岡総 合病院	(1462) 1617	(18.7) 20.0	(35) 47	(2) 2	(0) 0	(5) 8	(1) 3	(10) 6	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(4) 2	(0) 0	(124) 112	(0) 0	(119) 124	(68) 25	(7) 10	(40) 25	(0) 0
6		更新	富岡総 合病院	(1356) 1332	(14.8) 15.5	(86) 104	(0) 2	(0) 0	(15) 14	(0) 0	(19) 14	(8) 1	(0) 0	(0) 0	(14) 15	(0) 0	(140) 121	(0) 0	(19) 34	(82) 124	(9) 27	(15) 79	(0) 0
7		更新	伊勢崎 市民病 院	(2873) 3500	(24.0) 27.8	(175) 159	(3) 7	(3) 4	(12) 4	(0) 0	(9) 10	(0) 1	(1) 0	(10) 8	(21) 17	(0) 0	(317) 325	(16) 22	(218) 155	(167) 96	(19) 17	(57) 180	(0) 0
8		辞退	利根中 央病院	(1007) 1856	(16.3) 24.9	(55) 54	(0) 1	(1) 1	(5) 5	(0) 0	(12) 7	(7) 14	(0) 1	(6) 0	(6) 6	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(52) 33	(21) 40	(30) 30	(99) 28	(0) 0
9		辞退	沼田病 院	(536) 550	(23.6) 25.6	(10) 14	(0) 0	(0) 0	(2) 9	(0) 0	(5) 7	(1) 0	(0) 1	(0) 2	(2) 1	(0) 0	(104) 0	(0) 0	(17) 75	(60) 40	(0) 8	(27) 38	(0) 0
10		更新	桐生厚 生総合 病院	(1745) 2227	(20.7) 25.1	(76) 85	(0) 0	(0) 3	(8) 3	(1) 2	(9) 5	(0) 1	(4) 5	(2) 9	(3) 3	(0) 0	(161) 173	(0) 0	(294) 369	(189) 134	(13) 12	(22) 56	(0) 0
11		更新	県立が んセン ター	(3507) 3950	(84.2) 91.3	(213) 200	(0) 0	(10) 7	(19) 20	(3) 3	(22) 23	(6) 7	(3) 2	(3) 2	(25) 30	(0) 0	(568) 563	(36) 43	(231) 336	(661) 723	(34) 15	(697) 645	(0) 0

群馬県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向





前橋医療圏における都道府県がん診療連携拠点病院
及び地域がん診療連携拠点病院の推薦について

★県拠点	群馬大学医学部附属病院
地域拠点	前橋赤十字病院



群馬大学医学部附属病院

- ・ 拠点病院が空白となる医療圏(沼田・吾妻)のカバー
- ・ 県独自指定病院への支援
- ・ 医療従事者の人材育成及び高度医療の普及啓発



前橋赤十字病院

- ・ 優れたチーム医療の地域への普及
- ・ 拠点病院が汎用的に活用できる、地域連携クリティカルパスの提案

機能的役割分担

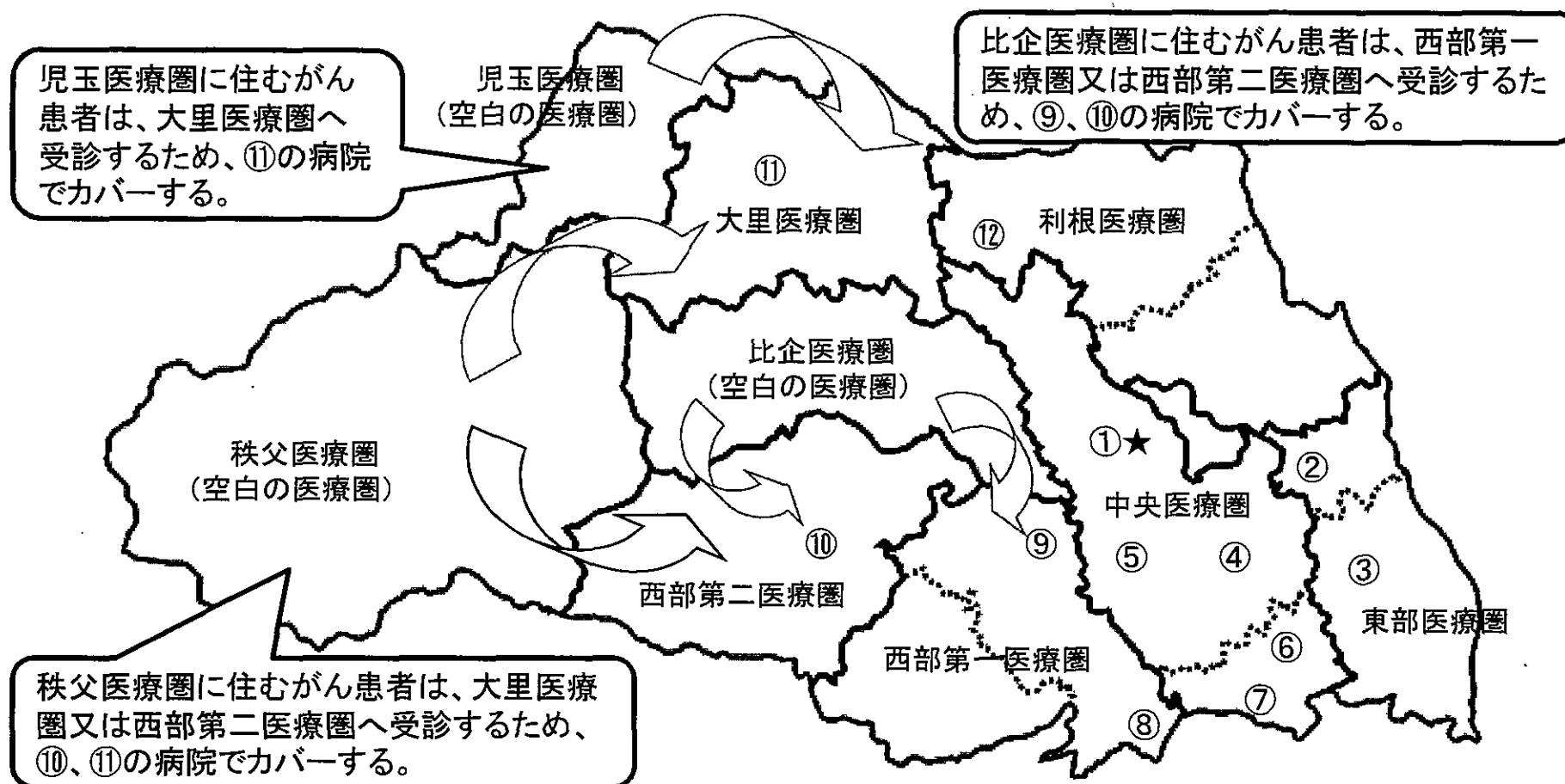
相乗効果

緩和ケア研修会受講者の増加

- ～2拠点病院が実施することによる研修会開催回数の増加～
- ～群馬大学は空白の医療圏を含む県内全域の研修会を牽引～

1 1 埼玉県

埼玉県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



- ①★埼玉県立がんセンター(平成20年2月8日)
- ②春日部市立病院(平成19年1月31日)
- ③獨協医科大学越谷病院(平成20年2月8日)
- ④さいたま市立病院(平成19年1月31日)
- ⑤さいたま赤十字病院(平成20年2月8日)
- ⑥川口市立医療センター(平成20年2月8日)

- ⑦済生会川口総合病院(平成21年2月3日)
- ⑧国立病院機構埼玉病院(平成20年2月8日)
- ⑨埼玉医大総合医療センター(平成19年1月31日)
- ⑩埼玉医大国際医療センター(平成20年2月8日)
- ⑪深谷赤十字病院(平成18年8月24日)
- ⑫行田総合病院(平成19年1月31日)

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料 2

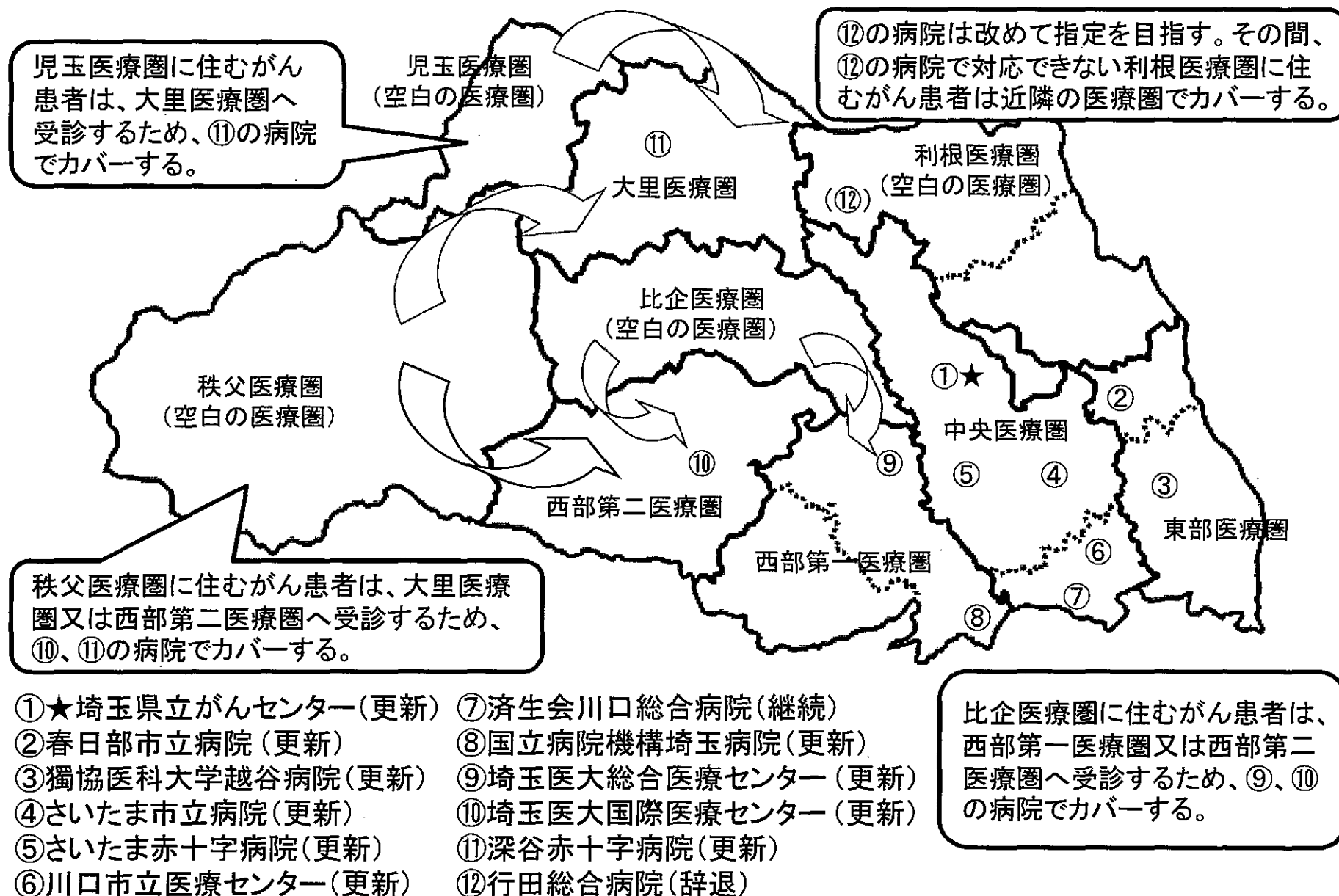
都道府県 or 地域			申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		治療件数(手術件数)6~7月の集計												放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月~7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 センター	地域 連携
					年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ~12 月)	年間 新入 院患 者に 占め るが ん患 者の 割合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月~12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する 新規診 療依頼 数 (6~7 月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数 (6~7 月の 集計)	退院 時共 同指 導料 2 (6~7 月の 集計)	
								開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜切 除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
1	★	更新	県立がん センター	(2270) 7840	(99.0) 94.9	(390) 370	(6) 10	(17) 17	(34) 37	(38) 36	(27) 24	(0) 0	(2) 8	(50) 5	(81) 64	(3) 0	(1309) 1407	(50) 65	(894) 236	(2026) 2162	(48) 23	(2285) 2248	(0) 0		
2		更新	春日部市 立病院	(940) 1121	(22.4) 27.0	(40) 54	(1) 0	(1) 0	(3) 6	(1) 0	(4) 5	(2) 1	(3) 3	(0) 0	(6) 9	(0) 0	(137) 281	(0) 0	(45) 48	(199) 149	(2) 5	(414) 201	(0) 0		
3		更新	獨協医科 大学越谷 病院	(2709) 2520	(19.0) 18.0	(47) 170	(3) 0	(1) 9	(27) 15	(0) 0	(20) 15	(5) 1	(1) 5	(0) 0	(20) 22	(0) 0	(508) 533	(0) 0	(190) 197	(454) 256	(30) 52	(4) 26	(0) 0		
4		更新	さいたま市 立病院	(1378) 2126	(12.3) 1.9	(58) 72	(2) 0	(6) 6	(5) 13	(0) 0	(16) 12	(0) 16	(1) 0	(0) 0	(4) 3	(0) 0	(192) 162	(36) 6	(119) 137	(88) 128	(6) 13	(27) 24	(29) 11		
5		更新	埼玉赤十 字病院	(2677) 2726	(13.2) 19.0	(117) 142	(5) 5	(0) 6	(11) 19	(2) 1	(18) 25	(0) 11	(7) 7	(4) 6	(31) 32	(0) 0	(118) 284	(0) 0	(92) 188	(180) 195	(1) 15	(13) 55	(0) 0		
6		更新	川口市立 医療セン ター	(703) 1733	(6.6) 16.5	(70) 254	(0) 7	(11) 1	(7) 10	(1) 0	(3) 13	(3) 3	(1) 3	(0) 2	(21) 22	(0) 0	(324) 257	(9) 10	(100) 88	(240) 144	(3) 7	(21) 81	(0) 0		
7		現況	済生会川 口総合病 院	(2176) 2019	(22.5) 20.6	(84) 88	(0) 0	(0) 0	(9) 11	(1) 1	(6) 11	(1) 2	(2) 0	(3) 0	(6) 7	(0) 0	(656) 132	(0) 0	(69) 117	(89) 179	(1) 6	(5) 35	(0) 0		

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料 2

都道府 府 or 地域	申請 区 分	病院名	年間入院患 者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院者 数に める がん 患者 の割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チー ムに 対す る新 規診 療依 頼数 (6～7 月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数(6 ～7月 の集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)	
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜切 除術 (EMR)	開腹手 術	内視 鏡手 術	開腹手 術	ラジオ 波焼 灼療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うも の	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数				
8	更新	国立病院 機構埼玉 病院	(1319) 1564	(17.7) 21.2	(62) 74	(0) 0	(0) 6	(9) 10	(0) 0	(7) 13	(0) 6	(7) 1	(1) 1	(0) 4	(0) 0	(193) 213	(85) 89	(36) 53	(147) 138	(14) 19	(20) 36	(0) 0	
9	更新	埼玉医大 総合医療 センター	(680) 1070	(4.0) 6.3	(276) 165	(2) 1	(9) 19	(20) 15	(0) 0	(36) 12	(0) 2	(1) 9	(1) 3	(16) 17	(0) 0	(778) 796	(37) 21	(233) 249	(262) 348	(7) 9	(27) 39	(0) 0	
10	更新	埼玉医大 国際医療 センター	(4490) 3719	(51.7) 54.3	(303) 368	(11) 19	(10) 4	(31) 29	(0) 0	(33) 19	(81) 15	(5) 8	(0) 2	(31) 60	(0) 0	(478) 939	(71) 138	(823) 1545	(1197) 1333	(6) 12	(417) 506	(0) 0	
11	更新	深谷赤十 字病院	(1701) 1725	(16.3) 20.0	(59) 99	(2) 2	(1) 2	(6) 7	(0) 1	(15) 8	(6) 14	(1) 2	(0) 0	(14) 22	(0) 0	(175) 175	(0) 0	(119) 128	(74) 96	(17) 14	(50) 20	(0) 1	
12	辞退	行田総合 病院	(408) 356	(12.0) 10.2	(68) 48	(0) 0	(0) 0	(12) 3	(0) 0	(4) 0	(2) 2	(0) 0	(2) 2	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(19) 11	(219) 282	(5) 4	(11) 10	(0) 0	

埼玉県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向





埼玉県 指定推薦等に係る考え方

1 埼玉県の特色

人口約717万人(全国第5位)

人口100万人を越える二次医療圏が3つ存在(東部、中央、西部第一)



人口のほか、日常生活圏、交通条件、生活基盤の整備状況等総合的な観点から勘案し、4つの二次医療圏にそれぞれ2つの「副次圏」を設定

※保健・医療・福祉に関する地域の中核機関である福祉保健総合センター・保健所の管轄区域も副次圏ごとに設置している。

地域がん診療連携拠点病院についても、総合的な観点から勘案し、二次医療圏内において1つの医療機関で対応することが難しいと考えられる場合は「副次圏」を単位として設定

2 同一医療圏に複数施設を設置している例

例1) 東部保健医療圏【春日部市立病院、獨協医科大学越谷病院】

【獨協医科大学越谷病院】

5大がんを中心とした多岐にわたる悪性腫瘍に対して、外科的治療、化学療法、放射線治療のいずれにおいても大学病院としての高い医療水準のがん治療を実施している。

【春日部市立病院】

血液がん、口腔がん等他病院での手薄な部分を補完するとともに、初診から末期がん在宅医療まで、大学病院では困難と思われるがん医療を実施している。

例2) 中央保健医療圏(南)【川口市立医療センター、済生会川口総合病院】

【川口市立医療センター】

埼玉県内で最新式の遠隔操作式小線源治療装置(ラルス)や最新のリニアックを導入して高度な放射線治療を実施している。また、乳がんや肺がんの手術件数が多く、済生会川口総合病院をはじめ、近隣の病院からの紹介を多数受けている。

【済生会川口総合病院】

画像診断では県内有数のPET-CTを導入しており、川口市立医療センターをはじめ、県南東部の各がん診療連携拠点病院からPET-CTの紹介を多数受けている。

例3) 西部第一医療圏【国立病院機構埼玉病院、埼玉医大総合医療センター】

西部第一医療圏だけでも人口100万人を超える大きな医療圏であるほか、隣接する比企保健医療圏が空白地域であることから、同地域を補完するためにも、両病院の指定更新により、質の高いがん医療提供体制を維持していく必要がある。

3 理由書が必要な拠点病院

【済生会川口総合病院(現況報告:平成21年2月3日新規指定)】

1 未充足項目

がん対策情報センター相談支援センター相談員基礎研修会(1)(2)の修了者

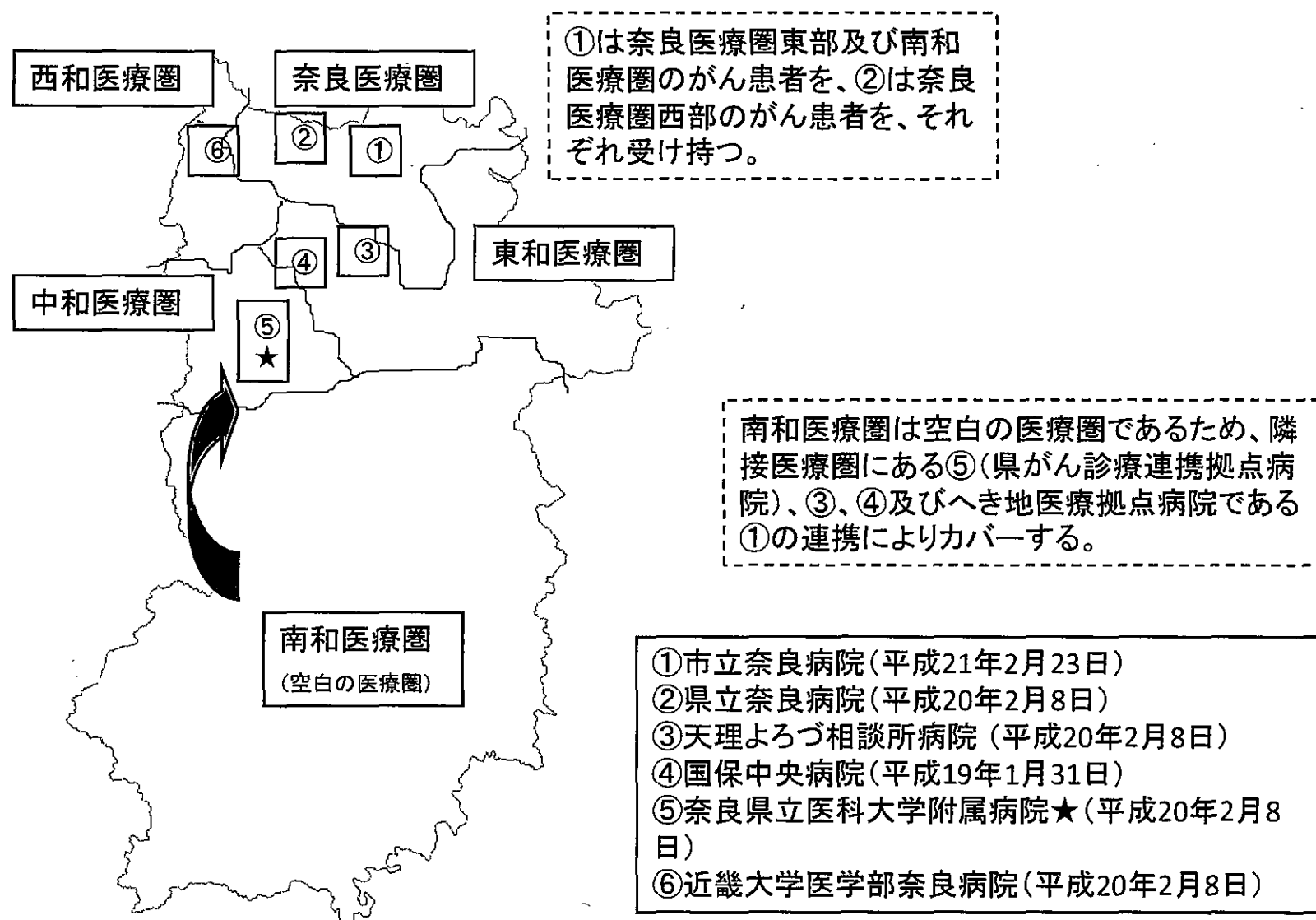
2 充足可能時期

平成22年3月に、基礎研修会(1)(2)の修了者を新たに採用予定。



29 奈良県

奈良県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

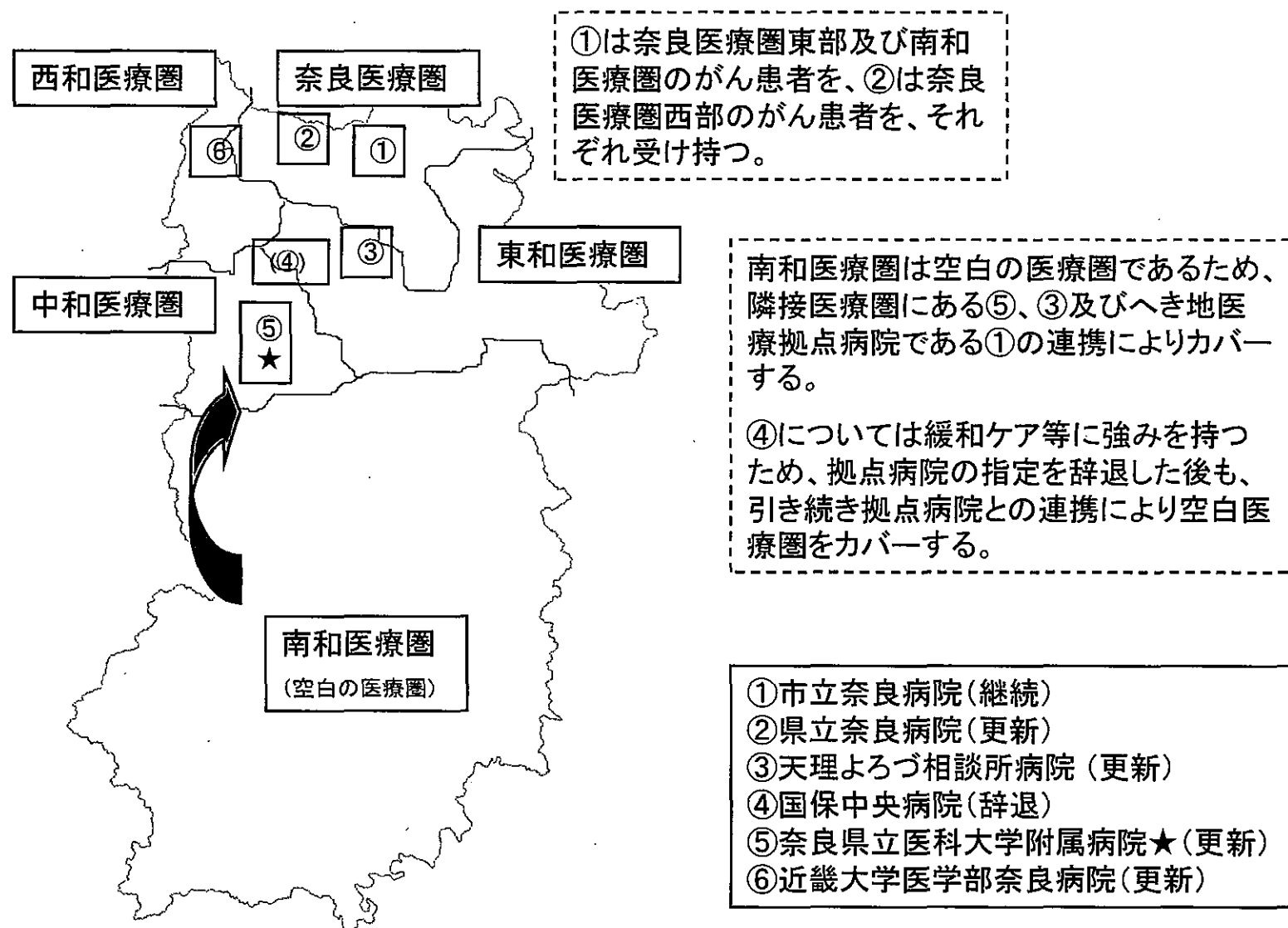


資料 2

※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

			年間入院患者数の状況	治療件数(手術件数)6～7月の集計														放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月～7月の集計)		緩和ケア	相談支援センター	地域連携
都道府県 or 地域	申請区分	病院名	年間 新入院 がん患者 数(1月～12月)	年間 新入院 患者数に 占める がん患者 の割合 (%)	悪性 腫瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チームに 対する 新規診療 依頼数 (6～7月 の集計)	相談 支援セン ター相 談件数 (6～7月 の集計)	退院 時共同 指導料2 (6～7月 の集計)		
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手術 粘膜 切除術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行うもの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数					
1	継続	市立奈良病院	(942) 1637	(16.6) 27.1	(60) 119	(0) 0	(0) 0	(5) 8	(0) 6	(9) 16	(16) 18	(1) 4	(3) 9	(27) 29	(0) 0	(106) 224	(0) 0	(102) 58	(232) 173	(4) 7	(0) 93	(0) 0		
2	更新	県立奈良病院	(1768) 1753	(23.0) 22.1	(102) 105	(2) 5	(11) 7	(8) 12	(0) 0	(5) 7	(2) 0	(0) 0	(2) 2	(1) 1	(0) 0	(119) 134	(0) 0	(59) 89	(114) 92	(15) 14	(2) 71	(0) 0		
3	更新	天理よろづ相談所病院	(4097) 4197	(27.2) 28.3	(187) 334	(9) 18	(28) 29	(16) 13	(0) 2	(1) 0	(5) 6	(4) 6	(14) 13	(20) 24	(1) 0	(603) 654	(15) 11	(357) 412	(220) 1133	(14) 15	(69) 50	(0) 0		
4	辞退	国保中央病院	(565) 416	(17.1) 12.3	(19) 16	(0) 0	(2) 1	(1) 2	(0) 0	(2) 1	(4) 0	(0) 2	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(21) 27	(87) 163	(18) 11	(156) 101	(0) 10		
5	★	更新	県立医科大学附属院	(3143) 3683	(25.8) 30.0	(259) 145	(0) 0	(19) 22	(8) 7	(0) 0	(12) 12	(4) 2	(4) 9	(4) 13	(5) 9	(0) 0	(835) 728	(69) 87	(176) 257	(318) 562	(7) 26	(12) 22	(0) 2	
6	更新	近畿大学医学部奈良病院	(1711) 1773	(20.5) 21.5	(87) 167	(1) 2	(0) 6	(14) 13	(0) 4	(9) 15	(6) 55	(0) 0	(7) 2	(12) 2	(2) 2	(201) 200	(0) 0	(126) 134	(146) 187	(20) 7	(94) 9	(0) 0		

奈良県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る奈良県の考え方について

1. 奈良医療圏における拠点病院の役割分担

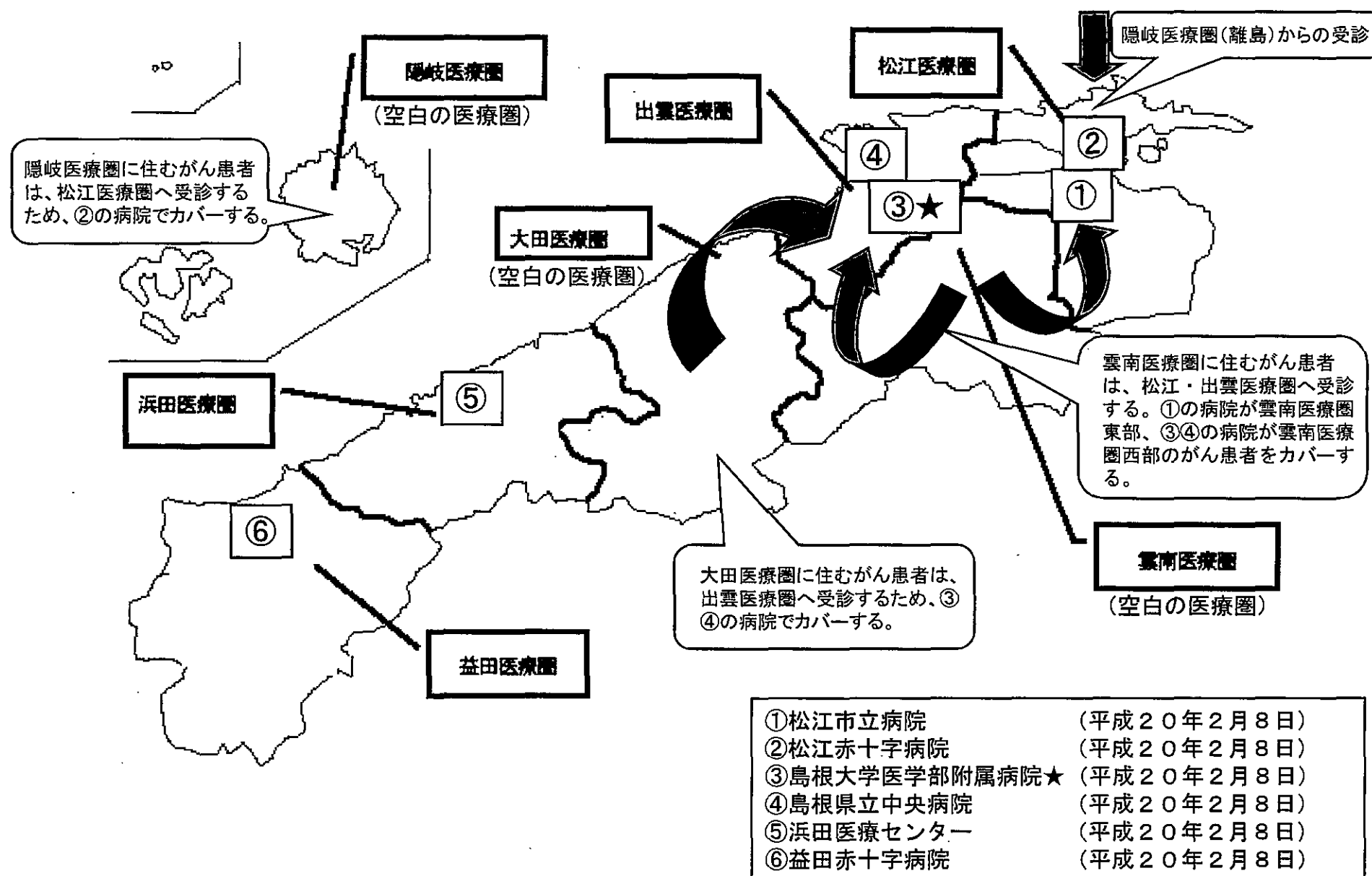
- ① 地域における緩和ケアの推進・普及・人材養成
市立奈良病院：H24年度竣工を目処に、緩和ケア病床を新設
➡ 奈良医療圏唯一の緩和ケア病床として、緩和ケアの推進・普及・人材養成
- ② より高度で専門的ながん医療の提供（得意分野への特化）
県立奈良病院：消化器、肝臓がん
市立奈良病院：乳がん、甲状腺がん及び緩和ケア

2. 南和医療圏（空白の医療圏）へのがん医療の支援

- ① 既存のがん診療連携拠点病院による連携→県全体としてがん医療を分担
（予防及び早期発見、治療、緩和ケア等）

3 2 島 根 県

島根県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

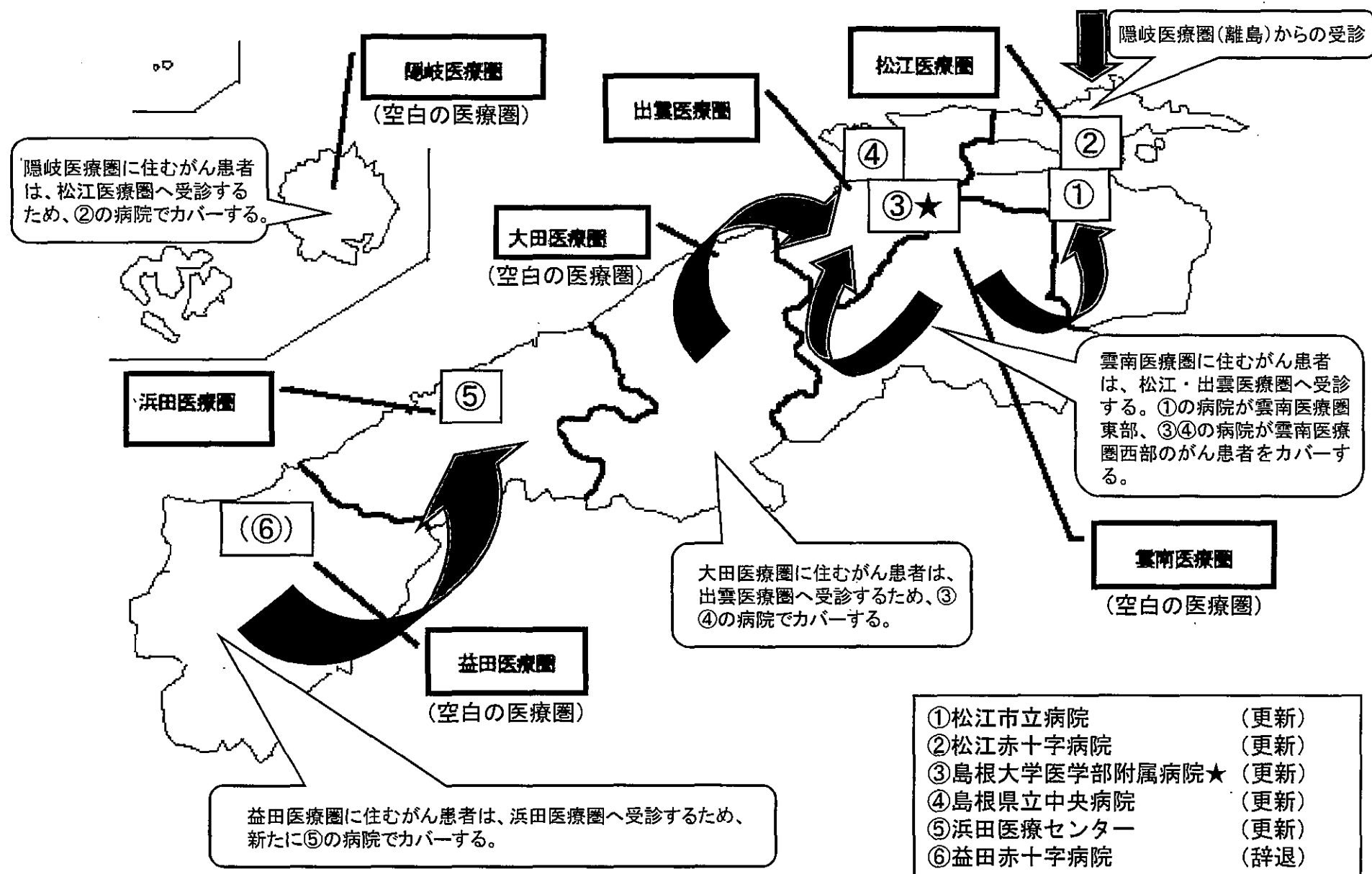


資料 2

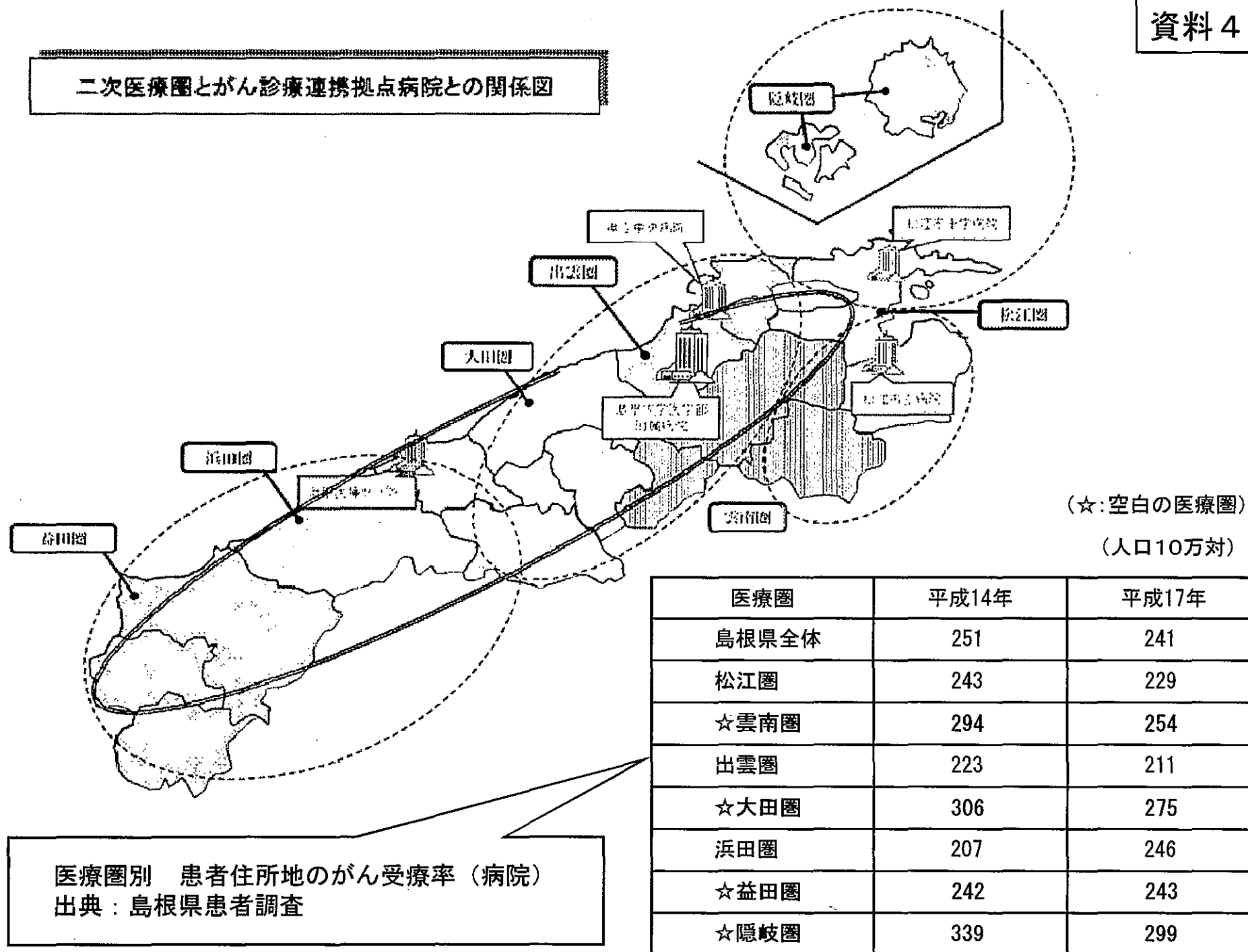
※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

都道府県 or 地域 申請区分 病院名			年間入院患者数の状況	治療件数(手術件数)6～7月の集計														放射線治療		がんに係る薬物療法 (6月～7月の集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携
			年間 新入 院が ん患 者数 (1月 ～12 月)	年間 新入 院患 者数 に占 める がん 患者 の割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規診 療依頼 数(6～ 7月の 集計)	相談 支援 セン ター相 談件 数(6～ 7月の 集計)	退院 時共 同指 導料2 (6～7 月の 集計)		
						開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘膜 切除 術 (EM R)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジオ 波焼 灼療 法	乳癌 手術	乳房 再建 術(乳 房切 除後) 二期 的に 行う もの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数					
1	更新	松江市立病院	(1213) 1405	(15.8) 17.1	(82) 87	(3) 0	(5) 1	(7) 11	(0) 2	(10) 6	(3) 9	(2) 1	(0) 0	(8) 19	(0) 0	(182) 129	(0) 0	(74) 63	(231) 255	(4) 36	(14) 57	(0) 1		
2	更新	松江赤十字病院	(3091) 3262	(25.4) 27.8	(110) 137	(2) 1	(5) 9	(16) 11	(1) 2	(19) 24	(4) 5	(5) 1	(5) 6	(9) 14	(0) 0	(215) 204	(0) 0	(118) 126	(95) 120	(14) 8	(21) 31	(0) 0		
3	★更新	島根大学医学部附属病院	(2941) 3031	(30.0) 31.7	(180) 161	(1) 0	(13) 4	(5) 3	(0) 1	(10) 2	(5) 11	(6) 3	(17) 19	(13) 8	(0) 0	(342) 363	(64) 36	(211) 211	(132) 132	(21) 26	(77) 34	(0) 1		
4	更新	県立中央病院	(2919) 2743	(22.3) 21.5	(149) 162	(6) 0	(4) 2	(10) 17	(1) 0	(4) 12	(23) 29	(3) 2	(11) 13	(21) 16	(0) 0	(171) 186	(0) 0	(149) 166	(137) 169	(8) 4	(239) 131	(0) 0		
5	更新	浜田医療センター	(1503) 1477	(22.7) 22.8	(47) 44	(0) 0	(1) 1	(2) 8	(0) 1	(3) 4	(0) 0	(0) 0	(6) 0	(3) 3	(0) 0	(171) 190	(0) 0	(28) 32	(57) 51	(1) 1	(7) 4	(2) 0		
6	辞退	益田赤十字病院	(662) 576	(11.1) 9.9	(45) 38	(0) 0	(0) 0	(2) 4	(3) 1	(2) 2	(0) 1	(0) 0	(1) 6	(3) 2	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(49) 38	(60) 60	(0) 6	(23) 8	(0) 0		

島根県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



二次医療圏とがん診療連携拠点病院との関係図



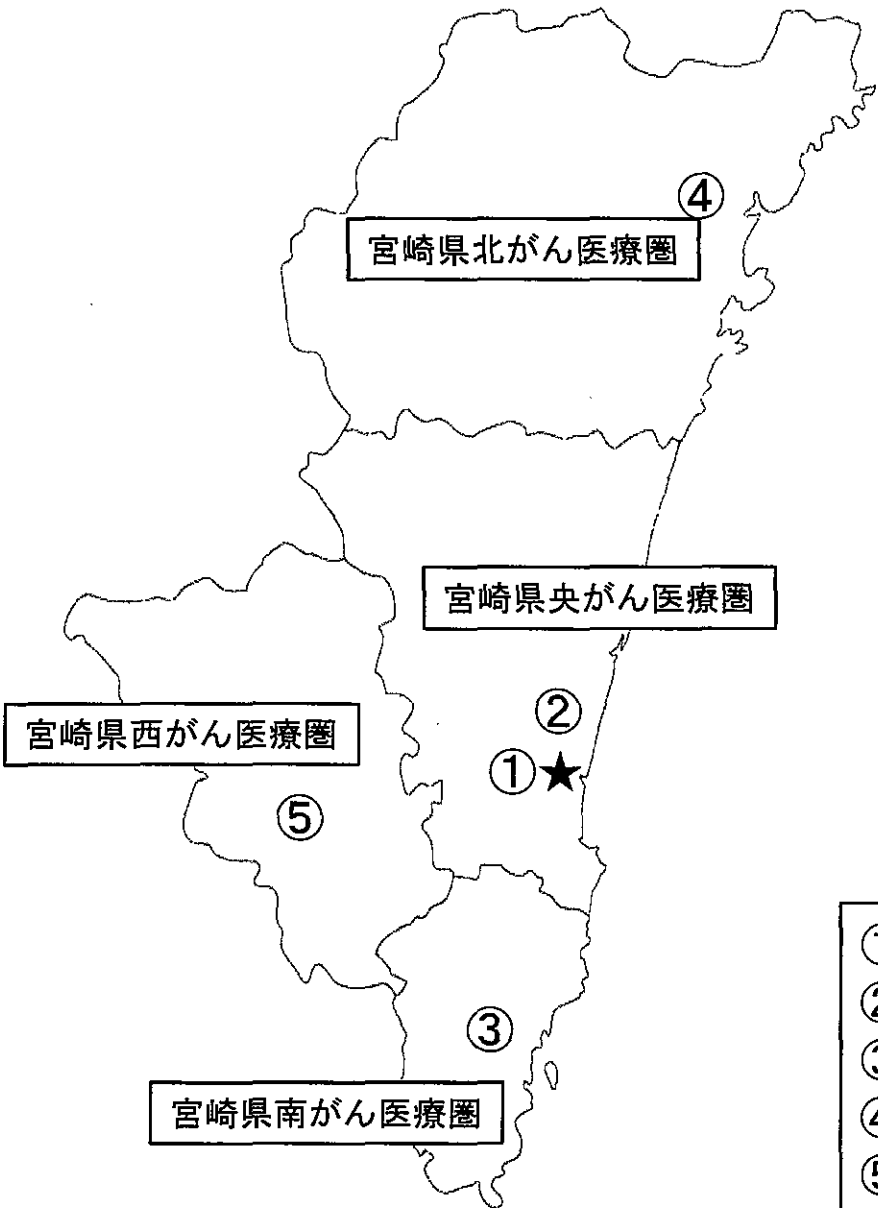
松江・出雲医療圏 各拠点病院がん入院患者 居住地医療圏別割合（平成20年1月～12月）

病院名	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	隠岐圏	その他
松江市立病院	86%	11%	1%	0%	1%	1%
松江赤十字病院	79%	7%	2%	0%	9%	2%
島根大学医学部附属病院 ★	5%	13%	46%	15%	1%	20%
島根県立中央病院	2%	10%	68%	15%	1%	4%

- 松江市立病院
 - ・ 松江医療圏南部の患者に対応しているほか、雲南医療圏東部の患者に対応
- 松江赤十字病院
 - ・ 松江医療圏北部の患者に対応しているほか、隠岐医療圏の患者に対応
- ★ 島根大学医学部附属病院
 - ・ 出雲医療圏の患者に対応しているほか、雲南医療圏西部及び大田医療圏の患者に対応
 - ・ 再発患者、難治性の患者を中心に、県内（浜田医療圏・益田医療圏含む）の患者に対応
- 島根県立中央病院
 - ・ 出雲医療圏の患者に対応しているほか、雲南医療圏西部及び大田医療圏の患者に対応
- 浜田医療センター
 - ・ 浜田医療圏の患者に対応しているほか、益田医療圏の患者に対応

4 5 宮 崎 県

宮崎県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向



- 本県では、従来から7つの2次医療圏を設けているが、がん医療については、その診療の特殊性と専門性に鑑み、2次医療圏の枠を超えた形でのがん医療の提供体制を整備する必要があるため、4つのブロックからなる「がん医療圏」を設定。
- 「宮崎県央がん医療圏」には2つの拠点病院が存在するが、①宮崎大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、県内全域をカバーする機関、②県立宮崎病院は、宮崎県央がん医療圏の中核機関として位置づけ。

二次医療圏		がん医療圏	地域がん診療連携拠点病院	都道府県がん診療連携拠点病院
宮崎県北部 日向入郷	}	県北地区	県立延岡病院	宮崎大学医学部 附属病院
宮崎県東諸県 西都児湯			県央地区	
日南串間		県南地区	県立日南病院	
都城北諸県 西諸	}	県西地区	国立病院機構都城病院	

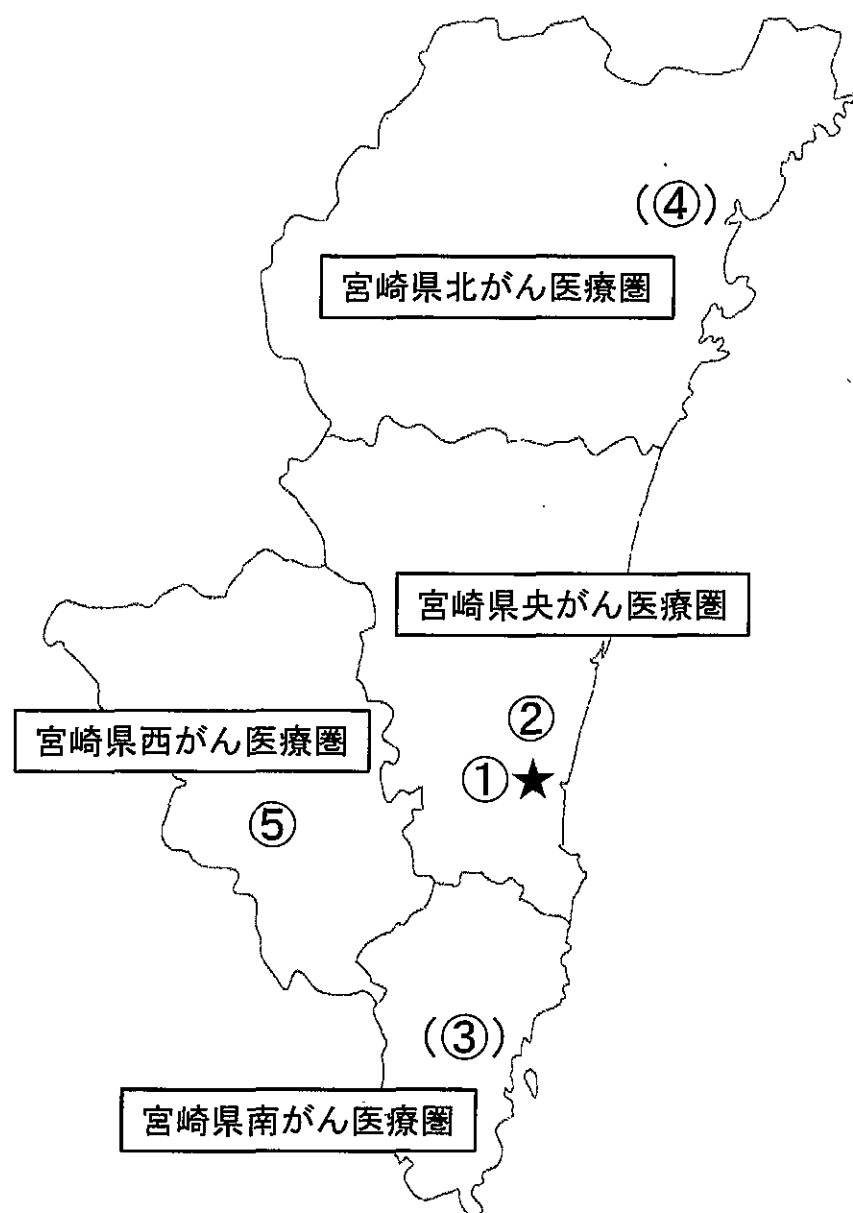
- ①宮崎大学医学部附属病院★（平成20年2月8日）
- ②宮崎県立宮崎病院（平成20年2月8日）
- ③宮崎県立日南病院（平成20年2月8日）
- ④宮崎県立延岡病院（平成20年2月8日）
- ⑤国立病院機構都城病院（平成20年2月8日）

各病院における平成20年9月1日時点と平成21年9月1日時点の診療実績等の比較について

資料 2

都道府県 or 地域				申請 区分	病院 名	年間入院患 者数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計										放射線治療		がんに係る 薬物療法 (6月～7月の 集計)		緩和 ケア	相談 支援 セン ター	地域 連携	
						年間 新入 院が 患者 数 (1 月～ 2月)	年間 新入 院者 数に める がん 患者 の割 合 (%)	悪性 腫瘍 手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手 術		肝臓がん		乳がん		年間患者実 数 (1月～12 月)		薬物療法の べ患者数		緩和 ケア チーム に対する 新規診 療依頼 数 (6～ 7月の 集計)	相談 支援 セン ター 相談 件数 (6～ 7月の 集計)	退院 時共 同指 導料 2 (6～ 7月の 集計)
									開胸 手術	胸腔 鏡下 手術	開腹 手術	内視 鏡手 術 粘 膜 切 除 術 (EMR)	開腹 手術	内視 鏡手 術	開腹 手術	ラジ オ波 焼灼 療法	乳癌 手術	乳房 再建 術 (乳 房切 除 後) 二期 的に 行 う もの	体外 照射	小線 源治 療	入院 患者 数	外来 患者 数			
1	★	更新	宮大 附属 病院	(2331) 1098	(27.6) 12.5	(164) 106	(18) 5	(1) 0	(5) 5	(0) 0	(2) 2	(0) 0	(7) 2	(1) 4	(2) 5	(0) 0	(321) 338	(49) 29	(81) 186	(189) 134	(4) 7	(36) 48	(0) 0		
2		更新	県立 宮崎	(1968) 2146	(21.3) 23.8	(121) 131	(4) 9	(3) 1	(5) 3	(0) 2	(12) 14	(1) 0	(1) 0	(4) 0	(14) 12	(0) 0	(238) 271	(20) 26	(149) 133	(338) 309	(0) 14	(14) 1	(0) 0		
3		辞退	県立 日南 病院	(503) 936	(10.8) 21.1	(31) 31	(0) 0	(3) 1	(8) 7	(1) 0	(8) 5	(1) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 0	(93) 139	(0) 0	(57) 87	(39) 48	(1) 1	(14) 24	(0) 0		
4		辞退	県立 延岡 病院	(1441) 1361	(16.4) 17.1	(48) 33	(34) 0	(0) 3	(3) 1	(1) 0	(7) 3	(0) 1	(1) 0	(5) 0	(2) 3	(0) 0	(164) 179	(0) 0	(145) 96	(117) 37	(0) 1	(19) 72	(0) 0		
5		更新	都城 病院	(359) 1320	(7.7) 28.6	(48) 37	(3) 3	(4) 0	(2) 9	(1) 0	(10) 3	(11) 0	(2) 0	(0) 0	(11) 11	(0) 0	(179) 205	(0) 0	(314) 112	(128) 57	(4) 8	(102) 117	(0) 0		

宮崎県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定推薦等状況	1. 3病院を指定更新推薦。2病院は推薦辞退。 2. 医療圏の考え方については、変更なし。 3. 「宮崎県央がん医療圏」には2つの拠点病院が存在するが、①は、都道府県がん診療連携拠点病院として、県内全域をカバーする機関、②は、宮崎県央がん医療圏の中核機関として位置づけ。 4. 今回の辞退で、2医療圏ががん診療連携拠点病院の空白医療圏となるが、各がん医療圏には、現在のがん診療連携拠点病院以外にがん医療の中核を担える医療機関がなく、各医療圏間の交通インフラも脆弱なため、引き続き辞退2病院も含めた5病院を中心にがん医療に対応する。 (辞退2病院については、再指定に向け体制整備に努める)
患者受療動向	1. 患者住所の医療圏内の病院に入院する割合（がん以外も含む）は、各医療圏とも約9割と高い。 2. 「宮崎県央がん医療圏」は、県内人口の5割近くが集中。
①宮崎大学医学部附属病院★（更新） ②宮崎県立宮崎病院（更新） ③宮崎県立日南病院（辞退） ④宮崎県立延岡病院（辞退） ⑤国立病院機構都城病院（更新）	

今回の指定推薦等に係る都道府県の考え方について

本県がん医療均てん化の制約条件

- 地理的制約 …… 県土が南北に長いうえ、高速道などの交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 …… がん医療の中核を担えるのは現在指定の5病院のみ
- 医師の不足 …… 一部の診療科などでの深刻な医師不足

推薦に当たっての考え方

○7つの2次医療圏の枠を超えた形での4つの「がん医療圏」5病院でのがん医療の提供

宮崎大学医学部附属病院(★都道府県がん診療連携拠点病院)

- ・県内全域をカバー
- ・県内唯一の特定機能病院

県立宮崎病院(県央地区がん医療圏)

- ・がん治療センター設置
- ・県内最多のがん治療件数

県立延岡病院(県北地区がん医療圏・辞退)

- ・県の地域医療支援病院に指定
- ・県土の4割の面積の医療圏をカバー

国立病院機構都城病院(県西地区がん医療圏)

- ・政策医療の中でもがん医療に注力
- ・相談支援体制の充実

県立日南病院(県南地区がん医療圏・辞退)

- ・圏域最多のがん治療実績
- ・かかりつけ医との密接な連携

必須要件の未充足状況について

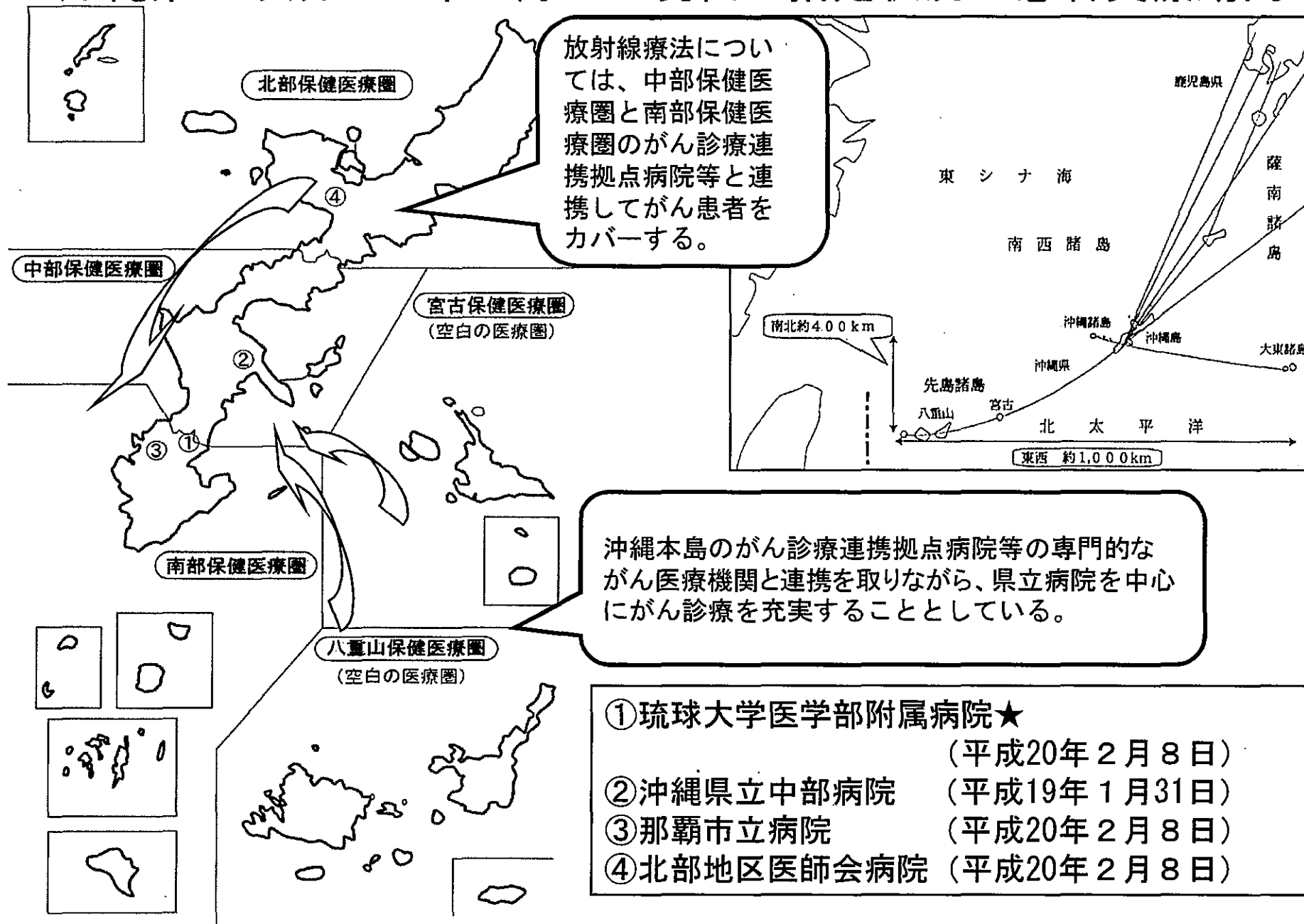
○一部の必須要件が未整備の状況。

○地域医療の抱える問題や、地方における医師・看護師等の深刻な不足など、それぞれの事情を斟酌いただき指定更新について御配慮いただきたい。

病院名	未充足の要件	未充足の状況	未充足の理由・今後の充足の見込み
宮崎大学医学部附属病院	当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が作成している地域連携クリティカルパスの一覧を作成・共有していること	一覧が未作成	●<u>地域連携クリティカルパスが、県内のいずれのがん診療連携拠点病院においても作成されていない状況にあり、一覧が作成できない状況</u> ●宮崎大学医学部が設置する「宮崎県がん診療連携協議会」に地域連携クリティカルパス専門部会を設置したところであり、今後県統一の地域連携クリティカルパスの作成・共有等を行う(平成23年10月末までには、当該要件を充足する予定)
宮崎県立宮崎病院	緩和ケアチームに、専従の緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師を1人以上配置していること	専従看護師が不在	●緩和ケアチームに兼任の看護師は複数いるが、看護師自体が不足しており、常勤看護師の確保が困難な状況 ●平成22年4月から定員増により専従看護師を確保し、要件の充足予定
	相談支援センターに国立がんセンターがん対策情報センターによる研修を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者をそれぞれ1人以上配置していること	専従相談員が研修受講要件を未充足	●相談員が退職後、確保に難航。H21年10月に専従相談員を採用したため、研修受講要件が充足できない状況 ●研修受講要件を満たす相談員もいるが、退院調整などの業務も兼任しており、専従要件を充足できない状況 ●専従相談員については、来年度研修を受講させ要件を充足予定
国立病院機構都城病院	専従の病理診断に携わる医師を1人以上配置していること	専従医師が不在	●常勤医を前提に求人を行っているが、現時点で確保の目処が立っていない ●現在は、非常勤医師(1名)とインターネットによる遠隔診断で対応 ●平成22年4月からは、非常勤医師をさらに1名追加し、術中迅速病理診断等にも不足のない体制を構築する予定

47 沖縄県

沖縄県 平成21年4月1日現在の指定状況と患者受療動向

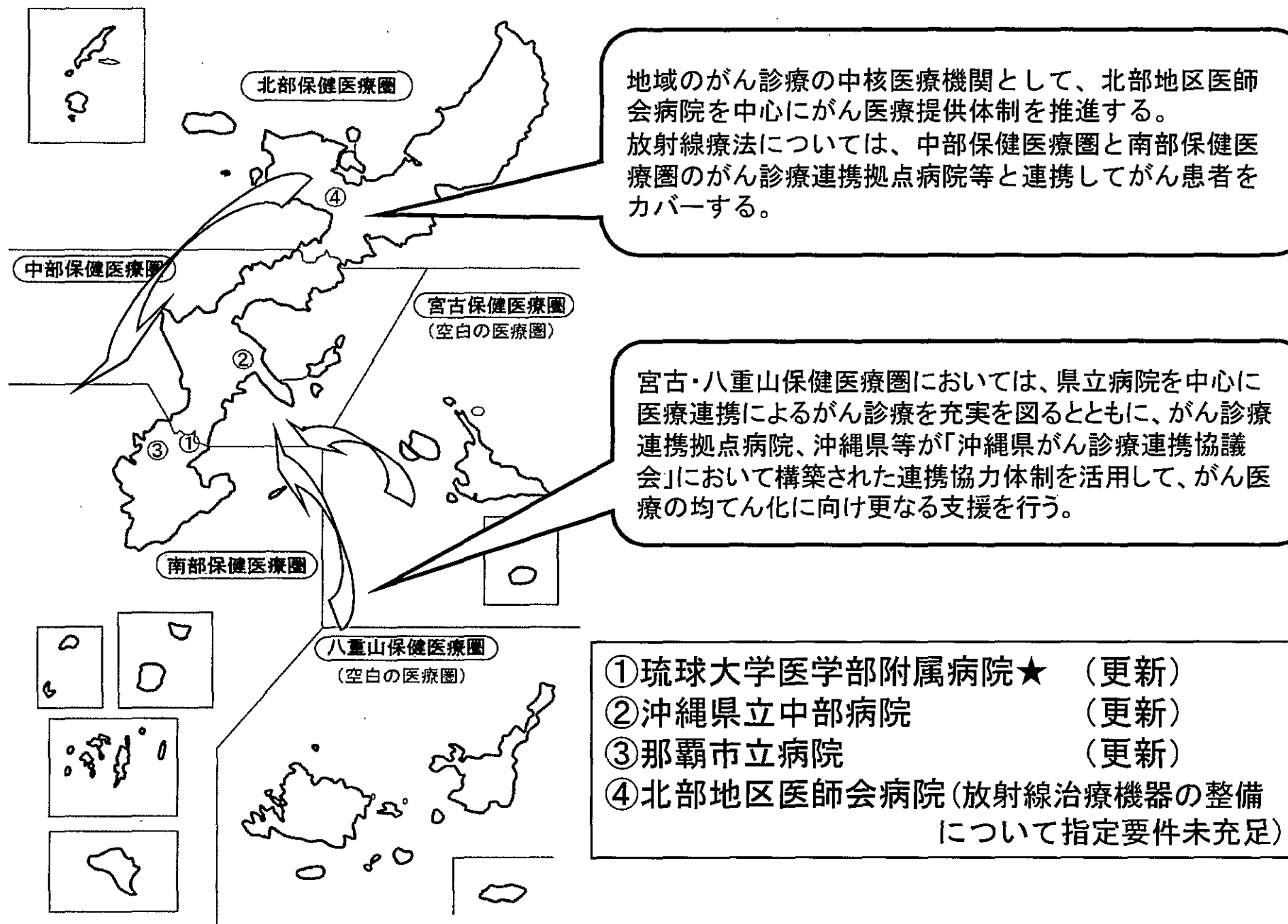


※()内は平成20年10月末提出の数値、下段は平成21年10月末提出の数値 ※申請区分は資料3の作成要領を参照のこと
 ※一枚につき11病院を超える場合には、2枚にわたって表を作成してください。

資料 2

都道府県 or 地域	申請 区分	病院名	年間入院患者 数の状況		治療件数(手術件数)6～7月の集計												放射線治療		がんに係る薬 物療法 (6～7月の集 計)		緩和ケ ア	相談支 援セン ター	地域連 携
			年間新 入院が ん患者 数(1月 ～12 月)	年間新 入院患 者数に 占める がん患 者の割 合(%)	悪性腫 瘍手術 総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん		年間患者実数 (1月～12月)		薬物療法のべ 患者数		緩和ケ アチー ムに対 する新 規診療 依頼数 (6～7 月の集 計)	相談支 援セン ター相 談件数 (6～7 月の集 計)	退院時 協同指 導料2 (6～7 月の集 計)	
						開経手 術	胸腔鏡 下手術	開腹手 術	内視鏡 手術 粘膜切 除術 (EMR)	開腹手 術	内視鏡 手術	開腹手 術	ラジオ 波焼灼 療法	乳癌手 術	乳房再 建術 (乳房 切除 後)二 期的に 行うも の	体外照 射	小線源 治療	入院患 者数	外来患 者数				
1	★	更新	琉球大学医学部附属病院	(2,088) 1,468	(24.7) 16.9	(160) 145	(0) 0	(1) 3	(0) 2	(0) 1	(5) 7	(1) 0	(3) 10	(0) 1	(3) 5	(0) 0	(456) 458	(0) 0	(0) 52	(0) 86	(8) 31	(0) 5	(0) 0
2		更新	沖縄県立中部病院	(1,477) 2,243	(9.9) 16	(50) 41	(0) 2	(2) 1	(4) 1	(0) 0	(16) 2	(1) 3	(2) 0	(0) 0	(6) 2	(0) 0	(218) 255	(0) 0	(73) 52	(61) 80	(17) 16	(36) 30	(4) 7
3		更新	那覇市立病院	(611) 359	(5.9) 7.3	(66) 104	(0) 2	(0) 0	(2) 3	(0) 0	(1) 5	(0) 0	(0) 0	(0) 2	(10) 8	(0) 0	(162) 221	(0) 0	(60) 55	(50) 69	(9) 19	(43) 29	(0) 8
4		辞退	北部地区医師会病院	(687) 497	(13.2) 10.6	(5) 15	(1) 0	(0) 0	(2) 1	(0) 0	(1) 2	(0) 4	(0) 0	(1) 0	(7) 6	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(14) 47	(60) 40	(8) 3	(5) 16	(0) 0

沖縄県 平成22年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1 がん診療連携拠点病院の整備に関する基本的な考え方

沖縄県では、これまで県内の5つの2次医療圏中、平成18年度までに沖縄本島3医療圏（北部・中部・南部保健医療圏）で地域がん診療連携拠点病院を整備し、平成19年度には都道府県がん診療連携拠点病院の整備を行い、がん医療の均てん化を推進してきました。

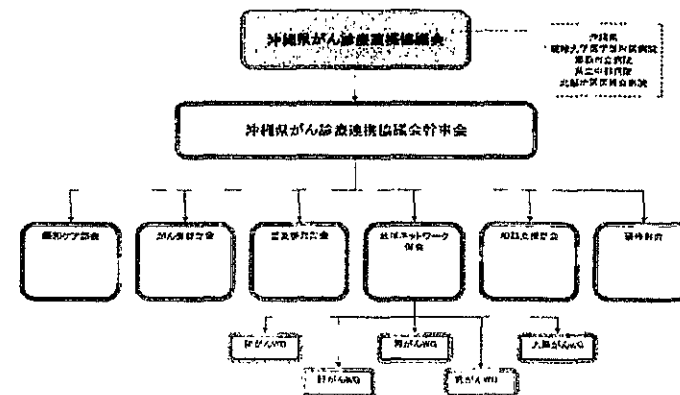
平成20年3月に策定した「沖縄県がん対策推進計画」においても、がん診療連携拠点病院を中心的役割として位置づけ、がん医療対策の総合的かつ計画的な推進を図ることとしており、平成20年度から都道府県がん診療連携拠点病院である琉球大学医学部附属病院に設置している「沖縄県がん診療連携協議会」において、がん診療連携拠点病院を中心に、県、専門的がん医療機関、関係団体等の連携協力体制のもと、がん医療提供体制の構築が図られつつあるところです。

本県の全てのがん診療連携拠点病院については、平成20年3月に示された「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」に基づき、平成21年度末までの「みなし指定」となっておりますが、各保健圏域におけるがん医療提供体制及び指定充足状況等を勘案し、指定更新の推薦を行うこととしております。

2 沖縄県のがん医療対策におけるがん診療連携拠点病院の取組

本県のがん医療対策については、沖縄県がん診療連携協議会及び専門部会において、がん診療連携拠点病院が連携し、県、専門的がん医療機関、関係団体等の協力体制のもと、「緩和ケア」については、国の指針に基づくがん診療を担う医師を対象とした緩和ケア研修会の各保健医療圏域での企画・実施、緩和ケアに関する意識調査及び現況調査の企画、「地域がん診療体制の構築」については、平成21年11月20日に5大がんに関する地域連携クリティカルパスの作成・医師等を対象とした研修会の開催、がん早期診断のための医師向け研修会の企画・実施、「相談支援」については、県全体のがん種別セカンドオピニオンリストの作成、各医療機関のがん相談実務者リストの作成によるネットワークの構築、がん患者向け情報書（がん患者必携）の作成を行っております。また、がん検診等の普及啓発、がん登録、各がん診療連携拠点病院でのがん患者サロン・タウンミーティングの開催を行うなど、中心的役割を担っております。

さらに、離島医療圏域（宮古・八重山保健医療圏）においても、県立病院と連携して平成22年2月に緩和ケア研修会の開催、地域連携クリティカルパスの研修会の開催を予定しており、がん医療の均てん化推進に積極的な取組を実施しているところです。



3 がん診療連携拠点病院の概要

(1) 琉球大学医学部附属病院（都道府県がん診療連携拠点病院）

琉球大学医学部附属病院は、平成20年2月に都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、「沖縄県がん診療連携協議会」を設置し、地域がん診療連携拠点病院等と連携して、離島医療圏を含め本県のがん医療提供体制の構築に積極的に取組むなど、中核的な医療機関として機能しています。また、県内唯一の医師養成機関であり、文部科学省の「九州がんプロフェッショナル養成プラン」に参加しているほか、がん専門薬剤師研修施設の認定を受けており、県内における質の高いがん医療の確保に貢献しております。

拠点病院の指定要件については、5大がんに関する院内クリティカルパスの整備について、電子カルテシステムへの移行に伴う不具合により、未整備の状況となっておりますが、平成21年1月までには整備を行う予定となっております、より高度ながん医療の提供、専門医師等の育成、地域医療機関への診療支援など、今後も本県においてがん診療体制の中核的役割を担っていくことが期待されています。

(2) 沖縄県立中部病院（地域がん診療連携拠点病院：中部保健医療圏）

県立中部病院は、本県医療の基幹的機能を有する病院として、全圏域を対象に救命救急機能や高度・特殊医療を提供する役割を担うとともに、平成19年1月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、これまで、集学的治療による診療体制、緩和ケア体制の確保、がん診療従事者への研修体制、相談支援体制の整備など、中部圏域におけるがん医療の均てん化を推進してきました。さらに、放射線治療に関しては北部医療圏の地域拠点病院や中部医療圏内の他の地域医療支援病院からも依頼を受けるなど中心的な役割を果たしています。

指定要件の充足状況については、5大がんに関する院内クリティカルパスの整備について、未整備の状況となっておりますが、平成21年12月に整備しており、今後も中部保健医療圏のがん診療体制の中心的役割を担っていくことが期待されています。

(3) 那覇市立病院（地域がん診療連携拠点病院：南部保健医療圏）

那覇市立病院は平成17年1月にがん診療連携拠点病院の指定を受け、平成20年2月に指定更新を行っております。

これまで、集学的治療による診療体制、緩和ケア体制の確保、がん診療従事者への研修体制、相談支援体制の整備など、がん医療の均てん化を推進するとともに、がん患者サロンの設置を行うなど積極的ながん患者支援の強化を図っています。

今後も本県南部保健医療圏のがん診療体制の中心的役割を担っていくことが期待されています。

(4) 北部地区医師会病院（地域がん診療連携拠点病院：北部保健医療圏）

北部地区医師会病院は、平成17年1月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、平成20年2月に指定更新を行っており、本県の北部保健医療圏域のがん診療体制の中心的役割を担っています。

指定要件である、放射線治療機器および設置室の整備については、放射線療法の診療従事者の配置も含め、当該病院、県及び県内のがん専門化で構成する沖縄県がん診療連携拠点病院検討会の中で検討を進めてきました。

その結果、本県において、すでに近隣の中部圏域2台、南部圏域5台のリニアックが整備されており、当該病院が県内の地域がん診療連携拠点病院と連携しながら放射線治療を提供している現状であることと等から、当該北部保健医療圏域における治療手段としてのリニアック等高額医療機器の整備の必要性は低いと判断しております。

集学的治療の提供体制と標準的治療の提供については、肺がん以外の手術療法、化学療法の実施、相談支援や緩和ケアチームにて対応を行っており、肺がんについては、手術は現在実施できておりませんが、化学療法が必要な患者については当該病院で実施するなど、他の医療機関と連携を取りながら集学的治療の提供及び標準的治療等の提供を行っております。また、呼吸器外科開設についても現在検討している状況です。

今後も、各がん診療連携拠点病院等との連携協力により継続的な専門的がん医療を提供する体制の構築、緩和ケア体制の確保など、北部保健医療圏域におけるがん医療の均てん化の推進を担うことが期待されています。